

改正理由	一部改正	改 正 現 行	備 考
	現 行	改 正	
	令和7年度土木工事数量算出要領 目次	令和8年度土木工事数量算出要領 目次	
	第1編(共通編) 1 1章 基本事項 1-1-1 1.1 適用範囲 1-1-2 1.2 数量計算方法 1-1-2 1.3 構造物の数量から控除しないもの 1-1-3 1.4 構造物数量に加算しないもの 1-1-3 1.5 数量計算の単位及び数位 1-1-4 1.6 設計表示単位及び数位 1-1-5 1.7 図面表示単位 1-1-3 7 1.8 単位体積質量 1-1-3 7 1.9 数量の算出 1-1-3 8 1.10 3次元モデルによる数量算出方法 1-1-3 9 2章 土工 1-2-1 2.1 土工 1-2-2 2.1.1 土工 1-2-2 2.1.2 作業土工 1-2-1 2 2.2 安定処理工 1-2-1 9 2.2.1 安定処理工 1-2-1 9 2.2.2 安定処理工(自走式土質改良工) 1-2-2 1 2.3 法面整形工 1-2-2 2 3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 1-3-1 3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 1-3-2 4章 コンクリート工 1-4-1 4.1 コンクリート工 1-4-2 4.2 型枠工 1-4-5 4.2.1 型枠工 1-4-5 4.2.2 型枠工(省力化構造) 1-4-8 4.3 鉄筋工 1-4-9 4.3.1 鉄筋工 1-4-9 4.3.2 ガス圧接 1-4-1 2 4.4 張りコンクリート工 1-4-1 3 5章 法覆工 1-5-1 5.1 法枠工 1-5-2 5.1.1 プレキャスト法枠工 1-5-2 5.1.2 現場打法枠工 1-5-4 5.1.3 吹付枠工 1-5-6 5.1.4 プレキャストコンクリート板設置工 1-5-9 5.2 吹付工 1-5-1 1 5.3 植生工 1-5-1 2 5.4 コンクリートブロック積(張)工 1-5-1 4	第1編(共通編) 1 1章 基本事項 1-1-1 1.1 適用範囲 1-1-2 1.2 数量計算方法 1-1-2 1.3 構造物の数量から控除しないもの 1-1-3 1.4 構造物の数量に加算しないもの 1-1-3 1.5 数量計算の単位及び数位 1-1-4 1.6 設計表示単位及び数位 1-1-5 1.7 図面表示単位 1-1-3 6 1.8 単位体積質量 1-1-3 6 1.9 数量の算出 1-1-3 7 1.10 3次元モデルによる数量算出方法 1-1-3 8 2章 土工 1-2-1 2.1 土工 1-2-2 2.1.1 土工 1-2-2 2.1.2 作業土工 1-2-1 4 2.2 安定処理工 1-2-2 1 2.2.1 安定処理工 1-2-2 1 2.2.2 安定処理工(自走式土質改良工) 1-2-2 3 2.3 法面整形工 1-2-2 4 } 現行どおり 4章 コンクリート工 1-4-1 4.1 コンクリート工 1-4-2 4.2 型枠工 1-4-5 4.2.1 型枠工 1-4-5 4.2.2 型枠工(省力化構造) 1-4-8 4.3 鉄筋工 1-4-9 4.3.1 鉄筋工 1-4-9 4.3.2 ガス圧接継手・機械式継手 1-4-1 1 4.4 張りコンクリート工 1-4-1 2 } 現行どおり	記載の変更
	i		
注意事項			(控え頁) 1/8

工 種	基本事項
-----	------

改正理由	一部改正		改正		備考
	現	行	改	正	
	11.6.2 雪寒仮囲い工	1-11-25	11.6.2 雪寒仮囲い工	1-11-25	記載の変更
	11.7 土のう工	1-11-30	11.7 土のう工	1-11-30	
	11.8 切土及び発破防護柵工	1-11-31	11.8 切土及び発破防護柵工	1-11-32	
	11.9 汚濁防止フェンス工	1-11-33	11.9 汚濁防止フェンス工	1-11-34	
	11.10 アンカー工(ロータリーパーカッション式)	1-11-34	11.10 アンカー工(ロータリーパーカッション式)	1-11-35	
	11.11 鉄筋挿入工(ロックボルト工)	1-11-37	11.11 鉄筋挿入工(ロックボルト工)	1-11-38	
	11.12 ウェルポイント工	1-11-40	11.12 ウェルポイント工	1-11-41	
	11.13 敷鉄板設置撤去工	1-11-41	11.13 敷鉄板設置撤去工	1-11-42	
	12章 構造物補修工	1-12-1	} 現行どおり		
	12.1 ひび割れ補修工(充てん工法)	1-12-2			
	12.2 ひび割れ補修工(低圧注入工法)	1-12-3			
	12.3 断面修復工(左官工法)	1-12-4			
	13章 排水材設置工	1-13-1			
	13.1 排水材設置工(構造物背面排水材)	1-13-2			
	13.2 排水材設置工(水平排水層)	1-13-3			
	第2編(河川・砂防編)	2	第2編(河川・砂防編)	2	記載の変更
	1章 護岸根固め工	2-1-1	1章 護岸根固め工	2-1-1	
	1.1 消波根固めブロック工	2-1-2	1.1 消波根固めブロック工	2-1-2	
	1.1.1 消波根固めブロック工	2-1-2	1.1.1 消波根固めブロック工	2-1-2	
	1.1.2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)	2-1-5	1.1.2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)	2-1-5	
	1.2 沈床工	2-1-6	1.2 沈床工	2-1-6	
	1.3 かご工	2-1-7	1.3 かご工	2-1-7	
	1.4 捨石工(河川海岸)	2-1-9	1.4 捨石工(河川海岸)	2-1-9	
	1.5 護岸基礎ブロック工	2-1-10	1.5 護岸基礎ブロック工	2-1-11	
	2章 樋門・樋管	2-2-1	} 現行どおり		
	2.1 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管	2-2-2			
	3章 浚渫工	2-3-1			
	3.1 浚渫工(バックホウ浚渫船)	2-3-2			
	4章 河川維持工	2-4-1	4章 河川維持工	2-4-1	
	4.1 堤防除草工	2-4-2	4.1 堤防除草工	2-4-2	
	4.2 堤防芝養生工	2-4-5	4.2 堤防芝養生工	2-4-5	
	4.3 伐木除根工	2-4-6	4.3 伐木除根工	2-4-6	
	4.4 塵芥処理工	2-4-9	4.4 塵芥処理工	2-4-9	
	4.5 ボーリンググラウト工	2-4-10	4.5 ボーリンググラウト工	2-4-10	
	4.6 木杭打工	2-4-15	4.5 木杭打工	2-4-11	
	4.7 袋詰玉石工	2-4-16	4.6 袋詰玉石工	2-4-12	
	4.8 笠コンクリートブロック据付工	2-4-17	4.7 笠コンクリートブロック据付工	2-4-13	
	4.9 グラウトホール工	2-4-18	4.8 グラウトホール工	2-4-14	
	5章 砂防工	2-5-1	} 現行どおり		
	5.1 土工	2-5-2			
	5.2 コンクリート工	2-5-4			
	5.3 残存型砕工	2-5-6			
注意事項					(控え頁) 3/8

工 種	基本事項
-----	------

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	備 考
	現 行	改 正	
	5.4 仮締切工 2-5-8 5.4.1 砂防土砂仮締切・砂防大型土のう仮締切工 2-5-8 5.4.2 砂防コンクリート仮締切工 2-5-9 5.5 鋼製砂防工 2-5-11 5.6 砂防ソイルセメント工 2-5-12 6章 斜面对策工 2-6-1 6.1 集水井工 2-6-2 6.1.1 集水井工(ライナープレート土留工法) 2-6-2 6.2 集排水ボーリング工 2-6-3 6.3 地すべり防止工(山腹水路工) 2-6-5 6.4 かご工(斜面对策) 2-6-8 7章 消波工 2-7-1 7.1 消波工(捨石均し工) 2-7-2 7.2 消波工(ブロック製作・据付工) 2-7-3 8章 光ケーブル工 2-8-1 8.1 光ケーブル配管工 2-8-2 8.1.1 適用 2-8-2 8.1.2 土工 2-8-2 8.1.3 配管設置 2-8-3 8.1.4 ハンドホール設置 2-8-4 第3編(道路編) 3 1章 舗装工 3-1-1 1.1 不陸整正 3-1-2 1.2 路盤工 3-1-3 1.3 アスファルト舗装工 3-1-5 1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工 3-1-7 1.5 コンクリート舗装工 3-1-8 1.6 連続鉄筋コンクリート舗装工 3-1-10 1.7 排水性アスファルト舗装工 3-1-11 1.8 透水性アスファルト舗装工 3-1-12 1.9 グースアスファルト舗装工 3-1-13 1.10 薄層カラー舗装工 3-1-14 1.11 橋面防水工 3-1-15 1.12 踏掛版設置工 3-1-16 2章 付属施設工 3-2-1 2.1 排水構造物工 3-2-2 2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品) 3-2-2 2.1.2 排水構造物工(現場打ち水路) 3-2-7 2.1.3 排水構造物工(現場打ち集水樹・街渠樹) 3-2-8 2.2 防護柵設置工 3-2-9 2.2.1 防護柵工 3-2-9 2.2.2 ワイヤロープ設置工 3-2-11 2.2.3 立入防止柵工 3-2-13 2.2.4 車止めポスト設置工 3-2-15	現行どおり	
	iv	2章 付属施設工 3-2-1 2.1 排水構造物工 3-2-2 2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品) 3-2-2 2.1.2 排水構造物工(現場打ち水路) 3-2-8 2.1.3 排水構造物工(現場打ち集水樹・街渠樹) 3-2-9 2.2 防護柵設置工 3-2-10 2.2.1 防護柵工 3-2-10 2.2.2 ワイヤロープ設置工 3-2-12 2.2.3 立入防止柵工 3-2-14 2.2.4 車止めポスト設置工 3-2-16	記載の変更
注意事項			(控え頁) 4/8

改正理由	一部改正	改 正		備 考
		現 行	改 正	
		2.2.5 防雪柵設置・撤去工 3-2-16	2.2.5 防雪柵設置・撤去工 3-2-17	記載の変更
		2.2.6 雪崩予防柵設置工 3-2-19	2.2.6 雪崩予防柵設置工 3-2-20	
		2.2.7 防雪柵現地張出し・収納工 3-2-22	2.2.7 防雪柵現地張出し・収納工 3-2-23	
		2.3 落石防止工 3-2-24	2.3 落石防止工 3-2-25	
		2.3.1 落石防止網工 3-2-24	2.3.1 落石防止網工 3-2-25	
		2.3.2 落石防護柵工 3-2-26	2.3.2 落石防護柵工 3-2-27	
		2.4 標識工 3-2-28	2.4 標識工 3-2-29	
		2.5 道路付属施設工 3-2-30	2.5 道路付属施設工 3-2-31	
		2.5.1 区画線工、高視認性区画線工 3-2-30	2.5.1 区画線工、高視認性区画線工 3-2-31	
		2.5.2 路側工 3-2-32	2.5.2 路側工 3-2-33	
		2.5.3 境界工 3-2-33	2.5.3 境界工 3-2-34	
		2.5.4 道路付属物工 3-2-34	2.5.4 道路付属物工 3-2-35	
		2.6 しゃ音壁設置工 3-2-36	2.6 しゃ音壁設置工 3-2-37	
		2.7 道路植栽工 3-2-41	2.7 道路植栽工 3-2-42	
		2.7.1 道路植栽工 3-2-41	2.7.1 道路植栽工 3-2-42	
		3章 道路維持修繕工 3-3-1	3章 道路維持修繕工 3-3-1	
		3.1 路面切削工 3-3-2	3.1 路面切削工 3-3-2	
		3.2 舗装版破砕工 3-3-4	3.2 舗装版破砕工 3-3-4	
		3.3 舗装版切断工 3-3-6	3.3 舗装版切断工 3-3-6	
		3.4 道路打換え工 3-3-8	3.4 道路打換え工 3-3-8	
		3.5 路上路盤再生工 3-3-10	3.5 路上路盤再生工 3-3-10	
		3.6 欠損部補修工 3-3-11	3.6 欠損部補修工 3-3-11	
		3.7 アスファルト注工 3-3-12	3.7 アスファルト注工 3-3-12	
		3.8 舗装版クラック補修工 3-3-13	3.7 舗装版クラック補修工 3-3-12	
		3.9 道路付属構造物塗替工 3-3-14	3.8 道路付属構造物塗替工 3-3-13	
		3.10 張紙防止塗装工 3-3-15	3.9 張紙防止塗装工 3-3-14	
		3.11 道路除草工 3-3-16	3.10 道路除草工 3-3-15	
		3.12 道路清掃工 3-3-19	3.11 道路清掃工 3-3-18	
		3.12.1 路面清掃工 3-3-19	3.11.1 路面清掃工 3-3-18	
		3.13 排水施設清掃工 3-3-21	3.12 排水施設清掃工 3-3-20	
		3.13.1 側溝清掃工、管渠清掃工、集水樹清掃工 3-3-21	3.12.1 側溝清掃工、管渠清掃工、集水樹清掃工 3-3-20	
		3.13.2 集水樹清掃工（単独作業） 3-3-23	3.12.2 集水樹清掃工（単独作業） 3-3-22	
		3.14 トンネル清掃工 3-3-24	3.13 トンネル清掃工 3-3-23	
		3.15 トンネル照明器具清掃工 3-3-25	3.14 トンネル照明器具清掃工 3-3-24	
		3.16 トンネル漏水対策工 3-3-26	3.15 トンネル漏水対策工 3-3-25	
		3.17 トンネル補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法）） 3-3-27	3.16 トンネル補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法）） 3-3-26	
		3.18 植栽維持工 3-3-28	3.16.1 トンネル補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法）） 3-3-26	
		3.18.1 樹木・芝生管理工 3-3-28	3.16.2 トンネル補修工（断面修復工（左官工法）） 3-3-27	
		3.19 道路除雪工 3-3-32	3.16.3 トンネル補修工（剥落防止対策工（可視繊維シート接着工）） 3-3-28	
		3.20 床版補強工 3-3-35	3.17 植栽維持工 3-3-30	
		3.20.1 炭素繊維接着工 3-3-35	3.17.1 樹木・芝生管理工 3-3-30	
		3.20.2 足場工、朝顔、防護工 3-3-37	3.18 道路除雪工 3-3-34	
		3.21 橋梁補強工 3-3-39	3.19 床版補強工 3-3-37	
		3.21.1(1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1） 3-3-39	3.19.1 炭素繊維接着工 3-3-37	
		3.21.1(2) 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2） 3-3-45	3.19.2 足場工、朝顔、防護工 3-3-39	
		3.21.2(1) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1） 3-3-47	3.20 橋梁補強工 3-3-41	
		3.21.2(2) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2） 3-3-52	3.20.1(1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1） 3-3-41	
		3.22 落橋防止装置工 3-3-54	3.20.1(2) 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2） 3-3-47	
		3.22.1 落橋防止装置工 3-3-54	3.20.2(1) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1） 3-3-49	
			3.20.2(2) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（2） 3-3-54	
		v	次頁へ移動	
注意事項				(控え頁) 5/8

改正理由	一部改正		改正	備考
	現	行	現行	
		前頁から移動 →	3.21 落橋防止装置工 3-3-56 3.21.1 落橋防止装置工 3-3-56	記載の変更
	4章 鋼橋上部工 3-4-1 4.1 鋼材 3-4-2 4.1.1 橋梁本体 3-4-2 4.1.2 付属物 3-4-8 4.2 工場製作工 3-4-9 4.2.1 鋼材質量 3-4-9 4.2.2 溶接延長 3-4-12 4.3 塗装工 3-4-13 4.4 鋼橋架設工 3-4-16 4.5 仮設工 3-4-19 4.5.1 足場設備工 3-4-19 4.5.2 防護設備工 3-4-21 4.5.3 登り栈橋工 3-4-22 4.6 床版工 3-4-23 4.6.1 コンクリート床版工 3-4-23 4.6.2 グレーチング床版架設工 3-4-24 4.7 橋梁付属物工 3-4-25 4.7.1 伸縮装置工 3-4-25 4.7.2 橋梁排水管設置工 3-4-26 4.8 歩道橋(側道橋)架設工 3-4-27 4.9 橋梁検査路架設工 3-4-29	現行どおり	5章 コンクリート橋上部工 3-5-1 5.1 コンクリート主桁製作工 3-5-2 5.1.1 プレテンション桁購入工 3-5-2 5.1.2 ポストテンションT(I)桁製作工 3-5-3 5.1.3 PCホースラップ製作工 3-5-4 5.1.4 RC場所打ホースラップ製作工 3-5-6 5.1.5 PC箱桁製作工 3-5-7 5.1.6 PC片持製作工 3-5-9 5.2 架設工 3-5-12 5.2.1 プレキャストセグメント主桁組立工 3-5-12 5.2.2 プレビーム桁架設工 3-5-13 5.2.3 PC片持架設工 3-5-14 5.3 架設支保工 3-5-17 5.4 横組工 3-5-24 5.4.1 プレテンション桁 3-5-24 5.4.2 ポストテンションT桁 3-5-25 5.5 支承工 3-5-26 5.6 仮設工 3-5-27 5.6.1 足場設備工 3-5-27 5.6.2 防護設備工 3-5-29 5.6.3 登り栈橋工 3-5-30 5.7 橋梁付属物工 3-5-30 5.7.1 伸縮装置工 3-5-30 5.7.2 橋梁排水管設置工 3-5-30 5.7.3 橋梁付属施設設置工 3-5-30	
注意事項				(控え頁) 6/8

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正	備 考
		現 行	改 正
	<p style="text-align: right;">→ 前頁へ移動</p> <p>10.4.3 土工 3-10-20</p> <p>10.4.4 基礎工 3-10-21</p> <p>10.4.5 管路材設置 3-10-21</p> <p>10.4.6 ハンドホール設置 3-10-23</p> <p>10.4.7 仮設工 3-10-23</p> <p>第4編(公園編) 4</p> <p>1章 公園植栽工 4-1-1</p> <p>1.1 公園植栽工 4-1-2</p> <p>1.2 公園除草工 4-1-4</p>		
注 意 事 項			(控え頁) 8/8

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	備 考
現 行	改 正		備 考
<p>1章 基本事項</p> <p>1.1 適用範囲</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">土木工事に係る工事数量の計算等にあたっては、本要領を適用する。</div> <p>1.2 数量計算方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>数量の単位は、計量法によるものとする。 長さ・面積・断面積等の計算は数学公式によるほか、スケールアップ、プランニメーター、平均面積（断面）法等により行うものとする。また、CAD ソフト等による算出結果について、適宜結果の確認をした上で適用できるものとする。 算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、四捨五入して位止めするものとする。</p> </div> <p>1. 数量の単位は、すべて計量法によるものとする。</p> <p>2. 長さの計算 長さの計算は数学公式によるほか、スケールアップによることができる。 スケールアップによるときは、2回以上の実測値の平均値とする。</p> <p>3. 面積の計算 (1) 面積の計算は数学公式によるほか、3斜誘致法、又はプランニメーターによって算出する。 プランニメーター等を使用するときは、3回以上測ったもののうち、正確と思われるもの3回の平均値とする。 (2) 面積計算で各法長が一定でないときは、両辺長を平均したものにその断面間の距離を乗ずる平均面積法により算出する。 (3) 上記(1)、(2)によることを原則とするが、CAD ソフトによる算出結果について、適宜結果の確認をしたうえで適用できるものとする。</p> <p>4. 体積の計算 (1) 体積の計算は数学公式によるほか、両断面積の平均数量に距離を乗じる平均断面法により算出する。 (2) 上記(1)によることを原則とするが、CIM 試行においては、CAD ソフト等による算出結果について、適宜結果の確認をしたうえで適用できるものとする。</p> <p>5. 構造物の計算に用いる角度は「分」までとし、円周率、法長、乗率、三角関数及び弧度は四捨五入して小数第3位とする。</p> <p>6. 算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、分数は約分せず分子分母にその値を求めた後に除法を行なうものとし、四捨五入により位止めするものとする。</p>		<p>現行どおり</p> <p>→</p> <p>現行どおり</p>	記載の変更
注意事項	1-1-2		(控え頁) 1/19

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

[別表-1]

種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考	
土工	掘削工	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及 び岩の場合は10m ³	
土工	掘削(砂防)	土質 施工数量 障害の有無 火薬使用	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及 び岩の場合は10m ³	
土工	河床等掘削		m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	掘削(光ケーブル配 管)	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	押土(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	積込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	積込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³	
土工	土砂等運搬	土質	m ³	10		
土工	土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10		
土工	掘削工(ICT)	掘削(ICT)	土質 施工方法 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		掘削(砂防)(ICT)	土質 施工数量 障害の有無	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		河床等掘削(ICT)		m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工	(路体・路床)盛土 工	路体(築堤)盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		路床盛土	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		整地	作業区分	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		押土(ルーズ)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		積込(ルーズ)	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		積込(ルーズ)砂防	土質 作業内容	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		土砂等運搬	土質	m ³	10	
土工		土砂等運搬(砂防)	土質	m ³	10	
土工	(路体・路床)盛土 工(ICT)	路体(築堤)盛土 (ICT)	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		路床盛土(ICT)	施工幅員	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工		土材料		m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の 場合は10m ³
土工	法面整形工	法面整形	現場制約の有無 (盛土部：)法面締固め の有無	m ³	10	

1-1-6

土工	掘削工	掘削	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及 び岩石の場合は10m ³
土工		掘削(砂防)	土質 施工数量 障害の有無 火薬使用	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及 び岩石の場合は10m ³

現行どおり

記載の変更

注意事項

(控え頁)
2/19

改正理由	一部改正					改 正 — 現 行					備 考
現 行						改 正				備 考	
土工	法面整形工 (ICT)	法面整形 (ICT)	(盛土部：) 法面締固めの有無 (切土部：) 土質	m ²	10						<p style="text-align: center;">記載の変更</p> <p style="text-align: center;">記載の削除</p>
土工	盛土補強工	安定シート・ネット	シート種類	m ²	1						
土工		ジオテキスタイル補強土壁	壁面材の種類	m ²	1						
土工	残土処理工	整地	作業区分	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ²					
土工		土砂等運搬	土質	m ³	10						
土工		残土等処分		m ³	10						
土工	作業土工	床掘り	土質	m ²	100	ただし1,000m ² 未満及び岩石の場合は10m ²					
土工		埋戻し	土質区分 土質	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ² 、岩石は10m ²					
土工	作業土工 (ICT)	床掘り (ICT)	土質	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ² 、岩石は10m ²					
土工	堤防天端工	天端敷砂利	砕石規格 敷厚	m ²	10						
共通の工種	矢板工	鋼矢板	鋼矢板型式 鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1						
共通の工種		可とう鋼矢板	可とう種別 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1						
共通の工種		軽量鋼矢板	軽量鋼矢板型式 軽量鋼矢板平均長さ 矢板根入長	枚	1						
共通の工種		広幅鋼矢板	広幅鋼矢板型式 広幅鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1						
共通の工種		タイロッド	タイロッド材質 タイロッド径	組	1						
共通の工種		腹起し	溝形鋼規格	t	0.1						
共通の工種		控え版	コンクリート規格 幅 高さ	m	1						
共通の工種		中詰砂	砂規格	m ³	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ³					
共通の工種	法枠工	法枠(現場打、プレキャスト、吹付)	法枠規格 中詰材種類	m ²	1						
共通の工種	吹付工	吹付(モルタル、コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m ²	1						
共通の工種	植生工	種子散布	種子規格 肥料の有無 施工規模	m ²	10						
共通の工種		芝(各種)	芝種類 施工規模	m ²	10						
共通の工種		客土吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m ²	10						
共通の工種		植生基材吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m ²	10						
共通の工種		植生マット	工種区分 施工規模	m ²	10						
共通の工種		植生シート	工種区分 施工規模	m ²	10						
1-1-7											
注意事項									(控え頁) 3/19		

現行どおり

土工	作業土工	床掘り	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満及び岩石の場合は10m ³
土工		埋戻し	土質区分 土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³ 、岩石の場合は10m ³
土工	作業土工 (ICT)	床掘り (ICT)	土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³ 、岩石の場合は10m ³
土工	堤防天端工	天端敷砂利	砕石規格 敷厚	m²	10	

現行どおり

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考	
共通的工程		フィルター層	フィルター材の種類	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²							記載の削除
基礎工	既製杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	ただし1本当りの場合は1m							
基礎工		鋼管杭	鋼管径（杭径） 鋼管長さ（杭長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m							
基礎工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ（杭長） H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m							
基礎工	場所打杭工	場所打杭	杭径 杭長（設計長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m							
基礎工	ニューマチックケーソン基礎工	ニューマチックケーソン設備		式	1								
基礎工		刃口金物据付		基	1								
基礎工		沈下掘削		m ²	10								
基礎工		沈下促進	水荷重形式 載荷材料形式（コンクリートブロック）	t	0.1								
基礎工		ケーソン本体コンクリート	コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		底スラブコンクリート	コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		中埋コンクリート	コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		フローパイプバルブ調整		基	1								
基礎工		中詰充填	中詰材規格	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ²							
基礎工		砂セントル	材料規格	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²							
基礎工		天端コンクリート用型枠・支保		m ²	10								
基礎工		足場材設置・撤去		式	1								
基礎工		止水壁取壊し	施工方法	m ²	1								
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	敷厚 構造物種別 コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		掘削土留	杭径 杭長	本	1								
基礎工		グラウト注入	注入材規格 圧縮強度	m ²	1								
基礎工	鋼管井筒基礎工	鋼管矢板	鋼管材質 鋼管径 鋼管長さ 打込工法	本	1								
基礎工		井筒内掘削		m ²	10								
基礎工		継手処理		本	1								
基礎工		鋼管内掘削		m ²	10								
基礎工		中詰コンクリート	コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		敷砂	敷砂規格	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²							
基礎工		底版コンクリート	コンクリート規格	m ²	1								
基礎工		杭切筋	鋼管杭径	本	1								
基礎工		鋼管矢板支保	支保型式	t	0.1								
基礎工		間詰コンクリート	コンクリート規格	m ²	1								

現行どおり

基礎工		天端コンクリート用型枠・支保	材料規格	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
基礎工		足場材設置・撤去		式	1	
基礎工		止水壁取壊し	施工方法	m ²	1	
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	敷厚 構造物種別 コンクリート規格	m ²	1	

現行どおり

注意事項		(控え頁)	4/19
------	--	-------	------

工 種	基本事項
-----	------

改正理由	一部改正	改正 <hr/> 現行	備考																																																																																																																																																																	
	現 行	改 正																																																																																																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">舗装工</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;">路盤</td> <td style="width: 15%;">路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚</td> <td style="width: 5%;">㎡</td> <td style="width: 5%;">10</td> <td style="width: 40%;">ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>フィルター層</td> <td>材料種類 仕上り厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>基層（車道・路肩部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>基層（歩道部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>中間層（車道・路肩部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>中間層（歩道部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>表層（車道・路肩部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>表層（歩道部）</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>排水性舗装・表層（車道・路肩部）</td> <td></td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>セメントミルク浸透</td> <td>施工厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>アスファルト中間層</td> <td>材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>コンクリート舗装</td> <td>コンクリート規格 舗装厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>連続鉄筋コンクリート舗装</td> <td>コンクリート規格 舗装厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>縦目地</td> <td>目地材種類・厚さ</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>横目地</td> <td>目地形式</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>目地切り・清掃</td> <td></td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>薄層カラー舗装</td> <td>舗装色 規格・使用</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>インターロッキングブロック舗装</td> <td>ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規模</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>特殊ブロック舗装</td> <td>作業区分 ブロック規格</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>舗装工（ICT）</td> <td>下層路盤（車道・路肩部）（ICT）</td> <td>路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td></td> <td>上層路盤（車道・路肩部）（ICT）</td> <td>路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>踏掛版工</td> <td>踏掛版</td> <td>コンクリート規格 鉄筋材料規格・径</td> <td>㎡</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table>	舗装工		路盤	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		フィルター層	材料種類 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		基層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		基層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		中間層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		中間層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		表層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		表層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		排水性舗装・表層（車道・路肩部）		㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		セメントミルク浸透	施工厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		アスファルト中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1		舗装工		横目地	目地形式	m	1		舗装工		目地切り・清掃		m	1		舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規模	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工	舗装工（ICT）	下層路盤（車道・路肩部）（ICT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工		上層路盤（車道・路肩部）（ICT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	㎡	1		<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 5%;">舗装工</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;">セメントミルク浸透</td> <td style="width: 15%;">施工厚 総施工量</td> <td style="width: 5%;">m2</td> <td style="width: 5%;">10</td> <td style="width: 40%;">ただし1,000m2未満の 場合は1m2</td> </tr> </table> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> </div>	舗装工		セメントミルク浸透	施工厚 総施工量	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2	記載の追加
舗装工		路盤	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		フィルター層	材料種類 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		基層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		基層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		中間層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		中間層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		表層（車道・路肩部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		表層（歩道部）	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		排水性舗装・表層（車道・路肩部）		㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		セメントミルク浸透	施工厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		アスファルト中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1																																																																																																																																																															
舗装工		横目地	目地形式	m	1																																																																																																																																																															
舗装工		目地切り・清掃		m	1																																																																																																																																																															
舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規模	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工	舗装工（ICT）	下層路盤（車道・路肩部）（ICT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工		上層路盤（車道・路肩部）（ICT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡																																																																																																																																																														
舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	㎡	1																																																																																																																																																															
舗装工		セメントミルク浸透	施工厚 総施工量	m2	10	ただし1,000m2未満の 場合は1m2																																																																																																																																																														
注意事項	1-1-11		(控え頁) 5/19																																																																																																																																																																	

改正理由	一部改正					改正 現行	備考
現 行						改 正	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 塗布厚 排水性舗装の有無	m	10	ただし100m未満の場合 は1m	<div style="font-size: 2em;">}</div> 現行どおり
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1		
地盤改良工	安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100㎡あたり使用量 固化材の種類	㎡	10	ただし1,000㎡未満の 場合は1㎡	
地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m3あたり使用量 固化材の種類	㎡	100	ただし1000㎡未満の 場合は10㎡	
地盤改良工	置換工	置換	置換材料 施工数量	㎡	100	ただし1,000㎡未満の 場合は10㎡	
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材料の有無	㎡	10		
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1		
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1		
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t	
地盤改良工		安定シート	シート種類	㎡	10		
地盤改良工	パーチカルドレーン 工	サンドドレーン	径 SD打設長 SD杭径 SCP径 SCP打設長 SCP杭径	本	1		
地盤改良工		PVD(プレファブリケイ ティッドパーチカルド レーン)	材料規格 長さ(打設長)	本	1		
地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクション パイル	径 SD打設長 SD杭径 SCP径 SCP打設長 SCP杭径	本	1		
地盤改良工	固結工	高圧噴射攪拌	工法 注入材種類 長さ(注入長) 長さ(土被長)	本	1		
地盤改良工		スラリー攪拌	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1		
地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	㎡	1		
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1		
地盤改良工(1 CT)	安定処理工	安定処理(1CT)	混合深さ 固化材100㎡あたり使用量 固化材の種類	㎡	1		
地盤改良工(1 CT)	固結工	スラリー攪拌(1C T)	改良材種類 杭径、長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1		
地盤改良工(1 CT)		中層混合処理(1C T)	改良深度 施工規模	㎡	1		
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取 壊し	構造物区分 工法区分 施工規模	㎡	1		
1-1-12							<div style="font-size: 2em;">}</div> 現行どおり
1-1-12							<div style="font-size: 2em;">}</div> 現行どおり
注意事項							記載の削除
							(控え頁) 6/19

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現行						改正						備考	
構造物撤去工		ノンスリップ撤去		m	1								
構造物撤去工	冬季安全施設撤去工	吹溜式防雪柵撤去	柵高	m	1								
構造物撤去工		吹払式防雪柵撤去	柵高	m	1								
構造物撤去工		スノーボール撤去	スノーボール規格	本	1								
構造物撤去工	旧柵撤去工	鋼製高柵撤去		m	1								
構造物撤去工		舗装版・床版破砕及び撤去	施工内容	m ²	1								
構造物撤去工		桁材撤去	施工内容	t	1								
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート表面処理	施工規模 上向作業の有無	m ²	1								
仮設工	仮設工	覆工板・敷鉄板	鋼材規格 作業区分	m ²	1								
仮設工		覆工板受桁	鋼材規格 作業区分	t	1								
仮設工		鋼矢板	鋼矢板型式 平均鋼矢板長さ 鋼矢板打込長さ [平均鋼矢板引込長さ]	枚	1								
仮設工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ(杭長) H型鋼平均打込長さ [H型鋼平均引込長さ]	本	1								
仮設工		アンカー	アンカーボルト規格	本	1								
仮設工		タイロッド・腹起し	タイロッド材質 タイロッド径	t	0.1	数量契約の場合は0.1							
仮設工		切梁・腹起し		t	0.1	数量契約の場合は0.1							
仮設工		横矢板	横矢板材質 横矢板厚さ	m ²	1								
仮設工	水替工	ポンプ排水	排水量 排水方法	日	1								
仮設工	水替工	水替とい		m	1								
仮設工	地下水低下工	ウエルポイント	ポンプ組数	日	1								
仮設工		ディープウェル	径 深さ	日	1								
仮設工	汚濁防止工	汚濁防止フェンス	作業区分	m	1								
仮設工	汚濁防止工	濁水処理設備		箇所	1								
仮設工	防護施設工	発破防護柵	作業区分	m ²	10								
仮設工		基礎ブロック(立入防止柵)	寸法 作業区分	個	1								
仮設工		金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	柵高 作業区分	m	1								
仮設工	防護施設工	仮囲い	作業区分 基礎形式 高さ	m	1								
仮設工	土のう工	大型土のう		袋	1								
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	安全ネットの有無	掛m ²	10								
仮設工	土留・仮締切工	盛替梁	梁規格	箇所	1								
仮設工	土留・仮締切工	アンカー工材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理	アンカー鋼材数量	本	1								
仮設工	土留・仮締切工	軽量鋼矢板(電線共同溝)	矢板型式	式	1								
仮設工	土留・仮締切工	溝掘り		m ²	1								
仮設工	土留・仮締切工	泥土処理	土質	m ²	1								
仮設工	砂防仮締切工	土砂締切		m ²	100	ただし1,000m ² 未満の場合は10m ²							

現行どおり

仮設工	土のう工	土のう種		m ²	1	
仮設工	土のう工	大型土のう		袋	1	

現行どおり

記載の追加

注意事項		(控え頁) 7/19
------	--	---------------

工 種	基本事項
-----	------

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考	
仮設工	砂防仮締切工	大型土のう締切		袋	1								記載の削除
仮設工	砂防仮締切工	コンクリート締切		m ²	1								
仮設工	仮橋・仮栈橋工	橋脚		t	1								
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮設高欄	形式区分 作業区分	m	1								
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮橋上部	作業区分	t	0.1	数量契約の場合は0.1 t							
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮橋コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 長さ 高さ	箇所	1								
仮設工	仮橋・仮栈橋工	高力ボルト	ボルト規格	kg	1								
仮設工	仮橋・仮栈橋工	防蝕材	材料規格	基	1								
仮設工	掘削工	転石破砕	火薬使用の有無	m ³	1								
仮設工	作業土工	掘削補助機械搬入搬出		回	1								
仮設工	作業土工	人力運搬	換算距離	m ³	1								
仮設工	作業「+」整備工	ヤード造成		mf	1								
仮設工	工事用道路工	工事用道路補修		式	1								
仮設工	工事用道路工	仮設舗装		mf	1								
仮設工	工事用道路工	仮設アスカーブ		m	1								
仮設工	工事用道路工	土のう積		mf	1								
仮設工	法面吹付工	仮設用モルタル吹付	セメント種類 ラス張施工規模 法面清掃工の有無	mf	1								
仮設工	仮水路工	暗渠排水管	作業区分 管種別 管径	m	1								
仮設工	防塵対策工	散水		式	1								
仮設工	防塵対策工	タイヤ洗浄装置	装置規格	式	1								
仮設工	防塵対策工	路面清掃		式	1								
仮設工	電力設備工	配電設備		m	1								
仮設工	電力設備工	受電設備		箇所	1								
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル用水設備		箇所	1								
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル仮設備保守		箇月	0.1								
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル充電設備		日	1								
仮設工	トンネル仮設備工	吹付プラント組立解体		基	1								
仮設工	トンネル仮設備工	スライドセントル組立解体		基	1								
仮設工	トンネル仮設備工	防水作業台車組立解体		基	1								
仮設工	コクリート製造設備工	コンクリートプラント設備		基	1								
仮設工	コクリート製造設備工	ケーブルクレーン設備		対	1								
仮設工	除雪工	現場内除雪（機械）	貸与区分	時間	1								
仮設工	除雪工	現場内除雪（人力）		人日	1								
仮設工	除雪工	仮囲い置換部		m ²	1								
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	mf	1								
仮設工	雪寒施設工	ウェザーシェルター		基	1								
構造物補修工	ひび割れ補修工	充てん工法	1 構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1								
構造物補修工		低圧注入工法	1 構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1								

現行どおり

現行どおり

仮設工	工事用道路工	土のう積		式	1	
----------------	-------------------	-----------------	--	--------------	--------------	--

注意事項	(控え頁) 8/19
------	---------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	
河川構造物	根固めブロック据付	ブロック種類 (型式) ブロック種類 (実質量) ブロック購入の有無	個 1
河川構造物	消波根固めブロック設置	ブロック種類 (型式) ブロック種類 (実質量)	個 1
河川構造物	消波根固めブロック運搬	消波根固めブロック運搬 作業区分 積載個数 距離	個 1
河川構造物	袋詰め玉石	袋材規格 中詰材規格	袋 1
河川構造物	ブロック床版工	場所打ブロック	ブロック型式 コンクリート規格 鉄筋規格
河川構造物	涵渠工	P C涵渠	内幅 内高 涵渠質量
河川構造物		可撓継手	内幅 内高
河川構造物		取替式止水板	止水板種類・寸法
河川構造物		涵渠接続	アンカー種類
河川構造物	側壁工	裏込石	基礎材規格 (碎石の場合) 基礎材規格 (栗石の場合) 基礎材規格 (発生材流用の場合)
河川構造物	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積)	遮水シート	材質 種類 寸法
河川構造物	羽口工	連節ブロック水中吊落し	nf 1
河川構造物	養生工	被覆シート張	シート規格
砂防	コンクリート・鋼製堰堤本体・副堤工	堤冠コンクリート	セメント種類 コンクリート規格
砂防		水抜暗渠	管径 管種類 管長さ
砂防		鋼製枠	型式
砂防		枠内中詰	土質
砂防		足場	安全ネットの有無
砂防		チップング (岩盤面・打継面)	nf 1
砂防		チップング (既設堰堤腹付け面)	nf 10 ただし100㎡未満の場合は1㎡
砂防		岩盤清掃	nf 1
砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ
砂防		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚
砂防		残存型枠	型枠の種類
砂防	鋼製砂防工	組立・据付け工	鋼管フレーム・パットレス
砂防		本締め工	本 1
		現行どおり	
		現行どおり	
		記載の削除	
		記載の削除	

改正理由	一部改正	改正 <hr/> 現行	備考						
現 行		改 正	備 考						
砂防	現場塗装工（はけ塗り）	塗装種別	現行どおり						
砂防	コンクリート側壁工	均しコンクリート コンクリート規格 敷厚							
砂防	水抜暗渠	管径 管種類 管長さ							
砂防	集排水ボーリング工	ボーリング 施工場所 土質区分 呼び径							
砂防		ボーリング洗浄							
砂防		保孔管 保孔管材質・種類 施工場所 ストレーナ加工の有無							
砂防		ボーリング仮設機材							
砂防	集水井工	集水井掘削 杭径 土留材料							
砂防		井戸中詰 土質							
砂防		プレキャスト井筒 ブロック規格							
砂防		固定基礎コンクリート タイプ コンクリート規格							
砂防		底張コンクリート 構造物種別 コンクリート規格							
砂防		井戸蓋 蓋形式							
砂防	山腹水路工	山腹暗渠 管材質 管径 管長さ							
砂防		現場打水路 内幅 内高 コンクリート規格							
砂防	砂防ソイルセメント工	砂防ソイルセメント 径径処理率 セメント100㎡当り使用量 施工幅員							
海岸	海岸コンクリート（根固・消波）ブロック工	ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量）							
海岸		海岸コンクリート（根固・消波）ブロック据付 ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量） ブロック購入の有無							
海岸	護岸工	裏込（砕）石 砕石規格							
海岸		石材 石材規格							
海岸	コンクリート被覆工	コンクリート コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無							
海岸	捨石工	中詰石 石材規格							
海岸		捨石 石材規格							
海岸		捨石均し 均し区分							
海岸		表面均し 均し区分							
海岸	被覆石工	被覆石据付 石材規格							
海岸		被覆石均し 均し区分							
海岸	被覆ブロック工	被覆ブロック据付 ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量） ブロック購入の有無							
1-1-23		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>海岸</td> <td>捨石投入</td> <td>石材規格</td> <td>㎥</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table>	海岸	捨石投入	石材規格	㎥	1		記載の変更
海岸	捨石投入	石材規格	㎥	1					
注意事項			<div style="text-align: right;">（控え頁）</div> <div style="text-align: right;">10 / 19</div>						

改正理由	一部改正						改正 —— 現行	
現 行						改 正		備 考
コンクリート橋上部工		プレキャストセグメント主桁組立	PCケーブル規格	本	1		現行どおり	
コンクリート橋上部工		プレビーム桁製作	桁規格	本	1			
コンクリート橋上部工		機械器具損料		式	1			
コンクリート橋上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	m	1			
コンクリート橋上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t		
コンクリート橋上部工		PCケーブル・緊張	緊張区分 PC規格 PC鋼棒規格	ケーブル	1			
コンクリート橋上部工		緊張	PCケーブル種類 定着装置	ケーブル	1			
コンクリート橋上部工		PC鋼棒	鋼棒径・種別 継手種別	m	1			
コンクリート橋上部工		PC緊張	緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1			
コンクリート橋上部工		PC固定	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1			
コンクリート橋上部工		PC継手	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1			
コンクリート橋上部工		横締めケーブル	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	m	1			
コンクリート橋上部工		鉛直締めケーブル	電源区分 PCケーブル種類	m	1			
コンクリート橋上部工		横締め緊張		箇所	1			
コンクリート橋上部工		鉛直締め緊張	電源区分 PCケーブル種類	箇所	1			
コンクリート橋上部工		取付桁結合解放		回	1			
コンクリート橋上部工	架設工(押出し架設)	仮支柱		基	1			
コンクリート橋上部工		プレフレクション		回	1			
コンクリート橋上部工		リリース		回	1			
コンクリート橋上部工		主桁解体		主桁本	1			
コンクリート橋上部工		桁組立		主桁本	1			
コンクリート橋上部工		横桁取付		箇所	1			
コンクリート橋上部工		部分プレストレス		径間	1			
コンクリート橋上部工		移動型枠		m	1			
コンクリート橋上部工		円筒型枠		m	1			
コンクリート橋上部工		主桁製作設備		式	1			
コンクリート橋上部工	架設工	桁小運搬		本	1			
1-1-26								
注意事項						現行どおり		記載の追加
(控え頁)								
11/19								

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考	
トンネル(NATM)		先受け矢板	材料規格 長さ	枚	1								記載の削除
トンネル(NATM)		岩盤固結	材料規格	m ³	10	ただし100m ³ 未満の場合は1m ³							
トンネル(NATM)		増し吹付	材料規格 吹付厚 補強材有無・規格	m ²	1								
トンネル(NATM)		増しロックボルト	材料規格 長さ	本	1								
トンネル(NATM)		鏡吹付	材料規格 吹付厚	m ²	1								
トンネル(NATM)		鏡ロックボルト	材料規格 長さ	本	1								
トンネル(NATM)		仮インパート	材料規格 巻厚 補強材有無・規格	m ²	1								
トンネル(NATM)		ミニパイプルーフ	材料規格 径 長さ	本	1								
トンネル(NATM)	掘削補助工B	水抜きボーリング	材料規格 径 長さ	本	1								
トンネル(NATM)		垂直礎地	材料規格 径 長さ	本	1								
トンネル(NATM)		パイプルーフ	材料規格 径 長さ	本	1								
トンネル(NATM)		押え盛土	材料規格 改良材添加量	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³							
トンネル(NATM)		薬液注入	注入材料	m ³	10								
トンネル(NATM)		ディーブウエル	径 深さ	日	1								
トンネル(NATM)		ウエルポイント	ポンプ組数	日	1								
トンネル(NATM)		トンネル仮巻きコンクリート	コンクリート規格 巻厚	m	1								
トンネル(NATM)		各種設備		式	1								
共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³							
共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³							
共同溝	現場打構築工	防水	施工種別 材質	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²							
共同溝		防水保護	施工種別 モルタル規格	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²							
共同溝		防水壁	コンクリート規格	箇所	1								
共同溝		目地材	目地材種類・厚さ	m ²	1								
共同溝		止水板	止水板種類・寸法	m	1								
共同溝	プレキャスト構築工	プレキャスト躯体	種類 形状・寸法	個	1								
共同溝		PC鋼材	材質 種類	m	1								
共同溝		縦・横締め緊張	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1								

現行どおり

共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³
共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m ³	100	ただし1,000m ³ 未満の場合は10m ³
共同溝	現場打構築工	防水	施工種別 材質	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
共同溝		防水保護	施工種別 モルタル規格	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
共同溝		防水壁	コンクリート規格	箇所	1	
共同溝		目地材	目地材種類・厚さ	m ²	1	
共同溝		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
共同溝	プレキャスト構築工	プレキャスト躯体	種類 形状・寸法	個	1	
共同溝		PC鋼材	材質 種類	m	1	
共同溝		縦・横締め緊張	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	

注意事項		(控え頁)	12 / 19
------	--	-------	---------

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考	
共同溝		可とう継手	内幅 内高	箇所	1	共同溝		可とう継手	内幅 内高	箇所	↓		記載の削除
共同溝		コーキング	材質 種類	m	1	共同溝		コーキング	材質 種類	⇒	↓		
共同溝		シール		m	1	共同溝		シール		⇒	↓		
共同溝	付帯設備工	グレーチング	蓋種類	組	1	共同溝	付帯設備工	グレーチング	蓋種類	⇒	↓		
共同溝		蓋	蓋種類	組	1	共同溝		蓋	蓋種類	⇒	↓		
共同溝		排水管	管規格	m	1	共同溝		排水管	管規格	⇒	↓		
共同溝		ルーフドレーン	材質 管径	個	1	共同溝		ルーフドレーン	材質 管径	⇒	↓		
共同溝		換気防護柵	高さ	箇所	1	共同溝		換気防護柵	高さ	⇒	↓		
共同溝		梯子	寸法	本	1	共同溝		梯子	寸法	⇒	↓		
共同溝		ステップ	ステップ規格	本	1	共同溝		ステップ	ステップ規格	⇒	↓		
共同溝		タラップ	寸法	本	1	共同溝		タラップ	寸法	⇒	↓		
共同溝		手摺	高さ	m	1	共同溝		手摺	高さ	⇒	↓		
共同溝		銘板	材質 寸法	枚	1	共同溝		銘板	材質 寸法	⇒	↓		
共同溝	現場打躯体工(構造 物単位)	共同溝	コンクリート規格 規格 土被り 内幅 内高	m ²	1	共同溝	現場打躯体工(構造 物単位)	共同溝	コンクリート規格 規格 土被り 内幅 内高	⇒	↓		
共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	⇒	↓		
電線共同溝	掘削工	開削掘削	土質	m ²	100	電線共同溝	掘削工	開削掘削	土質	⇒	↓	ただし1,000m ² 未満の 場合は10m ²	
電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m ²	100	電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	⇒	↓	ただし1,000m ² 未満の 場合は10m ²	
電線共同溝	電線共同溝工	管路	材質 径	m	1	電線共同溝	電線共同溝工	管路	材質 径	⇒	↓		
電線共同溝		プレキャストボックス	作業区分 内幅 内高 基礎材種別	個	1	電線共同溝		プレキャストボックス	作業区分 内幅 内高 基礎材種別	⇒	↓		
電線共同溝		蓋	蓋種類	組	1	電線共同溝		蓋	蓋種類	⇒	↓		
電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	寸法	箇所	1	電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	寸法	⇒	↓		
電線共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	電線共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	⇒	↓		
電線共同溝	管路工(管路部)	スリーブ		個	1	電線共同溝	管路工(管路部)	スリーブ		⇒	↓		
電線共同溝	管路工(管路部)	伸縮継手		個	1	電線共同溝	管路工(管路部)	伸縮継手		⇒	↓		
植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	樹種 樹高・幹周	本	1	植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	樹種 樹高・幹周	⇒	↓		
植栽維持工		寄植せん定	樹種 樹高	m ²	10	植栽維持工		寄植せん定	樹種 樹高	⇒	↓		
植栽維持工		補植	樹木規格 土壌改良材の有無 植樹割増しの有無	本	1	植栽維持工		補植	樹木規格 土壌改良材の有無 植樹割増しの有無	⇒	↓		
植栽維持工		移植	施工内容(移植) 施工規模(移植) 施工内容(植樹) 施工規模(植樹)	本	1	植栽維持工		移植	施工内容(移植) 施工規模(移植) 施工内容(植樹) 施工規模(植樹)	⇒	↓		

1-1-30

現行どおり

注意事項			(控え頁) 13/19
------	--	--	----------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																																																																																																				
	現 行	改 正																																																																																																																																																																																																					
	<table border="1"> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>支柱</td> <td>支柱形式 施工区分 規格・仕様</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>抜根除草</td> <td>施工内容 施工規模 施工場所別補正</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>樹木施肥</td> <td>肥料種類</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>寄植・芝施肥</td> <td>肥料種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>灌水</td> <td>灌水時期</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>防除</td> <td>薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>寄植・芝薬剤散布</td> <td>薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正</td> <td>m²</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植栽維持工</td> <td></td> <td>芝刈</td> <td>芝種類</td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>河川巡視工</td> <td>緊急巡視</td> <td></td> <td>回</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>堤防除草工</td> <td>除草</td> <td></td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>芝養生工</td> <td>施肥</td> <td>肥料種類 肥料使用量</td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td></td> <td>抜根</td> <td>抜根工作区分 タイヤ損耗費</td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>伐木除根工</td> <td>伐木除根</td> <td>樹木・竹の区分 樹木密度</td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>塵芥処理工</td> <td>散在塵芥収集</td> <td></td> <td>m²</td> <td>1,000</td> <td>ただし100,000m²未満の場合は100m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td></td> <td>堆積塵芥収集</td> <td></td> <td>m²</td> <td>10</td> <td>ただし100m²未満の場合は1m²</td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>水面清掃工</td> <td>水面清掃</td> <td></td> <td>日</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>応急処理作業</td> <td>応急作業</td> <td>作業形態</td> <td>日</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>ボートゲート工</td> <td>注入</td> <td>注入材料規格 注入日数 注入量</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>ボートゲート工</td> <td>注入設備据付解体</td> <td></td> <td>回</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>欠損部補修工</td> <td>欠損部取壊し</td> <td></td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>欠損部補修工</td> <td>欠損部補修</td> <td>補修工法</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>不陸修正工</td> <td>不陸修正・締固め</td> <td>補足材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>付属物復旧工</td> <td>調整ポスト</td> <td>支柱間隔</td> <td>個</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>付属物設置工</td> <td>標識</td> <td></td> <td>基</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>塵芥処理工</td> <td>処分費</td> <td></td> <td>t</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>樹木・芝生管理工</td> <td>補植</td> <td>樹種 樹高</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table>	植栽維持工		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1		植栽維持工		抜根除草	施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10		植栽維持工		樹木施肥	肥料種類	本	1		植栽維持工		寄植・芝施肥	肥料種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10		植栽維持工		灌水	灌水時期	m ²	10		植栽維持工		防除	薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正	本	1		植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10		植栽維持工		芝刈	芝種類	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持	河川巡視工	緊急巡視		回	1		河川維持	堤防除草工	除草		m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持	芝養生工	施肥	肥料種類 肥料使用量	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持		抜根	抜根工作区分 タイヤ損耗費	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持	伐木除根工	伐木除根	樹木・竹の区分 樹木密度	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集		m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²	河川維持		堆積塵芥収集		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²	河川維持	水面清掃工	水面清掃		日	1		河川維持	応急処理作業	応急作業	作業形態	日	1		河川維持	ボートゲート工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	m ²	1		河川維持	ボートゲート工	注入設備据付解体		回	1		河川維持	欠損部補修工	欠損部取壊し		m ²	1		河川維持	欠損部補修工	欠損部補修	補修工法	m ²	1		河川維持	不陸修正工	不陸修正・締固め	補足材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ	m ²	1		河川維持	付属物復旧工	調整ポスト	支柱間隔	個	1		河川維持	付属物設置工	標識		基	1		河川維持	塵芥処理工	処分費		t	1		河川維持	樹木・芝生管理工	補植	樹種 樹高	本	1		<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <table border="1"> <tr> <td>河川維持</td> <td>ボートゲート工</td> <td>注入</td> <td>注入材料規格 注入日数 注入量</td> <td>—</td> <td>+</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川維持</td> <td>ボートゲート工</td> <td>注入設備据付解体</td> <td></td> <td>—</td> <td>+</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	河川維持	ボートゲート工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	—	+		河川維持	ボートゲート工	注入設備据付解体		—	+		記載の削除
植栽維持工		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		抜根除草	施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		樹木施肥	肥料種類	本	1																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		寄植・芝施肥	肥料種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		灌水	灌水時期	m ²	10																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		防除	薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正	本	1																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	10																																																																																																																																																																																																		
植栽維持工		芝刈	芝種類	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持	河川巡視工	緊急巡視		回	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	堤防除草工	除草		m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持	芝養生工	施肥	肥料種類 肥料使用量	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持		抜根	抜根工作区分 タイヤ損耗費	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持	伐木除根工	伐木除根	樹木・竹の区分 樹木密度	m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集		m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持		堆積塵芥収集		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²																																																																																																																																																																																																	
河川維持	水面清掃工	水面清掃		日	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	応急処理作業	応急作業	作業形態	日	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	ボートゲート工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	m ²	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	ボートゲート工	注入設備据付解体		回	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	欠損部補修工	欠損部取壊し		m ²	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	欠損部補修工	欠損部補修	補修工法	m ²	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	不陸修正工	不陸修正・締固め	補足材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ	m ²	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	付属物復旧工	調整ポスト	支柱間隔	個	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	付属物設置工	標識		基	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	塵芥処理工	処分費		t	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	樹木・芝生管理工	補植	樹種 樹高	本	1																																																																																																																																																																																																		
河川維持	ボートゲート工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	—	+																																																																																																																																																																																																		
河川維持	ボートゲート工	注入設備据付解体		—	+																																																																																																																																																																																																		
1-1-31																																																																																																																																																																																																							
注意事項			(控え頁) 14/19																																																																																																																																																																																																				

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	備 考																																																																																																																																																																															
	現 行	改 正																																																																																																																																																																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>道路修繕</td> <td>路面切削工</td> <td>路面切削</td> <td>施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有無</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>舗装打換え工</td> <td>舗装版切斷</td> <td>舗装版種別 舗装厚</td> <td>m</td> <td>10</td> <td>ただし100m未満の場合は1m</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>舗装版破砕</td> <td>舗装版種別 舗装厚</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>切削オーバーレイ工</td> <td>切削オーバーレイ</td> <td>平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>切削オーバーレイ工 (ICT)</td> <td>切削オーバーレイ (ICT)</td> <td>平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>舗装打換え工・オーバーレイ工</td> <td>基層</td> <td>材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>中間層</td> <td>材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>表層</td> <td>材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>路上路盤再生工</td> <td>路上路盤再生</td> <td>混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td>ただし1,000㎡未満の場合は1㎡</td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>床版補強工</td> <td>クラック処理</td> <td>使用材料の種類</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>足場</td> <td>安全ネットの有無</td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>防護</td> <td></td> <td>㎡</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>床版増厚補強工</td> <td>表面荒らし</td> <td></td> <td>㎡</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>床版取替工</td> <td>鋼製高欄取替</td> <td>作業区分 高欄形式</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>床版運搬処理</td> <td>処理費の有無 作業内容積込 工法区分</td> <td>㎡</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>鋼桁補強工</td> <td>現場溶接鋼桁補強</td> <td></td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>伸縮継手工</td> <td>鋼製伸縮継手補修</td> <td>伸縮装置補修</td> <td>m</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>埋設ジョイント補修</td> <td>ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式</td> <td>m</td> <td>0.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>落橋防止装置工</td> <td>落橋防止装置</td> <td>材質規格 (寸法等)</td> <td>箇所</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>コンクリート削孔</td> <td>削孔工法 削孔径 削孔深さ</td> <td>孔</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>アンカー</td> <td>適用アンカー材径 削孔方向 注入材種別</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>充填補修</td> <td>補修材種別</td> <td>孔</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>現場孔明 (鋼構造)</td> <td>作業条件</td> <td>本</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>鋼橋・PC支承工</td> <td>支承取替</td> <td>支承形式 現場条件</td> <td>基</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table>	道路修繕	路面切削工	路面切削	施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	舗装打換え工	舗装版切斷	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m	道路修繕		舗装版破砕	舗装版種別 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	切削オーバーレイ工 (ICT)	切削オーバーレイ (ICT)	平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	基層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕		中間層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕		表層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	道路修繕	床版補強工	クラック処理	使用材料の種類	m	1		道路修繕		足場	安全ネットの有無	㎡	10		道路修繕		防護		㎡	10		道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし		㎡	1		道路修繕	床版取替工	鋼製高欄取替	作業区分 高欄形式	m	1		道路修繕		床版運搬処理	処理費の有無 作業内容積込 工法区分	㎡	1		道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強		m	1		道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	伸縮装置補修	m	0.1		道路修繕		埋設ジョイント補修	ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式	m	0.1		道路修繕	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格 (寸法等)	箇所	1		道路修繕		コンクリート削孔	削孔工法 削孔径 削孔深さ	孔	1		道路修繕		アンカー	適用アンカー材径 削孔方向 注入材種別	本	1		道路修繕		充填補修	補修材種別	孔	1		道路修繕		現場孔明 (鋼構造)	作業条件	本	1		道路修繕	鋼橋・PC支承工	支承取替	支承形式 現場条件	基	1		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>道路修繕</td> <td>路上路盤再生工</td> <td>路上路盤再生</td> <td>混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無</td> <td>m2</td> <td>10</td> <td>ただし1,000m2未満の場合は1m2</td> </tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> </div>	道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2	記載の削除
道路修繕	路面切削工	路面切削	施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切斷	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m																																																																																																																																																																												
道路修繕		舗装版破砕	舗装版種別 舗装厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	切削オーバーレイ工 (ICT)	切削オーバーレイ (ICT)	平均切削深さ 舗装層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種別	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	基層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕		中間層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕		表層	材料種別 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡																																																																																																																																																																												
道路修繕	床版補強工	クラック処理	使用材料の種類	m	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		足場	安全ネットの有無	㎡	10																																																																																																																																																																													
道路修繕		防護		㎡	10																																																																																																																																																																													
道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし		㎡	1																																																																																																																																																																													
道路修繕	床版取替工	鋼製高欄取替	作業区分 高欄形式	m	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		床版運搬処理	処理費の有無 作業内容積込 工法区分	㎡	1																																																																																																																																																																													
道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強		m	1																																																																																																																																																																													
道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	伸縮装置補修	m	0.1																																																																																																																																																																													
道路修繕		埋設ジョイント補修	ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式	m	0.1																																																																																																																																																																													
道路修繕	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格 (寸法等)	箇所	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		コンクリート削孔	削孔工法 削孔径 削孔深さ	孔	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		アンカー	適用アンカー材径 削孔方向 注入材種別	本	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		充填補修	補修材種別	孔	1																																																																																																																																																																													
道路修繕		現場孔明 (鋼構造)	作業条件	本	1																																																																																																																																																																													
道路修繕	鋼橋・PC支承工	支承取替	支承形式 現場条件	基	1																																																																																																																																																																													
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	m2	10	ただし1,000m2未満の場合は1m2																																																																																																																																																																												
注意事項	1-1-32		(控え頁) 15 / 19																																																																																																																																																																															

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考			
道路修繕	トンネル補修工	低圧注入工法	1トンネル当り補修延べ延長 材料種類	トンネル	1			道路修繕	トンネル補修工	低圧注入工法	1トンネル当り補修延べ延長 材料種類	トンネル	1		記載の追加
道路修繕	検査路工	検査路		t	0.1			道路修繕	トンネル補修工	左官工法	1トンネル当り補修延べ体積 材料種類 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	トンネル	1		
道路修繕	香煙拡幅工	チップング		m ²	1	ただし10m未満の場合は0.1m ²		道路修繕	トンネル補修工 (可視繊維シート接着工)	下地処理		m ²	1		
道路修繕		コンクリート削孔	削孔径 削孔深さ	孔	1					プライマー塗布	1m ² 当りのプライマー設計量 材料種類	m ²	1		
道路修繕		アンカー筋挿入(コンクリート香煙拡幅)	アンカー筋種類 注入材材質	本	1					不陸修正	1m ² 当りの不陸修正材使用量 材料種類	m ²	1		
道路修繕		鋼製ブラケット設置	鋼製ブラケット種類 設置箇所数	箇所	1					シート接着	1m ² 当りの含浸接着剤設計量 材料種類	m ²	1		
道路修繕	排水施設工	排水樹	樹規格	箇所	1					仕上げ塗装	1m ² 当りの仕上げ塗装材設計量 材料種類	m ²	1		
道路修繕		排水管	管規格	m	1										
道路修繕	横断歩道橋工	高欄・手摺		t	0.1										
道路修繕		側板	作業区分 側板規格	t	0.1										
道路修繕		ノンスリップ	ノンスリップの規格	m	1										
道路修繕	R/C橋脚鋼板巻立て工	鋼板取付	注入材材質	m ²	1										
道路修繕		現場溶接	平均板厚	m	1										
道路修繕		定着用アンカー	径 削孔長	箇所	1										
道路修繕		円形基部補強版		段	1										
道路修繕		根巻きコンクリート	コンクリート規格	m ²	1										
道路修繕	橋脚コンクリート巻立て	コンクリート削孔	径 削孔長 アンカー材の有無 アンカー材長さ	箇所	1										
道路修繕		コンクリート巻立て	支柱区分 施工内容 コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m ²	1										
道路修繕		下地処理		m ²	1										
道路修繕	現場塗装工	素地調整	調整工種別	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²									
道路修繕		塗装(下・中・上塗)	塗装種別 塗装箇所 塗装回数	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²									
道路修繕		張紙防止塗装	塗料種別	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²									
道路修繕		コンクリート面・岩盤 清掃		m ²	1										
道路修繕	トンネル工	内装板	内装板材質	m ²	1										
道路修繕		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m ²	1										
道路修繕		面導水	導水材種類	m ²	1										

現行どおり

注意事項		(控え頁)
		16/19

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考																																																																																																																																																																																																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>線導水</td><td>導水材種類</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>鋼板巻立て</td><td>支柱区分 注入材材質</td><td>nf</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>グレーピング</td><td>溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類</td><td>nf</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>グレーピング(路面排水用)</td><td>溝寸法 舗装面種類</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>鋼・ゴム製伸縮装置補修</td><td>工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td>橋梁補修工</td><td>橋梁地覆補修</td><td>コンクリート規格 鉄筋材料規格・径</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>下地処理</td><td>1橋当りの延べ施工量</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>プライマー塗布</td><td>1橋当りの延べ施工量 材料種類</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>下塗り(バテ塗布)</td><td>1橋当りの延べ施工量 材料種類</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>中塗り材塗布</td><td>1橋当りの延べ施工量 材料種類</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路修繕</td><td></td><td>上塗り材塗布</td><td>1橋当りの延べ施工量 材料種類</td><td>橋</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td>巡視・巡回工</td><td>通常巡回</td><td>巡回車種類 巡回時間帯</td><td>回</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>緊急巡回</td><td>巡回車種類 巡回時間帯</td><td>回</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td>コンクリート舗装補修工</td><td>アスファルト注入</td><td>材料種類 削孔数</td><td>t</td><td>0.1</td><td>ただし1t未満の場合は0.01t</td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>舗装版目地補修</td><td>材料種類</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>クラック処理</td><td>使用材料の種類</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td>アスファルト舗装維持工</td><td>わだち掘れ補修</td><td>材料種類</td><td>nf</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>パッチング</td><td>材料種類</td><td>t</td><td>0.1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td>付属物復旧工</td><td>舗装版削孔</td><td></td><td>孔</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>ガードケーブル復旧</td><td>ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>転落(横断)防止柵復旧</td><td>防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模</td><td>m</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>路側標識復旧</td><td>柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模</td><td>基</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>標識板復旧</td><td>標識板規格 添架形式 [標識設置箇所] 施工規模</td><td>枚</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>視線誘導標復旧</td><td>視線誘導標 規格施工区分 施工規模</td><td>本</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>距離標復旧</td><td>距離標規格 作業区分</td><td>本</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>道路維持</td><td></td><td>張紙防止シート復旧</td><td>シート種類</td><td>nf</td><td>1</td><td></td></tr> </table>	道路修繕		線導水	導水材種類	m	1		道路修繕		鋼板巻立て	支柱区分 注入材材質	nf	1		道路修繕		グレーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	nf	1		道路修繕		グレーピング(路面排水用)	溝寸法 舗装面種類	m	1		道路修繕		鋼・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1		道路修繕	橋梁補修工	橋梁地覆補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1		道路修繕		下地処理	1橋当りの延べ施工量	橋	1		道路修繕		プライマー塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1		道路修繕		下塗り(バテ塗布)	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1		道路修繕		中塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1		道路修繕		上塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1		道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1		道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1		道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t	道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1		道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1		道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	材料種類	nf	1		道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1		道路維持	付属物復旧工	舗装版削孔		孔	1		道路維持		ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1		道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模	m	1		道路維持		路側標識復旧	柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模	基	1		道路維持		標識板復旧	標識板規格 添架形式 [標識設置箇所] 施工規模	枚	1		道路維持		視線誘導標復旧	視線誘導標 規格施工区分 施工規模	本	1		道路維持		距離標復旧	距離標規格 作業区分	本	1		道路維持		張紙防止シート復旧	シート種類	nf	1		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>線導水(深切り工)</td> <td>導水材種類</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>線導水(導水樋工)</td> <td>導水材種類 導水幅</td> <td>m</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>上塗り材塗布</td> <td>1橋当りの延べ施工量 材料種類</td> <td>橋</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>塗装塗替足場工</td> <td>塗装塗替足場工</td> <td>足場種類</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td>高力ボルト当て板鋼桁補強工</td> <td>高力ボルト当て板鋼桁補強工</td> <td>補強部材規格 高力ボルト規格</td> <td>箇所</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路修繕</td> <td></td> <td>補修塗装工(下・中・上塗り)</td> <td>塗料種別 塗料用シンナー種別</td> <td>m²</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>巡視・巡回工</td> <td>通常巡回</td> <td>巡回車種類 巡回時間帯</td> <td>回</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td></td> <td>緊急巡回</td> <td>巡回車種類 巡回時間帯</td> <td>回</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路維持</td> <td>コンクリート舗装補修工</td> <td>アスファルト注入</td> <td>材料種類 削孔数</td> <td>t</td> <td>0.1</td> <td>ただし1t未満の場合は0.01t</td> </tr> </table>	道路修繕		線導水(深切り工)	導水材種類	m	1		道路修繕		線導水(導水樋工)	導水材種類 導水幅	m	1		道路修繕		上塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1		道路修繕	塗装塗替足場工	塗装塗替足場工	足場種類	m ²	1		道路修繕	高力ボルト当て板鋼桁補強工	高力ボルト当て板鋼桁補強工	補強部材規格 高力ボルト規格	箇所	1		道路修繕		補修塗装工(下・中・上塗り)	塗料種別 塗料用シンナー種別	m ²	1		道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1		道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1		道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t	<p>記載の変更 記載の追加</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の削除</p>
道路修繕		線導水	導水材種類	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		鋼板巻立て	支柱区分 注入材材質	nf	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		グレーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	nf	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		グレーピング(路面排水用)	溝寸法 舗装面種類	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		鋼・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕	橋梁補修工	橋梁地覆補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		下地処理	1橋当りの延べ施工量	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		プライマー塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		下塗り(バテ塗布)	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		中塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		上塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t																																																																																																																																																																																																																																																	
道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	材料種類	nf	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	付属物復旧工	舗装版削孔		孔	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		路側標識復旧	柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模	基	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		標識板復旧	標識板規格 添架形式 [標識設置箇所] 施工規模	枚	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		視線誘導標復旧	視線誘導標 規格施工区分 施工規模	本	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		距離標復旧	距離標規格 作業区分	本	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		張紙防止シート復旧	シート種類	nf	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		線導水(深切り工)	導水材種類	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		線導水(導水樋工)	導水材種類 導水幅	m	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		上塗り材塗布	1橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕	塗装塗替足場工	塗装塗替足場工	足場種類	m ²	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕	高力ボルト当て板鋼桁補強工	高力ボルト当て板鋼桁補強工	補強部材規格 高力ボルト規格	箇所	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路修繕		補修塗装工(下・中・上塗り)	塗料種別 塗料用シンナー種別	m ²	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1																																																																																																																																																																																																																																																		
道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t																																																																																																																																																																																																																																																	

注意事項		(控え頁) 17/19
------	--	----------------

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行						改 正						備 考	
道路維持	路面清掃工	路面清掃(機械)	作業形態	km	0.1								
道路維持		路面清掃(路肩部・人力)	作業形態 塵芥量	km	0.1								
道路維持		路面清掃(歩道・人力)	作業形態 塵芥量	m ²	1								
道路維持		路面清掃(歩道橋・地下道・人力)	作業形態 塵芥量	m ²	1								
道路維持		路面清掃(中央分離帯・人力)	作業形態 塵芥量	m ²	1								
道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	作業形態 側溝蓋規格	m	10								
道路維持		側溝清掃(機械)	作業形態	m	10								
道路維持		集水溝清掃(機械)	作業形態	箇所	1								
道路維持		管渠清掃	作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区分 側溝清掃車使用区分 散水車の使用区分 散水車機種	m	10								
道路維持		樹清掃	作業形態 機械使用区分 土砂厚	箇所	1								
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	作業形態	m	1								
道路維持		排水管清掃	作業形態 高所作業車の機械使用条件	m	10								
道路維持	道路付属物清掃工	トンネル照明器具清掃	作業形態 高所作業車の機械使用条件	灯	1								
道路維持	構造物清掃工	トンネル壁面清掃	作業形態 散水車使用区分 ブラシ使用区分 (貸与の場合:) 散水車機種	m ²	1								
道路維持	道路除草工	除草		m ²	1,000	ただし100,000m ² 未満の場合は100m ²							
道路維持	応急処理工	応急作業	作業形態	日	1								
道路維持	冬季安全施設工	スノーボール設置・撤去	スノーボール種類 作業区分 スノーボール材料の計上	本	1								
道路維持		防雪柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1								
道路維持		落雪(せり出し)防護柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1								
道路維持		防雪柵現地張出・収納	防雪柵種類 作業区分	m	1								
雪寒	一般・運搬・歩道除雪	各種	機種 作業種別 種別時間帯(昼間or夜間) 機械持込or貸与	時間	1								
雪寒	凍結防止工	各種	機種 時間帯(昼間or夜間) 機械持込or貸与 損耗品持込or貸与	時間	1								

} 現行どおり

雪寒	一般・運搬・歩道除雪工	各種	機種 作業種別 種別時間帯(昼間or夜間) 機械持込or貸与	時間	1				
----	-------------	----	---	----	---	--	--	--	--

} 現行どおり

注意事項			(控え頁) 18/19
------	--	--	----------------

改正理由	一部改正	改正 <hr/> 現行	
------	------	----------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3. 区分
区分は、土質、施工方法、施工幅員とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

土工						
項目	区分	土質	施工方法	施工幅員	単位	備考
掘削		○	○		m ³	
土砂等運搬		○			m ³	
整地			○		m ³	
路体(築堤)盛土				○	m ³	
路床盛土				○	m ³	
押土(ルーズ)		○			m ³	
積込(ルーズ)		○			m ³	
人力積込		○			m ³	
転石破碎					m ³	
土材料					m ³	
残土等処分					m ³	

注) 1. 掘削、土砂運搬、整地、押土(ルーズ)、積込(ルーズ)、人力積込、残土処分は地山土量とする。
2. 路床盛土は、土材料は締固め後の土量とする。

土工 (ICT)						
項目	区分	土質	施工方法	施工幅員	単位	備考
掘削 (ICT)		○	○		m ³	
路体(築堤)盛土 (ICT)					m ³	
路床盛土 (ICT)					m ³	

注) 1. 掘削 (ICT) は地山土量とする。
2. 路体(築堤)盛土 (ICT)、路床盛土 (ICT) は締固め後の土量とする。

(2) 土質区分
土質による区分は、下表のとおりとする。

土質区分	
項目	土質
掘削	土砂
	岩塊・玉石
	軟岩
	硬岩
掘削 (ICT)	土砂
	岩塊・玉石

1-2-5

3. 区分
区分は、土質、施工方法、施工幅員とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

土工										
項目	区分	土質	施工方法	障害の有無	施工幅員	D/D区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
掘削		○	○	○	○			m ³		
土砂等運搬		○				○	○	m ³		
整地			○	○				m ³		
路体(築堤)盛土				○	○			m ³		
路床盛土				○	○			m ³		
押土(ルーズ)		○						m ³		
積込(ルーズ)		○						m ³		
人力積込		○						m ³		
転石破碎								m ³		
土材料								m ³		
残土等処分								m ³		

注) 1. 掘削、土砂運搬、整地、押土(ルーズ)、積込(ルーズ)、人力積込、残土処分は地山土量とする。
2. 路体(築堤)盛土、路床盛土は、土材料は締固め後の土量とする。

土工 (ICT)							
項目	区分	土質	施工方法	障害の有無	施工幅員	単位	備考
掘削 (ICT)		○	○	○		m ³	
路体(築堤)盛土 (ICT)				○		m ³	
路床盛土 (ICT)				○		m ³	

注) 1. 掘削 (ICT) は地山土量とする。
2. 路体(築堤)盛土 (ICT)、路床盛土 (ICT) は締固め後の土量とする。

} 現行どおり

記載の追加・削除

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

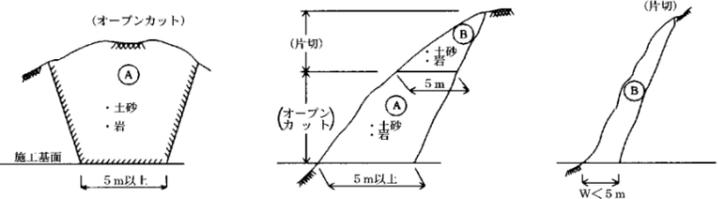
現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

(3) 施工方法・施工幅員区分

1) 掘削
掘削の施工方法は、下記の項目に区分して算出する。



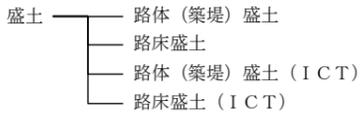
- a) オープンカット
「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で、切取幅 5m 以上、かつ延長 20m 以上を標準とする。
- b) 片切掘削
「片切掘削」は、下中図および下右図に示すような切取幅 5m 未満の領域 B を施工する場合とする。
- c) 水中掘削
「水中掘削」は、土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが 5m を超える場合、又は掘削深さが 5m 以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用できない場合で水中の掘削積込作業。
- d) 下中図に示すような箇所にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。



- e) 「現場制約あり」は、機械施工が不可能な場合に適用する。
- f) 上記以外 (小規模) は、1箇所当り施工量が 100m³ 以下の掘削・積込み作業、又は施工量が 100m³ 以上で現場が狭隘の場合の掘削・積込み作業の場合に適用する。

2) 盛土

盛土の施工幅員は、下記の項目に区分して算出する。(下図参照)

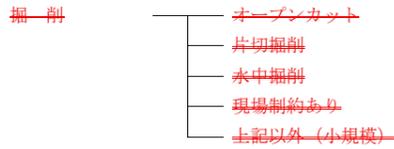


- 路体 (築堤) 盛土、路床盛土は施工幅員により下記のとおり区分して算出する。
- ① 2.5m 未満
 - ② 2.5m 以上 4.0m 未満
 - ③ 4.0m 以上

1-2-6

(3) 施工方法・障害の有無・施工幅員区分

1) 掘削
掘削の施工方法等は、下記の項目 (重複項目含む) に区分して算出する。



土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	平均施工幅員	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	備考	
土砂	オープンカット	有り	-	-	-	-	-	-	
		無し	無し	-	-	-	-	-	
			有り	-	-	-	-	-	
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	
	上記以外小規模	-	-	-	-	-	-	-	
岩塊・玉石	オープンカット	有り	-	-	-	-	-	-	
		無し	無し	-	-	-	-	-	
			有り	-	-	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	
軟岩	オープンカット		無し			無し	無し		
					有り	有り			
					無し	無し			
				20m 未満	無し	有り			
					有り	無し			
				20m 以下	-	-	-		
		有り	-	-	-				
	片切掘削					無し	無し		
						有り	有り		
						無し	無し		
					有り	無し			
硬岩	オープンカット		無し		不可	無し	無し		
					有り	有り			
					可	-	-		
						無し	無し		
				有り		有り	無し		
	片切掘削					不可	無し	無し	
						有り	有り		
						無し	無し		
						有り	有り		
						可	無し	無し	

次頁以降へ移動

注) 1. 破砕片除去: 大型ブレーカ掘削工法の掘削補助作業であり、掘削箇所の破砕片の取除き、掘削作業面 (機械基面) の整地及び浮石除去等の総称

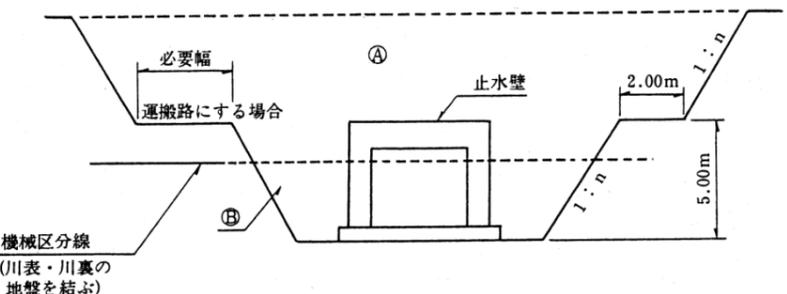
注意事項		(控え頁)	3/7
------	--	-------	-----

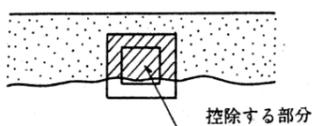
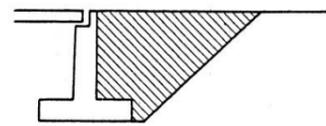
改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

<p>現行なし</p> <p>→</p> <p>前頁から移動</p> <p>→</p>	<p>2. 押土の有無</p> <p>①有り：土砂、岩塊・玉石の場合は、60mまでの運搬を含む。 ※なお、下記の条件における掘削の場合は、30mまでの運搬は含まれている。 軟岩：施工数量「7,000m³以上」を選択した場合 施工数量「5,000m³以上7,000m³未満」かつ平均施工幅員「20m以上」を選択した場合 集積押土「有り」を選択した場合 硬岩：施工方法「オープンカット」かつ火薬使用「可」を選択した場合 集積押土「有り」を選択した場合</p> <p>3. 障害の有無</p> <p>土質：土砂、岩塊・玉石の場合</p> <p>①無し：構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合</p> <p>②有り：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり（例えば作業障害が多い場合）連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ 5m 以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削（溝掘り、基礎掘削）を行う場合</p> <p>土質：軟岩の場合</p> <p>①無し：掘削量が 5,000m³ 未満、5,000m³ 以上 7,000m³ 未満かつ平均施工幅員 20m 未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業出来る場合、もしくは掘削量が 5,000m³ 以上 7,000m³ 未満かつ平均施工幅員 20m 以上、7,000m³ 以上の場合</p> <p>②有り：掘削量が 5,000m³ 未満、5,000m³ 以上 7,000m³ 未満かつ平均施工幅員 20m 未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合</p> <p>土質：硬岩の場合</p> <p>①無し：掘削箇所に大型ブレーカが入り作業出来る場合、もしくは火薬を使用する場合</p> <p>②有り：掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合</p> <p>掘削（ICT）</p> <ul style="list-style-type: none"> — オープンカット — 片切掘削 <p>※障害の有無は、掘削 3. 障害の有無－土質：土砂、岩塊・玉石の場合を参照</p> <p>a) オープンカット 「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で、切取幅 5m 以上、かつ延長 20m 以上を標準とする。</p> <p>b) 片切掘削 「片切掘削」は、下中図および下右図に示すような切取幅 5m 未満の領域Bを施工する場合とする。</p> <p>c) 水中掘削 「水中掘削」は、土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが 5m を超える場合、又は掘削深さが 5m 以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用できない場合で水中の掘削積込作業。</p> <p>d) 下中図に示すような箇所にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>e) 「現場制約あり」は、機械施工が不可能な場合に適用する。 f) 上記以外（小規模）は、1箇所当り施工量が 100m³ 以下の掘削・積込み作業、又は施工量が 100m³ 以上で現場が狭隘の場合の掘削・積込み作業の場合に適用する。</p>	<p>記載の追加</p>
---	---	--------------

注意事項		(控え頁)
		4 / 7

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法または「1. 10 3次元モデルによる数量算出方法」によることを標準とする。</p> <p>平均断面法 土量=平均断面積×延長 法面積=平均法長×延長</p> <p>(1) 掘削 1) 算出区分 掘削する領域、土質区分、施工方法ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。</p> <p>また、堤防横断構造物の場合、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。 (止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする)</p> <p>2. 法勾配(n)①砂地盤1:1.5 ②その他地盤1:1.0 上記は、一般的な場合であり、これにより難しい場合は、法面安定計算等により設定する。</p> <p>3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。</p> <p>2) 距離のとり方(道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。</p> <p style="text-align: center;">1-2-7</p>	<p style="text-align: center;">改 正</p> <p style="text-align: center;">現 行</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p>記載の追加</p>
	<p>現行なし →</p> <p>前頁から移動 →</p>	<p>2) 整地 整地の施工方法は、下記の項目に区分して算出する。</p> <p>整地 — 残土受け地での処理 敷均し(ルーズ) ※敷均し(ルーズ)の土量は、敷均し後の土量とし、変化率C=1.0とする。</p> <p>障害の有無 ①無し：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、バイパス工事など、工事をするうえでの障害が少ない工事) ②有り：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事等の交通規制を伴う工事、現場が不連続、構造物等の障害)</p> <p>3) 盛土 盛土の施工幅員は、下記の項目に区分して算出する。(下図参照)</p> <p>盛土 — 路体(築堤)盛土 路床盛土 路体(築堤)盛土(ICT) 路床盛土(ICT)</p> <p>路体(築堤)盛土、路床盛土は施工幅員により下記のとおり区分して算出する。 ①2.5m未満 ②2.5m以上4.0m未満 ③4.0m以上</p> <p>障害の有無 ①無し：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、新設のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等) ②有り：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築(腹付、嵩上)工事等)</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法または「1. 10 3次元モデルによる数量算出方法」によることを標準とする。</p> <p>平均断面法 土量=平均断面積×延長 法面積=平均法長×延長</p> <p>(1) 掘削 1) 算出区分 掘削する領域、土質区分、施工方法ごとに区分して算出する。また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。</p> <p>また、堤防横断構造物の場合、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。</p>	<p>次頁へ移動</p>
注意事項			(控え頁) 5/7

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	備 考																																												
現	行	改	正																																												
<p>3) 距離の取り方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。 [参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR=50m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、「(1) 掘削3) 距離のとり方 (道路) [参考]」による。</p> <p>4) 距離のとり方 (河川) 築堤 (築堤部分の切土を含む) については、堤防法線 (川表天端肩) の距離を標準とする。 ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については平均距離とする。</p> <p>(3) 残土等処分 残土等処分の土量は地山土量とし、埋戻しの土量変化率 (C) を考慮する。 (例) 残土量=床掘り量-埋戻し量×土量変化率 (1/C)</p> <p>(4) 控除土量</p> <p>1) 横断構造物等 (管渠、函渠、樋門等) において、現地盤線以上の断面積が1m²以上となる場合は、盛土量からこれを控除する。</p>  <p>2) 構造物に裏込め材を使用する場合には、盛土量からこれを控除し、別途裏込め材 (セレクト材) の数量を算出する。</p>  <p style="margin-left: 200px;">注) セレクト材 堤防断面箇所については、 堤体材料と同一材料とする。</p> <p style="text-align: center;">1-2-11</p>		<p>現行どおり</p> <p>(5) 土質区分 土質分類と土質区分の関係は、下表のとおりである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="font-size: small;">区分 分類名称</th> <th style="font-size: small;">掘削</th> <th style="font-size: small;">床掘り・ 埋戻し</th> <th style="font-size: small;">積込 (m³)</th> <th style="font-size: small;">人力積込</th> <th style="font-size: small;">押土 (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: small;">レキ質土</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">砂・砂質土</td> <td>土砂</td> <td>土砂</td> <td>土砂</td> <td>土砂</td> <td>土砂</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">粘性土</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">岩塊・玉石</td> <td>岩塊・玉石</td> <td>岩塊・玉石</td> <td>岩塊・玉石</td> <td>岩塊・玉石</td> <td>岩塊・玉石</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">軟岩 I</td> <td rowspan="2">軟岩</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">土砂</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">土砂</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">軟岩 II</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">中硬岩</td> <td rowspan="2">硬岩</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">破碎岩</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">破碎岩</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">硬岩 I</td> </tr> </tbody> </table>	区分 分類名称	掘削	床掘り・ 埋戻し	積込 (m ³)	人力積込	押土 (m ³)	レキ質土						砂・砂質土	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	粘性土						岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	軟岩 I	軟岩	—	土砂	—	土砂	軟岩 II	中硬岩	硬岩	—	破碎岩	—	破碎岩	硬岩 I	<p>記載の追加</p>
区分 分類名称	掘削	床掘り・ 埋戻し	積込 (m ³)	人力積込	押土 (m ³)																																										
レキ質土																																															
砂・砂質土	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂																																										
粘性土																																															
岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石																																										
軟岩 I	軟岩	—	土砂	—	土砂																																										
軟岩 II																																															
中硬岩	硬岩	—	破碎岩	—	破碎岩																																										
硬岩 I																																															
注意事項		現行なし →	(控え頁) 6/7																																												

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

--	--

(6) 岩質の判定基準
岩質の判定基準は、下表を参考とする。

国土交通省岩分類	岩種グループ別	変成岩及び堆積岩										堆積岩				火成岩													
		主として古生代										中生代		第三紀		深成岩			火山岩										
		片麻岩	砂質片岩	黒色片岩	緑色片岩	千枚岩	珪岩・角岩	石灰岩	砂岩	粘板岩	輝緑凝灰岩	粘板岩	頁岩	砂岩	れき岩	頁岩泥岩	砂岩	凝灰岩	凝灰角礫岩	花こう岩	セン緑岩	ハンレイ岩	カンラン岩	蛇紋岩	流紋岩	ヒン岩	安山岩	玄武岩	集塊岩
軟岩Ⅰ	A	●		△	●		●	●	●	●	●	●	●	●	△	△	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	△
	B		△		●			●	●	●	●	●	●	△	△	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	△	
軟岩Ⅱ	A	▲	▲	○	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○	▲	▲	●	●	△	▲	▲	▲	▲	○	
	B				▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○	○	▲	▲	●	●	△	▲	▲	▲	▲	○	
中硬岩	A	△	▲	○	△	▲	○	△	△	△	△	△	△	○	○			△	△	△	△	○	△	△	△	△	△		
	B		▲	○	△		○	△	△	△	△	△	△	○	○			△	△	△	△	○	△	△	△	△	△		
硬岩Ⅰ	A	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	B	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
硬岩Ⅱ	A		○			○	○																						

● 全体に変化が進み変色しているもの。
△ 割れ目に沿って風化変色が少なく、岩片内部は新鮮なもの。
▲ 割れ目に沿って幅広く風化しているが球状、レンズ状に未風化部を残すもの。
○ 割れ目が少なく風化変色がほとんどなく新鮮で硬いもの。
◎ 岩石が特に硬く全く新鮮なもの。

* Aグループは、花崗岩・安山岩・砂岩・珪岩のように、造岩物質、固結度共に硬く、風化が進み、亀裂が入って、弾性波速度が遅くても、岩片耐圧強度の高い岩種類。
* Bグループは、頁岩・粘板岩・黒色片岩のように、造岩物質が軟らかく、風化が進むと泥化し新鮮なもので弾性波速度が早くても、岩片耐圧強度の低い岩種類

記載の追加

改正理由	一部改正	改 正 ----- 現 行	
------	------	---------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

2.1.2 作業土工

2.1.2.1 床掘工

1. 適用

河川・道路工事における床掘工に適用する。

2. 数量算出項目

床掘りは、2.1.1 土工参照の上、算出するものとする。

3. 区分

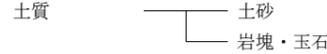
区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	単位	数量	備考
床掘り		○	○	○	m ³		
掘削補助機械搬入搬出					回		
基面整正					m ²		
舗装版破砕積込 (小規模土工)					m ²		

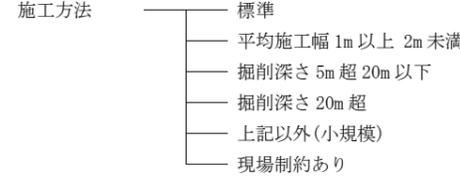
(2) 土質

土質による区分は、以下のとおりとする。



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、以下のとおりとする。



注) 1. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りで、「1箇所当り」とは、目的物1箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

(4) 土留方式の種類

土留方式の種類による区分は、以下のとおりとする。



2.1.2 作業土工

2.1.2.1 床掘工

1. 適用

河川・道路工事における床掘工に適用する。

2. 数量算出項目

床掘り、**床掘り(ICT)**は、2.1.1 土工参照の上、算出するものとする。

3. 区分

区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

床掘工

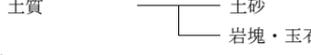
項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考
床掘り		○	○	○	○	m ³		
掘削補助機械搬入搬出						回		
基面整正						m ³		
舗装版破砕積込 (小規模土工)						m ²		

床掘工 (ICT)

項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考
床掘り (ICT)		○	○	○	○	m ³		

(2) 土質

土質による区分は、以下のとおりとする。



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、以下のとおりとする。



注) 1. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りで、「1箇所当り」とは、目的物1箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。



次頁へ移動

注意事項			(控え頁) 1/4
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考																																																								
<p>(5) 掘削補助機械搬入搬出 「搬入+搬出」を1回として必要回数を計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 床掘り勾配及び余裕幅 オープン掘削の床掘り勾配は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>土質区分</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>床掘り勾配</th> <th>小段の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中硬岩・硬岩</td> <td>5m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ</td> <td>1m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1m以上5m未満</td> <td>1 : 0.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td>1m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1m以上5m未満</td> <td>1 : 0.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1 : 0.6</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂</td> <td>5m未満</td> <td>1 : 1.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1 : 1.5</td> <td>下からH=5m毎に2m</td> </tr> <tr> <td>発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山</td> <td>2m未満</td> <td>1 : 1.0</td> <td>下からH=2m毎に2m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上記により難い場合は、別途考慮できる。</p> <p>余裕幅は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>足場工の有無</th> <th>余裕幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">オープン掘削</td> <td>足場工なし</td> <td>50cm</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>170cm (50cm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土留掘削</td> <td>足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)</td> <td>100cm (70cm)</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>220cm (100cm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。 3. 足場工が必要な場合は、H=2m以上の構造物。 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。</p>	土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅	中硬岩・硬岩	5m未満	直	—	全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH=5m毎に1m	軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1m未満	直	—	1m以上5m未満	1 : 0.3	—		全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH=5m毎に1m	1m未満	直	—	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1m以上5m未満	1 : 0.5	—	全掘削高5m以上	1 : 0.6	下からH=5m毎に1m	砂	5m未満	1 : 1.5	—	全掘削高5m以上	1 : 1.5	下からH=5m毎に2m	発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2m未満	1 : 1.0	下からH=2m毎に2m	種別	足場工の有無	余裕幅	オープン掘削	足場工なし	50cm	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)	土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)	<p style="color: red;">床掘り(ICT)</p> <p>施工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> — 標準 — 平均施工幅 1m以上 2m未満 <p>(4) 土留方式の種類 土留方式の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土留方式の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 無し — 自立式 — グランドアンカー式 — 切梁腹起式 <p>(5) 障害の有無 障害の有無は、以下のとおりとする。 有り: ①床掘り作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合(たとえば作業障害が多い場合) ②土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合 ③「平均施工幅2m以上」及び「平均施工幅1m以上2m未満」において掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合 無し: ①構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合 ②構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合 ③土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合</p> <p>(6) 掘削補助機械搬入搬出 「搬入+搬出」を1回として必要回数を計上する。</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>	<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅																																																							
中硬岩・硬岩	5m未満	直	—																																																							
	全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH=5m毎に1m																																																							
軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1m未満	直	—																																																							
	1m以上5m未満	1 : 0.3	—																																																							
	全掘削高5m以上	1 : 0.3	下からH=5m毎に1m																																																							
	1m未満	直	—																																																							
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1m以上5m未満	1 : 0.5	—																																																							
	全掘削高5m以上	1 : 0.6	下からH=5m毎に1m																																																							
砂	5m未満	1 : 1.5	—																																																							
	全掘削高5m以上	1 : 1.5	下からH=5m毎に2m																																																							
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2m未満	1 : 1.0	下からH=2m毎に2m																																																							
種別	足場工の有無	余裕幅																																																								
オープン掘削	足場工なし	50cm																																																								
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)																																																								
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)																																																								
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)																																																								

注意事項		(控え頁) 2/4
------	--	--------------

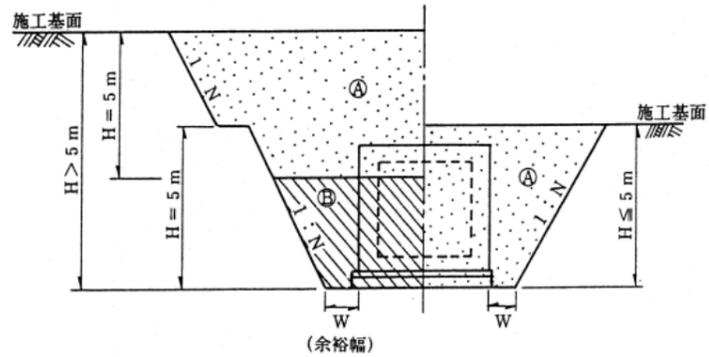
改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

(2) 積算区分

1) オープン掘削の場合

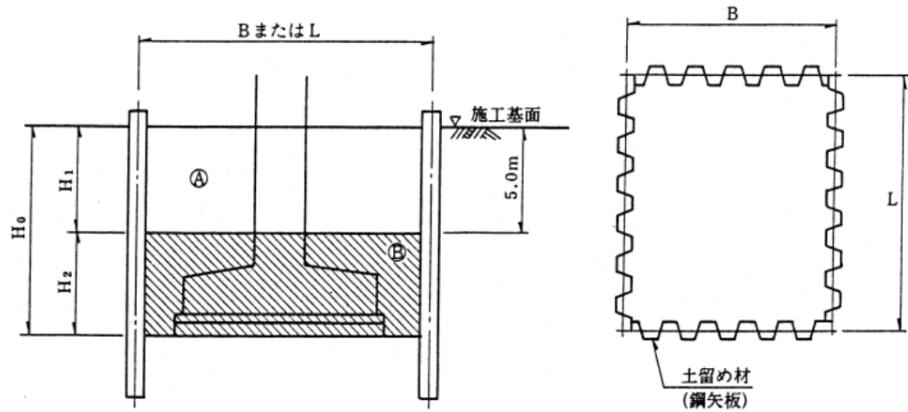
施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。



2) 土留掘削の場合

施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。

a) 自立式土留工の場合



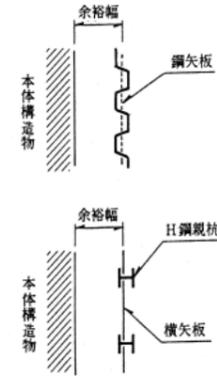
- 注) 1. 土留工の規模等により、A領域で同一機種による床掘りが不適当な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。
 2. B領域においては、基礎杭等の作業障害がある場合とない場合に区分して算出する。

1-2-14

前頁から移動

余裕幅は、下表のとおりとする。

種別	足場工の有無	余裕幅
オープン掘削	足場工なし	50cm
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)



- 注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。
 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。
 3. 足場工が必要な場合は、 $H=2\text{m}$ 以上の構造物。
 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。
 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。
 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。

現行どおり

次頁へ移動

記載の削除

注意事項			(控え頁) 3/4
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

2.1.2.2 埋戻工

1. 適用

構造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。

2. 数量算出項目

埋戻し、タンパ締固めの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工方法、土質区分、締固めの有無とする。

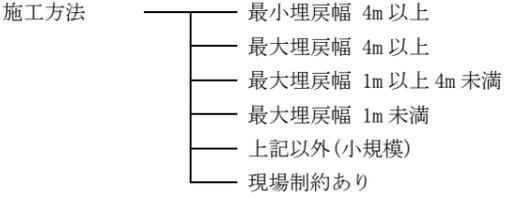
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	施 工 方 法	土 質	締 固 め の 有 無	単 位	数 量	備 考
埋 戻 し		○	○	○	m3		
タ ン パ 締 固 め		×	×	×	m3		

注) 1. 土量は、締固め後の土量である。

(2) 施工方法区分

施工方法による区分は、以下のとおりとする。



施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

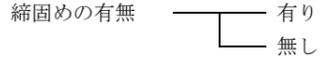
(3) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。



(4) 締固めの有無区分

締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。



1-1-17

現行どおり

(3) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。



※上記以外(小規模)及び現場制約ありの場合

(4) 締固めの有無区分

締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。



※現場制約ありの場合

記載の追加

注意事項			(控え頁) 4/4
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

<p>2.2 安定処理工</p> <p>2.2.1 安定処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) スタビライザ混合 現位置での路上混合作業で、混合深さ1m以下、かつ1層までの混合に適用する。なお、1層の混合深さが1mを超える場合や2層以上混合する場合は、別途考慮する。</p> <p>(2) バックホウ混合 現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1m以下における現位置での混合作業、又は構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2m以下における現位置での混合作業に適用する。なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。</p> <p>① 施工現場が狭隘な場合 ② 転石がある場合 ③ 移設出来ない埋設物がある場合</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>安定処理面積を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、使用機種、施工箇所、混合深さ、規格とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">使用機種</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">混合深さ</th> <th rowspan="2">規 格</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>使用機種</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安定処理面積</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 使用機器 スタビライザ、バックホウごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 施工箇所 バックホウの場合には、路床と構造物基礎ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 混合深さ 施工面積を混合深さごとに区分して算出する。</p> <p>①スタビライザ</p> <ul style="list-style-type: none"> —— 0.6m以下 —— 0.6mを超え1m以下 <p>②バックホウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 路床 —— 1m以下 構造物基礎 —— 1m以下 —— 1mを超え2m以下 <p>(4) 規格区分 施工面積を固化材の使用量 (t/100m²当り)、混合回数 (スタビライザ混合) ごとに区分して算出する。</p>	項目	区 分		使用機種	施工箇所	混合深さ	規 格	単 位	数 量	備 考	使用機種	施工箇所	安定処理面積	○	○	○	○	○	m ²			
項目		区 分									使用機種	施工箇所	混合深さ	規 格	単 位	数 量	備 考					
	使用機種	施工箇所																				
安定処理面積	○	○	○	○	○	m ²																

<p>2.2 安定処理工</p> <p>2.2.1 安定処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) スタビライザ混合 現位置での路上混合作業で、混合深さ1m以下、かつ1層までの混合に適用する。なお、1層の混合深さが1mを超える場合や2層以上混合する場合は、別途考慮する。</p> <p>(2) バックホウ混合 現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1m以下における現位置での混合作業、又は構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2m以下における現位置での混合作業に適用する。なお、固化材は石灰やセメント系にかかわらず適用する。ただし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。</p> <p>① 施工現場が狭隘な場合 ② 転石がある場合 ③ 移設出来ない埋設物がある場合</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: right;">→ 次頁へ移動</p>

記載の変更

注意事項

(控え頁) 1/2

工 種	安定処理工
-----	-------

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行		改 正	
<p>1-2-20</p>	<p>前頁から移動 →</p> <p>(4) 規格区分 施工面積を固化材の使用量 (t/100m² 当り)、混合回数 (スタビライザ混合)、固化材の種類ごとに区分して算出する。</p>	<p>記載の追加</p>	
<p>注意事項</p>			<p>(控え頁) 2/2</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改 正	備 考
---	---	--------	--------

5. 参考図

5-1. 発泡スチロールのみ

5-2. 支柱・壁面材設置有り

5-3. 簡易な壁体構造の壁面材有り

1-3-7

5. 参考図

5-1. 発泡スチロールのみ

5-2. 支柱・壁面材設置有り

5-3. 簡易な壁体構造の壁面材有り

記載の追加

注意事項		(控え頁)	1/1
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行																											
現 行		改 正																											
<p>4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)に、張りコンクリートは適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物種別、コンクリート規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 項 目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>構造物種別</th> <th>コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル練り</td> <td>A</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて構造物種別等を区分することより「A」を適用する。</p> <p>(2) 構造物種別 構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。 ①無筋・鉄筋構造物 ②小型構造物</p> <p>(3) コンクリート規格 コンクリート規格ごとの数量を算出し集計する。</p> <p>(4) モルタル練り セメント種類は、規格ごとの数量を算出し集計する。</p> <p>1-4-2</p>		区 分 項 目	3次元 モデル	属性情報				構造物種別	コンクリート規格	単位	数量	備考	コンクリート	A	○	○	m ³			モルタル練り	A		○	m ³			<p>4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2) 10章共同溝工(1)(2)に、張りコンクリートは適用しない。</p> <p>現行どおり</p>		備考
区 分 項 目	3次元 モデル			属性情報																									
		構造物種別	コンクリート規格	単位	数量	備考																							
コンクリート	A	○	○	m ³																									
モルタル練り	A		○	m ³																									
注意事項			(控え頁) 1/1																										

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.2 型枠工

4.2.1 型枠工

1. 適用

一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。
ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、7章 7.1.1 函渠工(1)、第3編(道路編)7章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)等には適用しない。

2. 数量算出項目

型枠の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

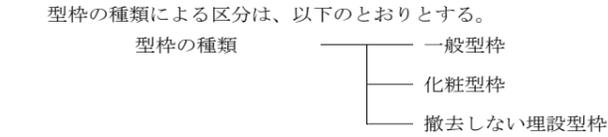
区分は、型枠の種類、構造物の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

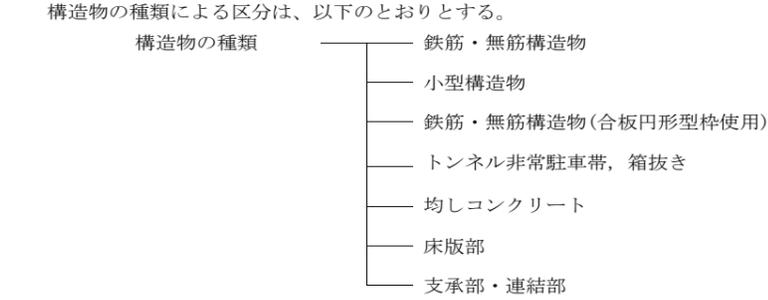
項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			型枠の種類	構造物の種類	単位	数量
型 枠		B	○	○	m ²	

注) 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。
2. 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)は、半径5m以下の円形部分に適用する。
「型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて型枠の種類や構造物種別を区分することより「B」を適用する。

(2) 型枠の種類区分



(3) 構造物の種類区分



1-4-5

4.2 型枠工

4.2.1 型枠工

1. 適用

一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。
ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、4. 4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章 6. 4. 1場所打擁壁工(1)、7章 7. 1. 1函渠工(1)、第3編(道路編)7章 7. 1. 1橋台・橋脚工(1)、~~10章 10.1 共同溝工(1)~~等には適用しない。

現行どおり

記載の削除

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行		改 正	備 考																																																																																																																																																							
<p>4.3 鉄筋工</p> <p>4.3.1 鉄筋工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 河川、海岸、道路、水路、コンクリート橋梁、鋼橋床版の鉄筋構造物の加工・組立、及び、差筋、場所打杭の鉄筋かごの加工・組立に適用する。なお、鉄筋径は、D10(φ9)以上 D51(φ51)以下とする。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 鉄筋の質量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 区分は、規格・仕様、材料規格、鉄筋径、施工条件、構造物種別、施工規模、太径鉄筋の割合とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 加工・組立・差筋</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="9">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格 仕様</th> <th>材料 規格</th> <th>鉄筋 径</th> <th>施工 条件</th> <th>構造物 種別</th> <th>施工 規模</th> <th>太径鉄筋 の割合</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄 筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 規格・仕様区分において「場所打杭用かご筋」に区分される場合は、施工条件区分、構造物種別は算出する必要はない。</p> <p>「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様等を区分することより「B」を適用する。</p> <p>(2) 規格・仕様区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>規格・仕事</th> <th>適用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般構造物</td> <td>構造物の鉄筋の加工・組立</td> </tr> <tr> <td>場所打杭用かご筋</td> <td>場所打杭用鉄筋かごの加工・組立</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 材料規格区分および鉄筋径区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>材料規格</th> <th>鉄 筋 径</th> <th>材料規格</th> <th>鉄 筋 径</th> <th>材料規格</th> <th>鉄 筋 径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SD295</td> <td>D10</td> <td rowspan="3">SD345</td> <td>D10</td> <td rowspan="3">SR235</td> <td>φ9</td> </tr> <tr> <td>D13</td> <td>D13</td> <td>φ13</td> </tr> <tr> <td>D16</td> <td>D16~D25</td> <td>φ16~φ25</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D29~D32</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D35</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D38</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D41</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D51</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">1-4-9</p>	区分 項目	3次元 モデル	属性情報									単位	数量	備考	規格 仕様	材料 規格	鉄筋 径	施工 条件	構造物 種別	施工 規模	太径鉄筋 の割合			鉄 筋	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	t			規格・仕事	適用基準	一般構造物	構造物の鉄筋の加工・組立	場所打杭用かご筋	場所打杭用鉄筋かごの加工・組立	材料規格	鉄 筋 径	材料規格	鉄 筋 径	材料規格	鉄 筋 径	SD295	D10	SD345	D10	SR235	φ9	D13	D13	φ13	D16	D16~D25	φ16~φ25				D29~D32						D35						D38						D41						D51			→	<p>4.3 鉄筋工</p> <p>4.3.1 鉄筋工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 河川、海岸、道路、水路、コンクリート橋梁、鋼橋床版、トンネル等の鉄筋構造物のうち、現場における加工・組立、及び、差筋、場所打杭の鉄筋かごの加工・組立に適用する。なお、鉄筋径は、D10(φ9)以上 D51(φ51)以下とする。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 鉄筋の質量加工質量、組立質量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 区分は、規格・仕様、材料規格、鉄筋径、施工条件、構造物種別、施工規模、太径鉄筋の割合とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 加工・組立・差筋</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="9">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格 仕様</th> <th>材料 規格</th> <th>鉄筋 径</th> <th>施工 条件</th> <th>構造物 種別</th> <th>施工 規模</th> <th>太径鉄筋 の割合</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄 筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">注) 規格・仕様区分において「場所打杭用かご筋」に区分される場合は、施工条件区分、構造物種別は算出する必要はない。</p> <p>「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様等を区分することより「B」を適用する。</p> <p>(2) 規格・仕様区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般構造物 (加工)</td> <td>構造物の鉄筋の加工 組立</td> </tr> <tr> <td>一般構造物 (組立)</td> <td>構造物の鉄筋の組立</td> </tr> <tr> <td>場所打杭用かご筋 (加工)</td> <td>場所打杭用鉄筋かごの加工 組立</td> </tr> <tr> <td>場所打杭用かご筋 (組立)</td> <td>場所打杭用鉄筋かごの組立</td> </tr> <tr> <td>橋梁用床版 (加工)</td> <td>橋梁床版における鉄筋の加工</td> </tr> <tr> <td>橋梁用床版 (組立)</td> <td>橋梁床版における鉄筋の組立</td> </tr> <tr> <td>トンネル内構造物 (加工)</td> <td>トンネル内構造物における鉄筋の加工</td> </tr> <tr> <td>トンネル内構造物 (組立)</td> <td>トンネル内構造物における鉄筋の組立</td> </tr> <tr> <td>差筋及び杭頭処理 (加工)</td> <td>差筋及び杭頭処理における鉄筋の加工</td> </tr> <tr> <td>差筋及び杭頭処理 (組立)</td> <td>差筋及び杭頭処理における鉄筋の組立</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">→ 次頁へ移動</p>	区分 項目	3次元 モデル	属性情報									単位	数量	備考	規格 仕様	材料 規格	鉄筋 径	施工 条件	構造物 種別	施工 規模	太径鉄筋 の割合			鉄 筋	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	t			規格・仕様	適用基準	一般構造物 (加工)	構造物の鉄筋の加工 組立	一般構造物 (組立)	構造物の鉄筋の組立	場所打杭用かご筋 (加工)	場所打杭用鉄筋かごの加工 組立	場所打杭用かご筋 (組立)	場所打杭用鉄筋かごの組立	橋梁用床版 (加工)	橋梁床版における鉄筋の加工	橋梁用床版 (組立)	橋梁床版における鉄筋の組立	トンネル内構造物 (加工)	トンネル内構造物における鉄筋の加工	トンネル内構造物 (組立)	トンネル内構造物における鉄筋の組立	差筋及び杭頭処理 (加工)	差筋及び杭頭処理における鉄筋の加工	差筋及び杭頭処理 (組立)	差筋及び杭頭処理における鉄筋の組立	→	<p>記載の追加・削除</p> <p>記載の追加・削除</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の追加</p>
区分 項目			3次元 モデル	属性情報											単位	数量	備考																																																																																																																																									
	規格 仕様	材料 規格		鉄筋 径	施工 条件	構造物 種別	施工 規模	太径鉄筋 の割合																																																																																																																																																		
鉄 筋	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	t																																																																																																																																															
規格・仕事	適用基準																																																																																																																																																									
一般構造物	構造物の鉄筋の加工・組立																																																																																																																																																									
場所打杭用かご筋	場所打杭用鉄筋かごの加工・組立																																																																																																																																																									
材料規格	鉄 筋 径	材料規格	鉄 筋 径	材料規格	鉄 筋 径																																																																																																																																																					
SD295	D10	SD345	D10	SR235	φ9																																																																																																																																																					
	D13		D13		φ13																																																																																																																																																					
	D16		D16~D25		φ16~φ25																																																																																																																																																					
			D29~D32																																																																																																																																																							
			D35																																																																																																																																																							
			D38																																																																																																																																																							
			D41																																																																																																																																																							
			D51																																																																																																																																																							
区分 項目	3次元 モデル	属性情報									単位	数量	備考																																																																																																																																													
		規格 仕様	材料 規格	鉄筋 径	施工 条件	構造物 種別	施工 規模	太径鉄筋 の割合																																																																																																																																																		
鉄 筋	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	t																																																																																																																																															
規格・仕様	適用基準																																																																																																																																																									
一般構造物 (加工)	構造物の鉄筋の加工 組立																																																																																																																																																									
一般構造物 (組立)	構造物の鉄筋の組立																																																																																																																																																									
場所打杭用かご筋 (加工)	場所打杭用鉄筋かごの加工 組立																																																																																																																																																									
場所打杭用かご筋 (組立)	場所打杭用鉄筋かごの組立																																																																																																																																																									
橋梁用床版 (加工)	橋梁床版における鉄筋の加工																																																																																																																																																									
橋梁用床版 (組立)	橋梁床版における鉄筋の組立																																																																																																																																																									
トンネル内構造物 (加工)	トンネル内構造物における鉄筋の加工																																																																																																																																																									
トンネル内構造物 (組立)	トンネル内構造物における鉄筋の組立																																																																																																																																																									
差筋及び杭頭処理 (加工)	差筋及び杭頭処理における鉄筋の加工																																																																																																																																																									
差筋及び杭頭処理 (組立)	差筋及び杭頭処理における鉄筋の組立																																																																																																																																																									

注意事項			(控え頁)
			1/4

改正理由	一部改正	改正 <hr/> 現行	備考																																																																												
	現 行	改 正																																																																													
	<p>(4) 施工条件区分 トンネル内の鉄筋組立作業がある場合は、その数量を区分して算出する。 なお、トンネル内に区分した場合は、(5) 構造物種別は算出する必要はない。</p> <p>(5) 構造物種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切梁のある構造物</td> <td>切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H₁）＜（H₂）×2</td> </tr> <tr> <td>地下構造物</td> <td>地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>橋梁用床版</td> <td>鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>RC場所打ホロースラブ橋</td> <td>RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>差筋及び杭頭処理</td> <td>差筋及び杭頭処理作業</td> </tr> </tbody> </table> <p>(6) 施工規模区分 1工事に2つ以上の規格・仕様を適用する場合は、1工事あたりの全体数量を算出する。</p> <p>(7) 太径鉄筋の割合区分 1単位当たり構造物に使用する太径鉄筋（D38以上D51以下）の質量を算出し、1単位当たり構造物における割合を以下の方法により算出する。 なお、(5) 構造物種別で橋梁用床版またはRC場所打ホロースラブ橋を選択した場合は、算出する必要はない。</p> $\text{太径鉄筋の割合} = \frac{1 \text{ 単位当たり構造物の設計太径鉄筋質量}}{1 \text{ 単位当たり構造物の設計質量}}$ <p>(1 単位当たり構造物の参考例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1工事で複数の橋脚を施工する場合 橋脚1基毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。 1工事で複数の場所打杭用かご筋を施工する場合 杭1本毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。 <p>(8) その他 鉄筋の継手方法が機械継手の場合、場所打杭用かご筋以外でフレア溶接を行う場合は別途数量を算出するものとする。</p> <p style="text-align: center;">1-4-10</p>	規格・仕様	適用基準	切梁のある構造物	切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H ₁ ）＜（H ₂ ）×2	地下構造物	地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業	橋梁用床版	鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業	RC場所打ホロースラブ橋	RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業	差筋及び杭頭処理	差筋及び杭頭処理作業	<p>前頁から移動 →</p> <p>現行なし →</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p>	<p>(3) 材料規格区分および鉄筋径区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料規格</th> <th>鉄筋径</th> <th>材料規格</th> <th>鉄筋径</th> <th>材料規格</th> <th>鉄筋径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">SD295</td> <td>D10</td> <td rowspan="10">SD345</td> <td>D10</td> <td rowspan="3">SR235</td> <td>φ9</td> </tr> <tr> <td>D13</td> <td>D13</td> <td>φ13</td> </tr> <tr> <td>D16</td> <td>D16~D25</td> <td>φ16~φ25</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D29~D32</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D35</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D38</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D41</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D51</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>→</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料規格</th> <th>鉄筋径</th> <th>材料規格</th> <th>鉄筋径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">SD390</td> <td>D25</td> <td rowspan="4">SD490</td> <td>D35</td> </tr> <tr> <td>D29</td> <td>D38</td> </tr> <tr> <td>D32</td> <td>D41</td> </tr> <tr> <td>D35</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D38</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D41</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 施工条件区分 トンネル内の鉄筋組立作業がある場合は、その数量を区分して算出する。 なお、トンネル内に区分した場合は、(5) 構造物種別は算出する必要はない。</p> <p>(5) 構造物種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切梁のある構造物</td> <td>切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H₁）＜（H₂）×2</td> </tr> <tr> <td>地下構造物</td> <td>地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>橋梁用床版</td> <td>鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>RC場所打ホロースラブ橋</td> <td>RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業</td> </tr> <tr> <td>差筋及び杭頭処理</td> <td>差筋及び杭頭処理作業</td> </tr> </tbody> </table> <p>(6) 施工規模区分 1工事に2つ以上の規格・仕様を適用する場合は、1工事あたりの全体数量を算出する。</p> <p>(7) 太径鉄筋の割合区分 1単位当たり構造物に使用する太径鉄筋（D38以上D51以下）の質量を算出し、1単位当たり構造物における割合を以下の方法により算出する。 なお、(5) 構造物種別で橋梁用床版またはRC場所打ホロースラブ橋を選択した場合は、算出する必要はない。</p> $\text{太径鉄筋の割合} = \frac{1 \text{ 単位当たり構造物の設計太径鉄筋質量}}{1 \text{ 単位当たり構造物の設計質量}}$ <p>(1 単位当たり構造物の参考例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1工事で複数の橋脚を施工する場合 橋脚1基毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。 1工事で複数の場所打杭用かご筋を施工する場合 杭1本毎の太径鉄筋の質量を算出し、集計する。 <p>(8) その他 鉄筋の継手方法が機械継手の場合、場所打杭用かご筋以外でフレア溶接を行う場合は別途数量を算出するものとする。</p>	材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	SD295	D10	SD345	D10	SR235	φ9	D13	D13	φ13	D16	D16~D25	φ16~φ25		D29~D32			D35			D38			D41			D51		材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	SD390	D25	SD490	D35	D29	D38	D32	D41	D35		D38		D41		規格・仕様	適用基準	切梁のある構造物	切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H₁）＜（H₂）×2	地下構造物	地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業	橋梁用床版	鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業	RC場所打ホロースラブ橋	RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業	差筋及び杭頭処理	差筋及び杭頭処理作業	<p style="text-align: center;">記載の追加</p> <p style="text-align: center;">記載の削除</p> <p style="text-align: center;">記載の削除</p> <p style="text-align: center;">記載の削除</p>
規格・仕様	適用基準																																																																														
切梁のある構造物	切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H ₁ ）＜（H ₂ ）×2																																																																														
地下構造物	地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業																																																																														
橋梁用床版	鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業																																																																														
RC場所打ホロースラブ橋	RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業																																																																														
差筋及び杭頭処理	差筋及び杭頭処理作業																																																																														
材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径	材料規格	鉄筋径																																																																										
SD295	D10	SD345	D10	SR235	φ9																																																																										
	D13		D13		φ13																																																																										
	D16		D16~D25		φ16~φ25																																																																										
	D29~D32																																																																														
	D35																																																																														
	D38																																																																														
	D41																																																																														
	D51																																																																														
材料規格	鉄筋径		材料規格	鉄筋径																																																																											
SD390	D25		SD490	D35																																																																											
	D29	D38																																																																													
	D32	D41																																																																													
	D35																																																																														
	D38																																																																														
D41																																																																															
規格・仕様	適用基準																																																																														
切梁のある構造物	切梁のある構造物、立杭、及び深礎工（掘削坑内組立て）の加工・組立作業（H₁）＜（H₂）×2																																																																														
地下構造物	地表面下で覆工板等に覆われて施工する構造物の加工・組立作業																																																																														
橋梁用床版	鋼橋用床版（PC床版は除く）の加工・組立作業																																																																														
RC場所打ホロースラブ橋	RC場所打ホロースラブ橋の加工・組立作業																																																																														
差筋及び杭頭処理	差筋及び杭頭処理作業																																																																														
注意事項			(控え頁) 2/4																																																																												

改正理由	一部改正	改正 現行	
現行	改正	備考	
<p>4. 参考図</p> <p> $H_1 < 2H_2 \dots T_1$ (切梁のある構造物) $H_1 \geq 2H_2 \dots$ 補正なし </p> <p>覆工板を外す、またはない。…T_1 (切梁のある構造物)</p> <p>覆工板</p> <p>覆工板を外さず作業する…T_2 (地下構造物)</p> <p>1-4-11</p>	<p>削除</p> <p>削除</p> <p>削除</p>	<p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p>	
注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>3/4</p>

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行																																																																											
現	行	改	正																																																																										
<p>4.3.2 ガス圧接</p> <p>1. 適用</p> <p>鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式の高圧接工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋の高圧接箇所を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、施工規模とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>施工規模</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス圧接</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「ガス圧接」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格や施工規模を区分することにより「B」を適用する。</p> <p>(2) 規格区分</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>D 1 6 + D 1 6</td></tr> <tr><td>D 1 9 + D 1 9</td></tr> <tr><td>D 2 2 + D 2 2</td></tr> <tr><td>D 2 5 + D 2 5</td></tr> <tr><td>D 2 9 + D 2 9</td></tr> <tr><td>D 3 2 + D 3 2</td></tr> <tr><td>D 3 5 + D 3 5</td></tr> <tr><td>D 3 8 + D 3 8</td></tr> <tr><td>D 4 1 + D 4 1</td></tr> <tr><td>D 5 1 + D 5 1</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 径違いの圧接の場合は、上位の規格による。</p> <p>(3) 施工規模区分</p> <p>1 工事における全規模の全体数量が 1 0 0 箇所以上であれば「無」、1 0 0 箇所未満であれば「有」として区分する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	施工規模	単位	数量	備考	ガス圧接	B	○	○	○	箇所		規 格	D 1 6 + D 1 6	D 1 9 + D 1 9	D 2 2 + D 2 2	D 2 5 + D 2 5	D 2 9 + D 2 9	D 3 2 + D 3 2	D 3 5 + D 3 5	D 3 8 + D 3 8	D 4 1 + D 4 1	D 5 1 + D 5 1	<p>4.3.2 ガス圧接継手・機械式継手</p> <p>1. 適用</p> <p>鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式の高圧接継手工、機械式継手（グラウト）、機械式継手（ねじ加工）の場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋の高圧接継手箇所を区分ごとに算出する。 機械式継手の箇所を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、施工規模とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>施工規模</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス圧接継手 機械式継手</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>⊖</td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「ガス圧接継手・機械式継手」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格や施工規模を区分することにより「B」を適用する。</p> <p>(2) 規格区分</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="color: red;">ガス圧接継手規格</th> <th style="color: red;">機械式継手規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="color: red;">D 1 6 + D 1 6</td><td style="color: red;">D 1 3 + D 1 3</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 1 9 + D 1 9</td><td style="color: red;">D 1 6 + D 1 6</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 2 2 + D 2 2</td><td style="color: red;">D 1 9 + D 1 9</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 2 5 + D 2 5</td><td style="color: red;">D 2 2 + D 2 2</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 2 9 + D 2 9</td><td style="color: red;">D 2 5 + D 2 5</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 3 2 + D 3 2</td><td style="color: red;">D 2 9 + D 2 9</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 3 5 + D 3 5</td><td style="color: red;">D 3 2 + D 3 2</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 3 8 + D 3 8</td><td style="color: red;">D 3 5 + D 3 5</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 4 1 + D 4 1</td><td style="color: red;">D 3 8 + D 3 8</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 5 1 + D 5 1</td><td style="color: red;">D 4 1 + D 4 1</td></tr> <tr><td style="color: red;">D 5 1 + D 5 1</td><td style="color: red;">D 5 1 + D 5 1</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 径違いの圧接接合の場合は、上位の規格による。</p> <p>(3) 施工規模区分</p> <p>1 工事における全規模の全体数量が 1 0 0 箇所以上であれば「無」、1 0 0 箇所未満であれば「有」として区分する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	施工規模	単位	数量	備考	ガス圧接継手 機械式継手	B	○	○	⊖	箇所		ガス圧接継手規格	機械式継手規格	D 1 6 + D 1 6	D 1 3 + D 1 3	D 1 9 + D 1 9	D 1 6 + D 1 6	D 2 2 + D 2 2	D 1 9 + D 1 9	D 2 5 + D 2 5	D 2 2 + D 2 2	D 2 9 + D 2 9	D 2 5 + D 2 5	D 3 2 + D 3 2	D 2 9 + D 2 9	D 3 5 + D 3 5	D 3 2 + D 3 2	D 3 8 + D 3 8	D 3 5 + D 3 5	D 4 1 + D 4 1	D 3 8 + D 3 8	D 5 1 + D 5 1	D 4 1 + D 4 1	D 5 1 + D 5 1	D 5 1 + D 5 1	<p>記載の追加</p> <p>記載の追加・削除</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の削除</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p> <p>記載の削除</p>
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																																																							
		規格	施工規模	単位		数量	備考																																																																						
ガス圧接	B	○	○	○	箇所																																																																								
規 格																																																																													
D 1 6 + D 1 6																																																																													
D 1 9 + D 1 9																																																																													
D 2 2 + D 2 2																																																																													
D 2 5 + D 2 5																																																																													
D 2 9 + D 2 9																																																																													
D 3 2 + D 3 2																																																																													
D 3 5 + D 3 5																																																																													
D 3 8 + D 3 8																																																																													
D 4 1 + D 4 1																																																																													
D 5 1 + D 5 1																																																																													
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																										
			規格	施工規模	単位	数量	備考																																																																						
ガス圧接継手 機械式継手	B	○	○	⊖	箇所																																																																								
ガス圧接継手規格	機械式継手規格																																																																												
D 1 6 + D 1 6	D 1 3 + D 1 3																																																																												
D 1 9 + D 1 9	D 1 6 + D 1 6																																																																												
D 2 2 + D 2 2	D 1 9 + D 1 9																																																																												
D 2 5 + D 2 5	D 2 2 + D 2 2																																																																												
D 2 9 + D 2 9	D 2 5 + D 2 5																																																																												
D 3 2 + D 3 2	D 2 9 + D 2 9																																																																												
D 3 5 + D 3 5	D 3 2 + D 3 2																																																																												
D 3 8 + D 3 8	D 3 5 + D 3 5																																																																												
D 4 1 + D 4 1	D 3 8 + D 3 8																																																																												
D 5 1 + D 5 1	D 4 1 + D 4 1																																																																												
D 5 1 + D 5 1	D 5 1 + D 5 1																																																																												
注意事項	1-4-12		(控え頁) 4/4																																																																										

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

6.4 場所打擁壁工

6.4.1 場所打擁壁工(1)

1. 適用

擁壁工の施工に適用する。

2. 数量算出項目

小型擁壁、重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁、ペーラインコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

- 注) 1. 基礎碎石厚さ20cmを超える場合は、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込碎石工」によるものとする。
 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」によるものとする。

3. 区分

区分は、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎碎石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報										備考
			平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	
小型擁壁	A	○	○	×	×	○	○	○	×	m ³			
重力式擁壁	A	○	○	×	×	○	○	○	○	m ³			
もたれ式擁壁	A	×	○	×	×	○	○	○	○	m ³			
逆T式擁壁	A	×	○	×	○	○	○	○	○	m ³			
L型擁壁	A	×	○	×	○	○	○	○	○	m ³			

各項目は、3次元モデルより体積を算出する。属性情報を用いて平均擁壁高さ等を区分することにより「A」を適用する。

- 注) 1. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
 3. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
 4. 圧送管延長区分は、6.4.2 場所打擁壁工(2) 3. 区分(3) に準ずる。

1-6-11

6.4 場所打擁壁工

6.4.1 場所打擁壁工(1)

1. 適用

擁壁工の施工に適用する。

2. 数量算出項目

小型擁壁、重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁、ペーラインコンクリートの数量を区分ごとに算出する。

- 注) 1. 基礎碎石厚さ20cmを超える場合は、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込碎石工」によるものとする。
 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」によるものとする。
 3. 鉄筋が必要な場合は、「第1編(共通編)4.3鉄筋工」によるものとする。

3. 区分

区分は、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、~~鉄筋量~~、基礎碎石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報										備考
			平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	
小型擁壁	A	○	○	×	×	○	○	○	×	m ³			
重力式擁壁	A	○	○	×	×	○	○	○	○	m ³			
もたれ式擁壁	A	×	○	×	×	○	○	○	○	m ³			
逆T式擁壁	A	×	○	×	○	○	○	○	○	m ³			
L型擁壁	A	×	○	×	○	○	○	○	○	m ³			

現行どおり

記載の追加

記載の削除

記載の削除

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

工 種	サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、 サンドマット工
-----	-------------------------------------

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																											
現 行		改 正																																																																																											
8章 地盤改良工 8.1 サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、サンドマット工 1. 適用 粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行うサンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、サンドマット工及びこれらの工種の併用工に適用する。 2. 数量算出項目 サンドドレーン、サンドコンパクションパイル及びサンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の本数、サンドマットの体積を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、杭径、打設長、規格とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>杭径</th> <th>打設長</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションパイル</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドマット</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) 杭径区分 サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を杭径ごとに区分して算出する。 サンドドレーン、サンドコンパクションパイル併用工については、工種毎に区分して1本当り内訳にて算出する。</p> <p>(3) 打設長区分 サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を打設長ごとに区分して算出する。 サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の場合は、工種毎の打設長で判断せず、造成する砂杭1本当りの打設長で区分する。 サンドマットがある場合、サンドマットの厚みを含む打設長とする。</p> <p>(4) サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工 サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工については、(1)数量算出項目及び区分一覧表で算出した以外に各々サンドドレーン部分、サンドコンパクションパイル部分に分けて算出する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					杭径	打設長	規格	単位	数量	サンドドレーン		B	○	○	○	本		サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本		サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本		サンドマット		A	×	×	○	m ³		8章 地盤改良工 8.1 サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、サンドマット工 1. 適用 粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う サンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工、 サンドマット工及び これらの工種の併用工 に適用する。 2. 数量算出項目 サンドドレーン、サンドコンパクションパイル及びサンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の本数、 サンドマットの体積を区分ごとに算出する。 3. 区分 区分は、 杭径、打設長、 規格とする。 (1) 数量算出項目及び区分一覧表 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>杭径</th> <th>打設長</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションパイル</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>サンドマット</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) 杭径区分 サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を杭径ごとに区分して算出する。 サンドドレーン、サンドコンパクションパイル併用工については、工種毎に区分して1本当り内訳にて算出する。</p> <p>(3) 打設長区分 サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの本数を打設長ごとに区分して算出する。 サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工の場合は、工種毎の打設長で判断せず、造成する砂杭1本当りの打設長で区分する。 サンドマットがある場合、サンドマットの厚みを含む打設長とする。</p> <p>(4) サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工 サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工については、(1)数量算出項目及び区分一覧表で算出した以外に各々サンドドレーン部分、サンドコンパクションパイル部分に分けて算出する。</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報					杭径	打設長	規格	単位	数量	サンドドレーン		B	○	○	○	本		サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本		サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本		サンドマット		A	×	×	○	m ³		記載の削除 記載の削除 記載の削除 記載の削除 記載の削除 記載の削除
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																																																																							
		杭径	打設長	規格		単位	数量																																																																																						
サンドドレーン		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドマット		A	×	×	○	m ³																																																																																							
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																										
			杭径	打設長	規格	単位	数量																																																																																						
サンドドレーン		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドコンパクションパイル		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工		B	○	○	○	本																																																																																							
サンドマット		A	×	×	○	m ³																																																																																							
注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																										

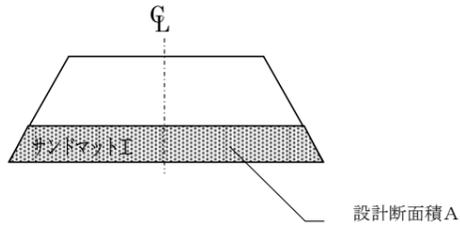
改正理由	一部改正	改正 現行
------	------	----------

現行	改正	備考
----	----	----

サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工1本当り内訳

項目	サンドドレーン部分		サンドコンパクションパイル部分	
	単位	数量	単位	数量
規格	-	-	-	-
杭径	m		m	
打設長	m		m	

(5) サンドマットの対象体積
 サンドマット用砂量の設計体積は次式による。
 $V_m = A \times L$
 V_m : サンドマット用砂の設計体積 (m³)
 A : 設計断面積 (m²)
 L : 設計延長 (m)



4. 数量算出方法
 数量算出方法は、「第1章(共通編) 1章基本事項」による

5. 参考図(施工図)

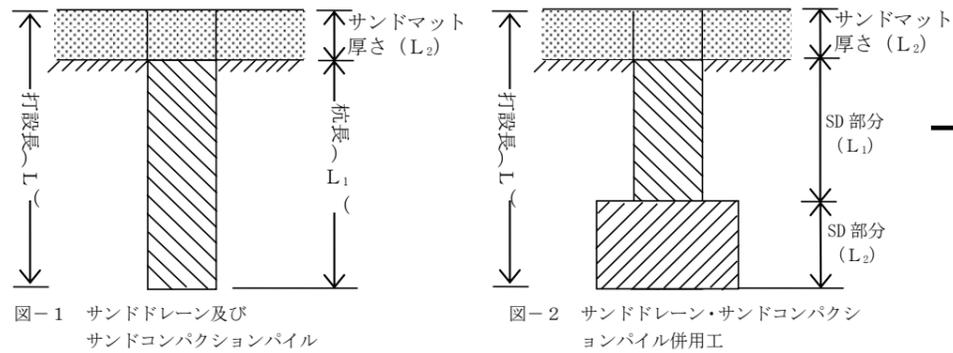


図-1 サンドドレーン及び
サンドコンパクションパイル

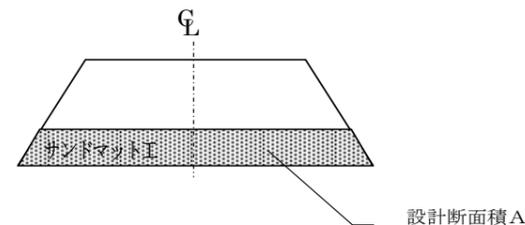
図-2 サンドドレーン・サンドコンパクシ
ョンパイル併用工

1-8-3

~~サンドドレーン・サンドコンパクションパイル併用工1本当り内訳~~

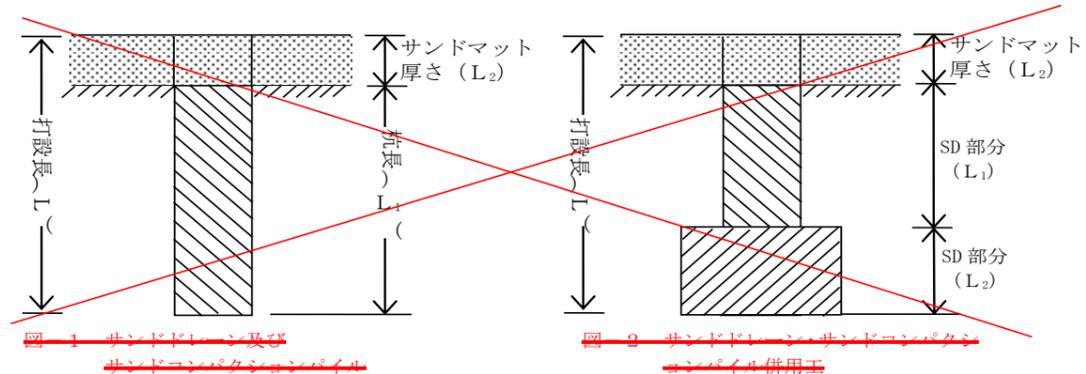
項目	サンドドレーン部分		サンドコンパクションパイル部分	
	単位	数量	単位	数量
規格	-	-	-	-
杭径	m		m	
打設長	m		m	

(2) サンドマットの対象体積
 サンドマット用砂量の設計体積は次式による。
 $V_m = A \times L$
 V_m : サンドマット用砂の設計体積 (m³)
 A : 設計断面積 (m²)
 L : 設計延長 (m)



4. 数量算出方法
 数量算出方法は、「第1章(共通編) 1章基本事項」による

~~5. 参考図(施工図)~~



~~図-1 サンドドレーン及び
サンドコンパクションパイル~~

~~図-2 サンドドレーン・サンドコンパクシ
ョンパイル併用工~~

記載の削除

記載の変更

記載の削除

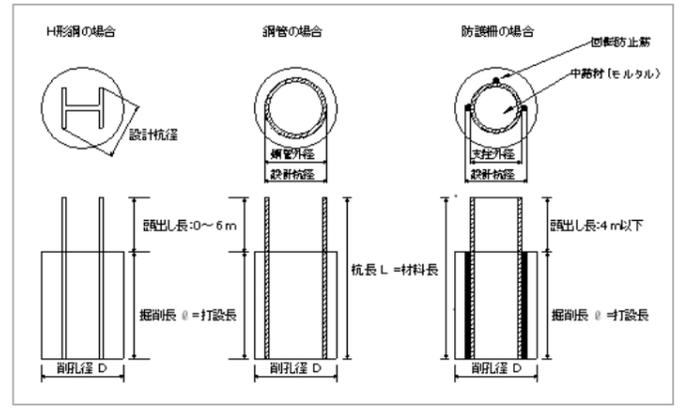
注意事項		(控え頁) 2/2
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

(3) ダウンザホールハンマ工
別紙-1の数量のほか下記項目について算出する。

1) H形鋼を使用する場合は、H形鋼の対角線長とし、鋼管（防護柵を含む）を使用する場合は設計杭径は鋼管の外径とし、数量を算出する。なお、設計杭径については小数第1位以下を四捨五入して算出する。



2) 土質区分別掘削長（1本当たり）
杭打設長の最小単位は、0.1mを標準とする。

区 分	杭 種 別					
	モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	H形鋼杭 (土砂埋戻し)	鋼管杭 (土砂埋戻し)	防護柵 (モルタル杭)
掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○

区 分	土 質 区 分			
	砂質土	粘性土	硬質土 岩塊・玉石 軟岩 中硬岩	硬岩
掘削長 (m)	○	○	○	○

3) モルタル杭使用における杭1本当たりモルタル使用量は以下のとおりとする。
 $Q = \pi / 4 \times D_1^2 \times \ell$
 Q : モルタル使用量 (m³/本)
 D_1 : 削孔径 (m)
 ℓ : 打設長 (m)

4) コンクリート杭使用におけるモルタル、コンクリート（生コン）杭1本当たり使用量は以下のとおりとする。
 $Q_1 = \pi / 4 \times (D_1^2 - D_2^2) \times \ell$
 $Q_2 = \pi / 4 \times D_2^2 \times \ell$
 Q_1 : モルタル使用量 (m³/本)
 Q_2 : 中詰コンクリート使用量 (m³/本)
 D_1 : 削孔径 (m)
 D_2 : 設計杭径 (m)
 ℓ : 打設長 (m)

1-9-11

現行どおり

2) 土質区分別掘削長（1本当たり）
杭打設長の最小単位は、0.1mを標準とする。

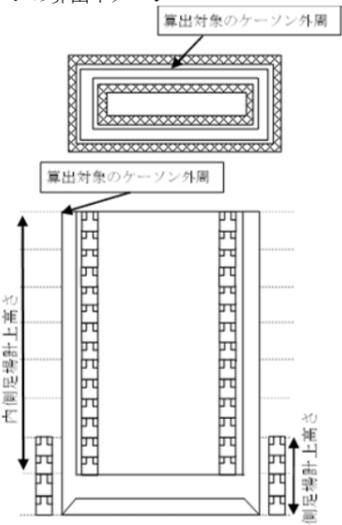
区 分	杭 種 別					
	モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	H形鋼杭 (土砂埋戻し)	鋼管杭 (土砂埋戻し)	防護柵 (モルタル杭)
掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○

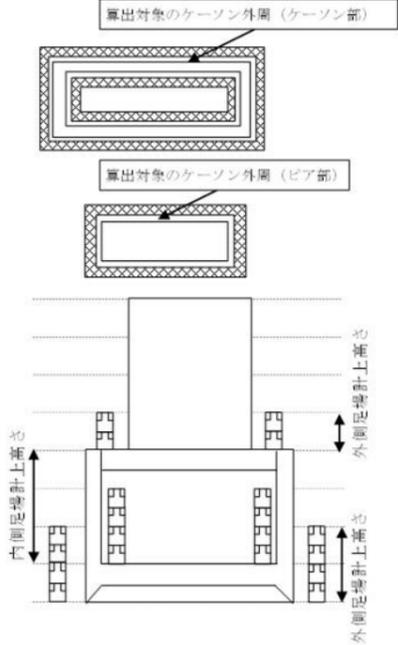
区 分	土 質 区 分						
	砂質土	粘性土	硬質土	軟岩	中硬岩	硬岩	岩塊 玉石
掘削長 (m)	○	○	○	○	○	○	○

現行どおり

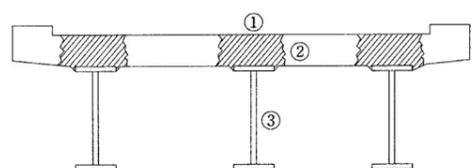
記載の変更

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正 現 行	備 考
	現 行	改 正	
	<p>②足場材の賃料を計上する場合、次式の通り算定することができる。 賃料 = $L \times (M1 \times T + M2) \times A$ (円) L : 賃料係数 (1.3) M1 : 先行据置 2 段手すりの 1 日当たりの賃料 (円/日) M2 : 先行据置 2 段手すりの基本料金 (円) T : 足場材の供用日数 (日) A : 足場の掛面積 (掛 m²)</p> <p>1) 止水壁ケーソンの算出イメージ</p>  <p>◎足場掛面積の算出例 ・外側足場 ケーソン外周 54m、外側足場の 1 ロット目高さ 5m、2 ロット目高さ 4m 供用日 T : 212 日、先行据置 2 段手すりの 1 日当たり賃料 M1 : 7.2 円/日、先行据置 2 段手すりの基本料金 M2 : 320 円の場合</p> <p>初期 2 ロット分外周面積 = $54m \times (5m + 4m) = 486m^2$ 外側足場掛面積 = $486m^2 \times 1.3 \approx 632$ (掛 m²) 足場材賃料 = $1.3 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} + 320 \text{ 円}) \times 632$ (掛 m²) $\approx 1,517,002$ 円</p> <p>・内側足場 ケーソン外周 54m、内側足場の 1 ロットあたり高さ 4m、必要ロット数 7 供用日 T : 212 日、先行据置 2 段手すりの 1 日当たり賃料 M1 : 7.2 円/日、先行据置 2 段手すりの基本料金 M2 : 320 円の場合</p> <p>内側足場は、ケーソン 1 基当り全内側足場掛 m² の 1/2 に全供用日数を計上…足場材賃料① 全内側足場の残り 1/2 掛 m² に全供用日数の 1/2 を計上…足場材賃料②</p> <p>必要ロット分外周面積 = $54m \times (7 \times 4m) = 1,512m^2$ 内側足場掛面積 = $1,512m^2 \times 0.55 \approx 832$ (掛 m²) 足場材賃料① = $1.3 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} + 320 \text{ 円}) \times 832$ (掛 m²) $\div 2$ $\approx 998,533$ 円 足場材賃料② = $1.3 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} \div 2 + 320 \text{ 円}) \times 832$ (掛 m²) $\div 2$ $\approx 585,795$ 円 足場材賃料 = $998,533 \text{ 円} + 585,795 \text{ 円} = 1,584,328$ 円</p> <p>※上記計算は一例であり、実際の算出は作業実態に合わせて適切に算出すること</p> <p style="text-align: center;">1-9-19</p>	<p>②足場材の賃料を計上する場合、次式の通り算定することができる。 賃料 = $L \times (M1 \times T + M2) \times A$ (円) L : 賃料係数 (1.49) M1 : 先行据置 2 段手すりの 1 日当たりの賃料 (円/日) M2 : 先行据置 2 段手すりの基本料金 (円) T : 足場材の供用日数 (日) A : 足場の掛面積 (掛 m²)</p> <p>◎足場掛面積の算出例 ・外側足場 ケーソン外周 54m、外側足場の 1 ロット目高さ 5m、2 ロット目高さ 4m 供用日 T : 212 日、先行据置 2 段手すりの 1 日当たり賃料 M1 : 7.2 円/日、先行据置 2 段手すりの基本料金 M2 : 320 円の場合</p> <p>初期 2 ロット分外周面積 = $54m \times (5m + 4m) = 486m^2$ 外側足場掛面積 = $486m^2 \times 1.3 \approx 632$ (掛 m²) 足場材賃料 = $1.49 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} + 320 \text{ 円}) \times 632$ (掛 m²) $\approx 1,738,718$ 円</p> <p>・内側足場 ケーソン外周 54m、内側足場の 1 ロットあたり高さ 4m、必要ロット数 7 供用日 T : 212 日、先行据置 2 段手すりの 1 日当たり賃料 M1 : 7.2 円/日、先行据置 2 段手すりの基本料金 M2 : 320 円の場合</p> <p>内側足場は、ケーソン 1 基当り全内側足場掛 m² の 1/2 に全供用日数を計上…足場材賃料① 全内側足場の残り 1/2 掛 m² に全供用日数の 1/2 を計上…足場材賃料②</p> <p>必要ロット分外周面積 = $54m \times (7 \times 4m) = 1,512m^2$ 内側足場掛面積 = $1,512m^2 \times 0.55 \approx 832$ (掛 m²) 足場材賃料① = $1.49 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} + 320 \text{ 円}) \times 832$ (掛 m²) $\div 2$ $\approx 1,144,472$ 円 足場材賃料② = $1.49 \times (7.2 \text{ 円/日} \times 212 \text{ 日} \div 2 + 320 \text{ 円}) \times 832$ (掛 m²) $\div 2$ $\approx 671,411$ 円 足場材賃料 = $1,144,472 \text{ 円} + 671,411 \text{ 円} = 1,815,883$ 円</p> <p>※上記計算は一例であり、実際の算出は作業実態に合わせて適切に算出すること</p>	記載の変更
注意事項		現行どおり	記載の変更
			(控え頁) 1/3

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
	<p>(2) ピアケーソンの算出イメージ</p>  <p>◎足場掛面積の算出例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外側足場 (ケーソン部) <p>ケーソン外周 54m、外側足場の1ロット目高さ5m、2ロット目高さ4m ケーソン部の供用日T：93日、先行据置2段手すりの1日当たり賃料M1：7.2円/日、先行据置2段手すりの基本料金M2：320円の場合</p> <p>初期2ロット分外周面積=54m×(5m+4m)=486m² 外側足場掛面積=486m²×1.3≒632(掛m²) 足場材賃料=1.3×(7.2円/日×93日+320円)×632(掛m²)≒813,055円</p> ・外側足場 (ピア部) <p>ピア外周32m、外側足場の1ロット高さ4m、ピア部足場組替え数(4ロット分)ピア部の供用日T：119日、先行据置2段手すりの1日当たり賃料M1：7.2円/日、先行据置2段手すりの基本料金M2：320円の場合 注) ケーソン部の足場材をピア部に転用する場合は基本料金の計上は不要</p> <p>1ロット分外周面積=32m×4m=128m² 外側足場掛面積=128m²×1.3≒166(掛m²) 足場材賃料=1.3×(7.2円/日×119日+320円)×166(掛m²)≒253,593円</p> ・内側足場 <p>ケーソン外周54m、内側足場の1ロットあたり高さ4m、必要ロット数2 供用日T：93日、先行据置2段手すりの1日当たり賃料M1：7.2円/日、先行据置2段手すりの基本料金M2：320円の場合</p> <p>内側足場は、ケーソン1基当たり全内側足場掛m²の1/2に全供用日数を計上…足場材賃料① 全内側足場の残り1/2掛m²に全供用日数の1/2を計上…足場材賃料②</p> <p style="text-align: center;">1-9-20</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>◎足場掛面積の算出例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外側足場 <p>ケーソン外周54m、外側足場の1ロット目高さ5m、2ロット目高さ4m 供用日T：212日、先行据置2段手すりの1日当たり賃料M1：7.2円/日、先行据置2段手すりの基本料金M2：320円の場合</p> <p>初期2ロット分外周面積=54m×(5m+4m)=486m² 外側足場掛面積=486m²×1.3≒632(掛m²) 足場材賃料=1.49×(7.2円/日×212日+320円)×632(掛m²)≒1,738,718円</p> ・内側足場 <p>ケーソン外周54m、内側足場の1ロットあたり高さ4m、必要ロット数7 供用日T：212日、先行据置2段手すりの1日当たり賃料M1：7.2円/日、先行据置2段手すりの基本料金M2：320円の場合</p> <p>内側足場は、ケーソン1基当たり全内側足場掛m²の1/2に全供用日数を計上…足場材賃料① 全内側足場の残り1/2掛m²に全供用日数の1/2を計上…足場材賃料②</p> <p>必要ロット分外周面積=54m×(7×4m)=1,512m² 内側足場掛面積=1,512m²×0.55≒832(掛m²) 足場材賃料①=1.49×(7.2円/日×212日+320円)×832(掛m²)÷2 ≒1,144,472円 足場材賃料②=1.49×(7.2円/日×212日÷2+320円)×832(掛m²)÷2 ≒671,411円 足場材賃料=1,144,472円+671,411円=1,815,883円</p> <p>※上記計算は一例であり、実際の算出は作業実態に合わせて適切に算出すること</p>	<p style="text-align: center;">記載の変更</p>
注意事項			(控え頁) 2/3

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
<p>必要ロット分外周面積=54m×(2×4m)=<u>432m²</u> 内側足場掛面積=432m²×0.55≒<u>238(掛m²)</u> 足場材賃料①=1.3×(7.2円/日×93日+320円)×238(掛m²)÷2 ≒<u>153,091円</u> 足場材賃料②=1.3×(7.2円/日×93日÷2+320円)×238(掛m²)÷2 ≒<u>101,298円</u> 足場材賃料=153,091円+101,298円=<u>254,389円</u></p> <p>※上記計算は一例であり、実際の算出は作業実態に合わせて適切に算出すること</p> <p>(7) 沈下促進 載荷工法は、水荷重(ポンプによる注排水)を標準とし、水量(t)を算出する。</p> <p>(8) 送気延長は、空気圧縮機からゲージ設備までと、ゲージ設備からケーソンまでとに区分して算出する。</p>	<p style="text-align: center;">→</p> <p style="text-align: center;">}</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p>必要ロット分外周面積=54m×(2×4m)=<u>432m²</u> 内側足場掛面積=432m²×0.55≒<u>238(掛m²)</u> 足場材賃料①=1.49×(7.2円/日×93日+320円)×238(掛m²)÷2 ≒<u>175,466円</u> 足場材賃料②=1.49×(7.2円/日×93日÷2+320円)×238(掛m²)÷2 ≒<u>116,103円</u> 足場材賃料=175,466円+116,103円=<u>291,569円</u></p>	<p>記載の変更</p>
1-9-21			
注意事項			(控え頁) 3/3

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																													
現	行	改 正	備 考																													
<p>(2) クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">クレーン規格 相吊クレーン規格</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360t吊 </td> </tr> </table> <p>(3) 相吊クレーンの有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">相吊クレーンの有無</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 有り 無し </td> </tr> </table> <p>(4) DID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">DID区間の有無</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 無し 有り </td> </tr> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場・防護・ベント等</td> <td></td> <td>II</td> <td></td> <td></td> <td>「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照</td> </tr> <tr> <td>現場発生品運搬</td> <td></td> <td>D</td> <td>t</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。</p> <p>(参考) ブロック施工(床版分割施工)とは、コンクリート殻を桁下に落とすことができず、ある程度のブロック状に1次破砕後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて、撤去する工法である。 なお、「床版1次破砕・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。</p>  <p>作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破砕後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。</p> <p style="text-align: center;">1-10-4</p>		クレーン規格 相吊クレーン規格	<ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360t吊 	相吊クレーンの有無	<ul style="list-style-type: none"> 有り 無し 	DID区間の有無	<ul style="list-style-type: none"> 無し 有り 	区分	項目	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考	足場・防護・ベント等		II			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照	現場発生品運搬		D	t		必要な場合別途計上	<p>(2) クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">クレーン規格 相吊クレーン規格</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力25t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力35t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力50t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力100t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力120t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力160t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力200t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力360t吊 </td> </tr> </table> <p>現行どおり</p>	クレーン規格 相吊クレーン規格	<ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力25t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力35t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力50t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力100t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力120t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力160t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力200t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力360t吊 	記載の変更
クレーン規格 相吊クレーン規格	<ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型25t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型35t吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型50t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型100t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型120t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型160t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型200t吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型360t吊 																															
相吊クレーンの有無	<ul style="list-style-type: none"> 有り 無し 																															
DID区間の有無	<ul style="list-style-type: none"> 無し 有り 																															
区分	項目	3次元モデル	属性情報																													
			単位	数量	備考																											
足場・防護・ベント等		II			「第3編(道路編)4.4鋼橋架設工及び4.5仮設工」参照																											
現場発生品運搬		D	t		必要な場合別途計上																											
クレーン規格 相吊クレーン規格	<ul style="list-style-type: none"> ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力25t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力35t吊 ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力50t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力100t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力120t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力160t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力200t吊 トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 最大吊上能力360t吊 																															
注意事項			(控え頁) 1/1																													

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.3 仮橋・仮栈橋工

1. 適用

鋼製による仮橋及び仮栈橋の上部工（桁、覆工板、高欄）と下部工（橋脚・杭橋脚）に適用する。

2. 数量算出項目

仮橋・仮栈橋上部、覆工板、高欄、橋脚、杭橋脚、定規等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
上部工	主桁・横桁	II	○	t		注) 2
	覆工板	II	○	m ²		
	高欄	II	○	m		仮橋
	ガードレール					
下部工	橋脚（直接基礎形式）	II	○	t		注) 3
	杭橋脚 （杭基礎形式）	II	○	t		注) 4
				本		
	導杭・導枠	II	○	本		注) 5
高力ボルト	II	○	t			

- 3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする
- 注) 1. コンクリート基礎が必要な場合は別途計上する。
 2. 上部工の対象質量は、主桁、横桁の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 3. 橋脚の対象質量は、橋脚、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 4. 杭橋脚の対象質量は、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 5. 導杭・導枠はH型鋼（300×300）とし、導杭施工本数は杭橋脚打込み10本当たり8本が標準であり、導杭の本数を算出のこと。

1-11-8

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	継施工の有無	単位	数量
上部工	主桁・横桁	II	○		t	注) 2
				H形鋼主桁		
	覆工板	II	○		m ²	
下部工	高欄	II	○		m	仮橋
	橋脚（直接基礎形式）	II	○		t	注) 3
導杭・導枠	II	○		本	注) 5	
高力ボルト	II	○		t		

現行どおり

記載の追加

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.4 足場工

1. 適用

一般土木工事の構造物施工にかかる足場工に適用する。
ただし、高さ2m未満の構造物には適用しない。また、鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)(2)等には適用しない。

2. 数量算出項目

足場の掛面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造物、工法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			構造物	工法	単位	数量
足場	B		○	○	掛m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。

(2) 構造物区分
構造物ごとに区分して数量を算出する。

(3) 工法区分
工法による区分は、下表のとおりとする。

工 法	設 置 場 所
単管傾斜足場	構造物面が傾斜している箇所 (勾配が1分以上)
手摺先行型 枠組足場	構造物が垂直に近く(勾配1分未満)、 設置面が平坦な箇所
単管足場	枠組足場の設置が不適当な箇所

注) 転落防止の為の安全ネットは、構造物との離隔が30cm以上の場合原則有りとする。
必要ない場合は、明示し区分すること。

1-11-10

1. 適用

一般土木工事の構造物施工にかかる足場工に適用する。
ただし、高さ2m未満の構造物には適用しない。また、鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、~~10章10.1共同溝工(1)(2)~~等には適用しない。

現行どおり

記載の削除

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	
------	------	-----------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.5 支保工

1. 適用

一般土木工事の構造物施工の支保工に適用する。
ただし、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、
第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)(2)には
適用しない。

2. 数量算出項目

支保の空体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造物、工法、設置高、支保耐力とする。

(1) 数量算出項目および区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報					
			構造物	工 法	支 保 耐 力	設置高	単 位	数 量
支 保	A	○	○	○	○	空m ³		

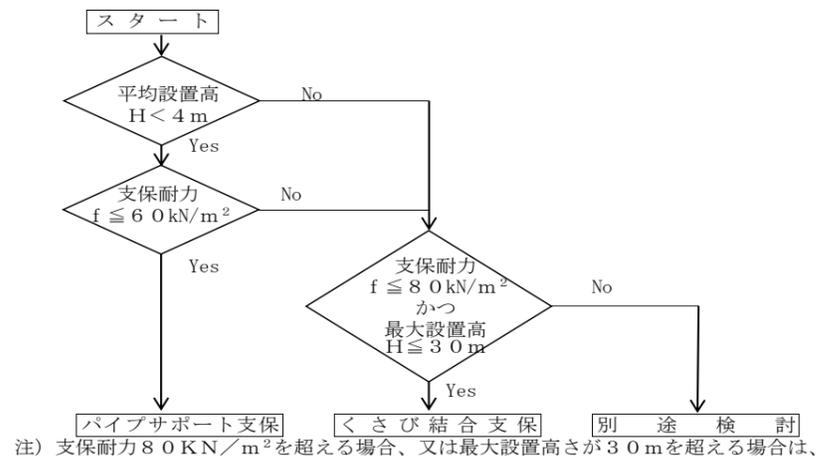
3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

(3) 工法区分

工法による区分は、下記工法選定フローによる。



1-11-20

1. 適用

一般土木工事の構造物施工の支保工に適用する。
ただし、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、
第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、~~10章10.1共同溝工(1)(2)~~には
適用しない。

現行どおり

記載の削除

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正 ----- 現 行	
------	------	---------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

11.6 仮囲い設置撤去工

11.6.1 仮囲い設置撤去工

1. 適用

建設工事現場における仮囲いの設置及び撤去に適用する。

2. 数量算出項目

仮囲いの延長を算出する。

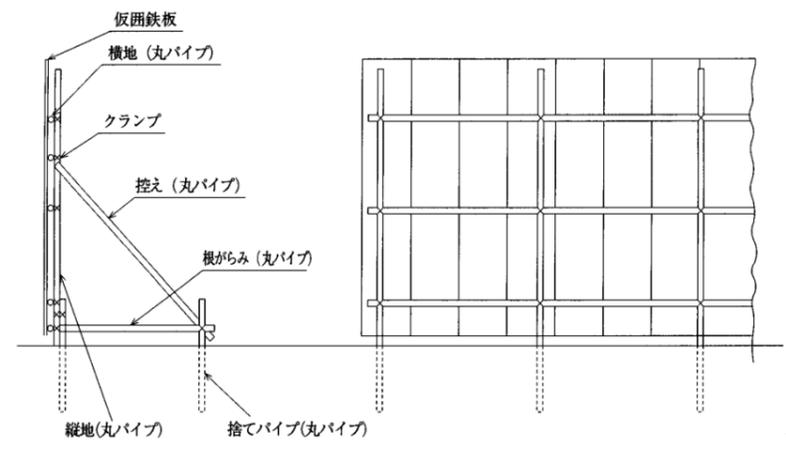
(1) 数量算出項目区分一覧表

項 目	3次元モデル	属 性 情 報				
		高さ	基礎形式	単 位	数 量	備 考
仮 囲 い	B	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

高さ3m、基礎形式は単管による土中打込みを標準とする。これによらない場合は、使用する材料ごとに規格、数量を算出する。

3. 参考図（仮囲い概念図）



1-11-24

11.6 仮囲い設置撤去工

11.6.1 仮囲い設置撤去工

1. 適用

建設工事現場における仮囲いの設置及び撤去に適用する。
ただし、鋼板の囲い高さ3m未満及び3mを超える設置・撤去の場合、機材搬出入用ゲート及び仮通用口ドア等の場合は適用外とする。

3. 区分

区分は、高さ、基礎形式、供用日数とする。

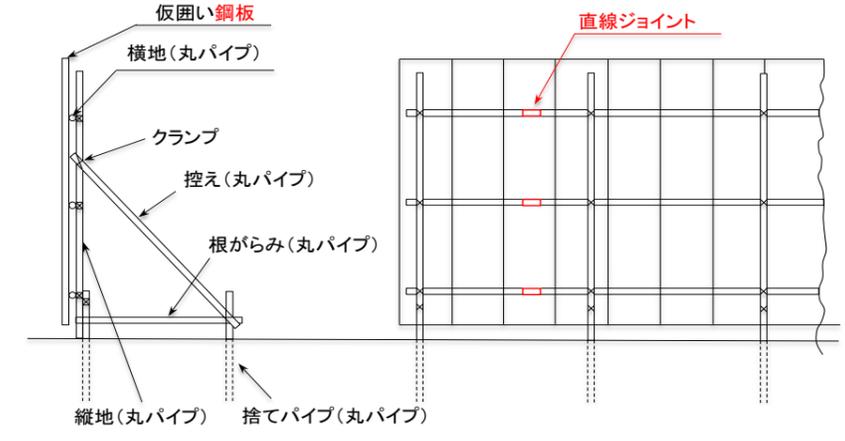
(1) 数量算出項目区分一覧表

項 目	3次元モデル	属 性 情 報					
		高さ	基礎形式	供用日数	単 位	数 量	備 考
仮 囲 い	B	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

高さ3m、基礎形式は単管による土中打込みを標準とする。これによらない場合は、使用する材料ごとに規格、数量を算出する。

4. 参考図（仮囲い概念図）



注意事項		(控え頁)	1/1
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

11.7 土のう工

1. 適用

簡易な仮締切工等に適用するものとする。

2. 数量算出項目

土のう積面積を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			
		並べ方	単 位	数 量	備 考
土 の う 積	B	○	m ² (袋)		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
m²により算出し難い場合は、袋により算出する。

(2) 並べ方

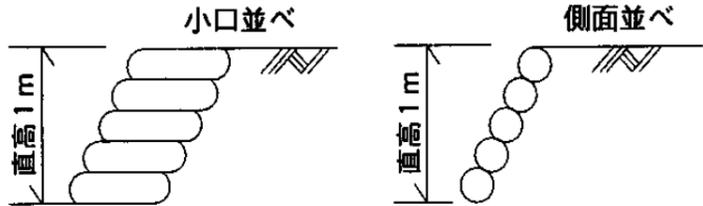
並べ方は下記の区分による

- ①小口並べ
- ②側面並べ

(3) 土のう積面積

土のう積面積は直高×延長より算出する。

3. 参 考



(注) 詰土量は地山土量とする。

1-11-30

11.7 土のう工

1. 適用

簡易な仮締切工のうち、1段以上の小口並べまたは側面並べによる土のう積に適用するものとする。施工基面から1.0m以下の積立作業に適用する。

2. 数量算出項目

土のう積面積を算出する。

3. 区分

区分は、並べ方、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

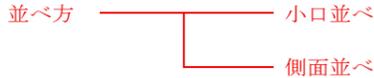
項 目	3次元 モデル	属 性 情 報				
		並べ方	規格	単 位	数 量	備 考
土 の う 積	B	○	○	m ² (袋)		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
~~m²により算出し難い場合は、袋により算出する。~~

(2) 並べ方

並べ方によるは下記の区分によるは、以下の通りとする。

- ~~①小口並べ~~
- ~~②側面並べ~~



(3) 規格

規格は、以下の通りとする。



(4) 土のう積面積

- 1. 土のう積面積は直高×延長より算出する。
- 2. 複数列設置の場合は各列で面積を算出し合計値を計上すること。
- 3. 個数管理しかできない場合においては1m²当り個数から割り戻した面積値にて計上すること。

次頁へ移動

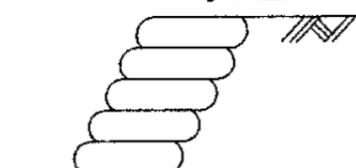
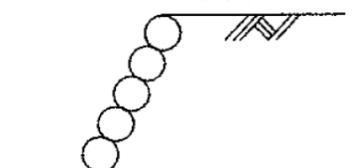
記載の変更

記載の追加

記載の削除

記載の追加

注意事項		(控え頁)
		1/2

改正理由	一部改正	改正 現行												
現 行	改 正		備 考											
<p>前頁から移動</p> <p>現行なし</p> <p>1-1-2</p>	<p style="text-align: center;">土のう積材料 標準使用数量</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">規格</th> <th colspan="2">袋数/m2 当り</th> </tr> <tr> <th>小口並べ</th> <th>側面並べ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">土のう 62cm×48cm</td> <td>普通</td> <td rowspan="2">17</td> <td rowspan="2">14</td> </tr> <tr> <td>耐候性</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">4-3. 参 考</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>小口並べ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>側面並べ</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">(注) 詰土量は地山土量とする。</p>		規格		袋数/m2 当り		小口並べ	側面並べ	土のう 62cm×48cm	普通	17	14	耐候性	<p>記載の追加</p>
規格		袋数/m2 当り												
		小口並べ	側面並べ											
土のう 62cm×48cm	普通	17	14											
	耐候性													
注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>											

改正理由	一部改正	改正		備考
		現 行	改 正	
	<p>(3) 設計荷重区分 設計荷重は、以下の区分で算出する。</p> <p>設計荷重 ———— f < 400 kN 未満 ——— 400 kN ≤ f < 1,300 kN ——— 1,300 kN ≤ f < 2,000 kN</p> <p>(4) 頭部処理の有無区分 頭部処理の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>頭部処理の有無 ———— 有り ——— 無し</p> <p>(5) 足場 足場は、施工場所が既設の構造物（斜面）等で必要な場所に計上する。 また、作業面の足場幅は、4.5mを標準とする。</p> <p>(6) グラウト 1) グラウトの使用量 グラウトの使用量は、次式を参考とし、材料の補正（ロス）を含んだ数量を算出する。</p> $V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$ <p>V：注入量 (m³) D：ドリルパイプの外径 (mm) L：削孔長 (m) K：補正係数 注) 補正係数は2.2を標準とするが、過去の実績や地質条件等により本係数を使用することが不適当な場合は、別途考慮すること。</p> <p>1-11-36</p>	<p>現行どおり</p>		
	<p>現行なし</p>	<p>(7) 削孔（アンカー）施工時に用いる上水道等が必要な場合は、別途算出する。</p>		<p>記載の追加</p>
注意事項				<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																											
現 行		改 正																																																																											
<p>12.2 ひび割れ補修工(低圧注入工法)</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート構造物のひび割れ補修における1構造物当りの低圧注入作業（圧縮空気、ゴムやバネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用いて注入を行うもの）に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ひび割れ補修工（低圧注入工法）を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ひび割れ補修工 (低圧注入工法)</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>k g</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>k g</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p> <p>1-12-3</p>		項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				規 格	単 位	数 量	備 考	ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		m			注入材	B	○	k g			シール材	B	○	k g			低圧注入器具	B	○	個			<p>現行どおり</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、補修延べ延長区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>補修延べ延長区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ひび割れ補修工 (低圧注入工法)</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>k g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>k g</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。 2. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。</p> <p>(2) 補修延べ延長区分 補修延べ延長区分は下記のとおり区分して算出する。 ①25m 以下 ②25m を超える</p> <p>現行どおり</p>		項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				規 格	補修延べ延長区分	単 位	数 量	備 考	ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		○	m		注入材	B	○		k g		シール材	B	○		k g		低圧注入器具	B	○		個		備考
項目	区 分				3次元モデル	属 性 情 報																																																																							
		規 格	単 位	数 量		備 考																																																																							
ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		m																																																																									
	注入材	B	○	k g																																																																									
	シール材	B	○	k g																																																																									
	低圧注入器具	B	○	個																																																																									
項目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報																																																																										
			規 格	補修延べ延長区分	単 位	数 量	備 考																																																																						
ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	補修延べ延長	B		○	m																																																																								
	注入材	B	○		k g																																																																								
	シール材	B	○		k g																																																																								
	低圧注入器具	B	○		個																																																																								
注意事項			(控え頁) 1/1																																																																										

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

1.4 捨石工(河川海岸)

1. 適用範囲

河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工の陸上からの施工に適用する。

2. 数量算出項目

捨石投入の体積、表面均しの面積を算出する。

3. 区分

区分は、規格、最大作業半径とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	最大作業半径	単位	数量
捨石投入		土構造	○	○	m ³	
表面均し		B	○	×	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 最大作業半径

最大作業半径は以下の区分で算出する。
 最大作業半径 — 9m以下
 — 9mを超え2.4m以下

(3) 表面均し

表面均しは以下の区分で算出する。
 表面均し — 施工期間中の平均水位以上の陸上部
 — 施工期間中の平均水位未満の水中部

2-1-9

1.4 捨石工(河川海岸)

1. 適用範囲

河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工の陸上からの施工に適用する。ただし、表面均しにおいて潜水士等を用いて水中部の表面を均す場合は適用しない。
【捨石投入】
 ・捨石質量 500kg 以下/個の陸上からの施工
 ・最大作業半径 7m 以下かつ設置高さ(捨石投入底面)-5m 以上の場合
 ・最大作業半径 7m を超え 24m 以下の場合
【表面均し】
 ・施工期間中の平均水位以上の陸上からの施工
 ・最大作業半径 7m 以下かつ設置高さ(表面均し面)-5m 以上の場合
 ・最大作業半径 7m を超え 15m 以下かつ設置高さ(表面均し面)-7m 以上の場合
 ・最大作業半径 15m を超え 24m 以下かつ設置高さ(表面均し面)-5m 以上の場合

2. 数量算出項目

捨石投入の体積、表面均しの面積を算出する。

3. 区分

区分は、規格、最大作業半径及び設置高さとする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	最大作業半径及び設置高さ	単位	数量
捨石投入		土構造	○	○	m ³	
捨石(材料費)		土構造	○	×	m ³	
表面均し		B	○	○	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 作業半径は、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の旋回中心から捨石投入箇所(表面均し箇所)までの水平距離である。
 2. 設置高さは、施工基面(機械設置基面)から捨石投入底面(表面均し面)である。
 3. 表面均しには、人力による間詰め及び中詰石の20m程度の現場内小運搬を含む。

~~(2) 最大作業半径~~
 最大作業半径は以下の区分で算出する。
 最大作業半径 — 9m以下
 — 9mを超え2.4m以下

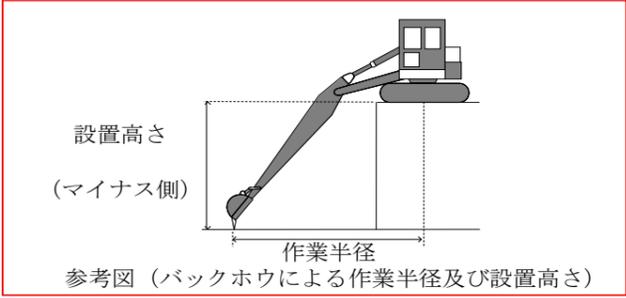
~~(3) 表面均し~~
 表面均しは以下の区分で算出する。
 表面均し — 施工期間中の平均水位以上の陸上部
 — 施工期間中の平均水位未満の水中部

記載の追加

記載の削除

注意事項		(控え頁)	1/2
------	--	-------	-----

工 種	捨石工
-----	-----

改正理由	一部改正	改正 —— 現行	
現 行		改 正	
現行なし		 <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする</p> <p>(1) 捨石 (材料費) は、ロス率 (+0.21) を含む必要数量を算出すること。 ただし、現場条件 (軟弱地盤等) によりロス率が適切でない場合は、別途考慮する。</p>	備考 記載の追加
注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

<p>1.5 護岸基礎ブロック工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック長 1,000mm 以上 5,000mm 以下、ブロック 質量 4,000kg/個以下）の据付及び中詰コンクリート打設の施工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、ブロック規格・仕様（高さ、幅、質量、製品長等）、作業範囲（据付作業半径、据付高さ）、生コンクリート規格、養生工の有無とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>ブロック 規格・仕様</th> <th>作業 範囲</th> <th>生コンクリート 規格</th> <th>養生工の 有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>護岸基礎ブ ロック据付</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリ ート打設</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 中詰材がコンクリート以外の場合は、中詰材を別途考慮する。</p>	区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報				単位	数量	備考	ブロック 規格・仕様	作業 範囲	生コンクリート 規格	養生工の 有無	護岸基礎ブ ロック据付	B	○	○	×	×	m			中詰コンクリ ート打設	A	×	○	○	○	m ³			<p>1.5 護岸基礎ブロック工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック長 1,000mm 以上 5,000mm 以下、ブロック 質量 4,000kg/個以下）の据付及び中詰コンクリート打設の施工に適用する。</div> <p>※適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 護岸基礎ブロック据付 据付作業半径が 14.0m 以下の場合 ・ 中詰コンクリート打設 作業半径が 8.0m 以下の場合 <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、ブロック規格・仕様（高さ、幅、質量、製品長等）、作業範囲（据付作業半径、据付高さ）、生コンクリート規格、養生工の有無とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>ブロック 規格・仕様</th> <th>作業 範囲</th> <th>生コンクリート 規格</th> <th>養生工の 有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>護岸基礎ブ ロック据付</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト基礎 ブロック (材料費)</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリ ート打設</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。</p> <p>注) 中詰材がコンクリート以外の場合は、中詰材を別途考慮する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) プレキャスト基礎ブロック（材料費）では、連結金具必要数も算出すること。</p>	区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報				単位	数量	備考	ブロック 規格・仕様	作業 範囲	生コンクリート 規格	養生工の 有無	護岸基礎ブ ロック据付	B	○	○	×	×	m			プレキャスト基礎 ブロック (材料費)	B	○	×	×	×	m			中詰コンクリ ート打設	A	×	○	○	○	m ³			記載の追加
区分 項目			3次元 モデル	属 性 情 報						単位	数量	備考																																																													
	ブロック 規格・仕様	作業 範囲		生コンクリート 規格	養生工の 有無																																																																				
護岸基礎ブ ロック据付	B	○	○	×	×	m																																																																			
中詰コンクリ ート打設	A	×	○	○	○	m ³																																																																			
区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報				単位	数量	備考																																																																	
		ブロック 規格・仕様	作業 範囲	生コンクリート 規格	養生工の 有無																																																																				
護岸基礎ブ ロック据付	B	○	○	×	×	m																																																																			
プレキャスト基礎 ブロック (材料費)	B	○	×	×	×	m																																																																			
中詰コンクリ ート打設	A	×	○	○	○	m ³																																																																			

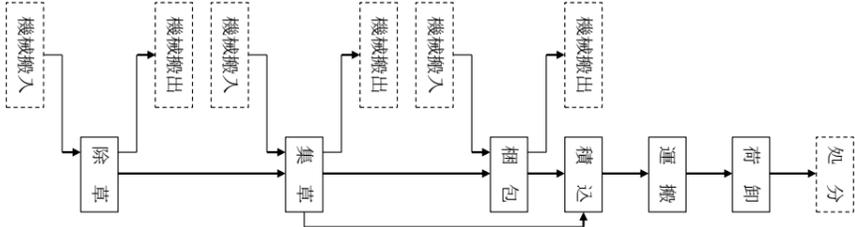
注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正	備考
		現行	

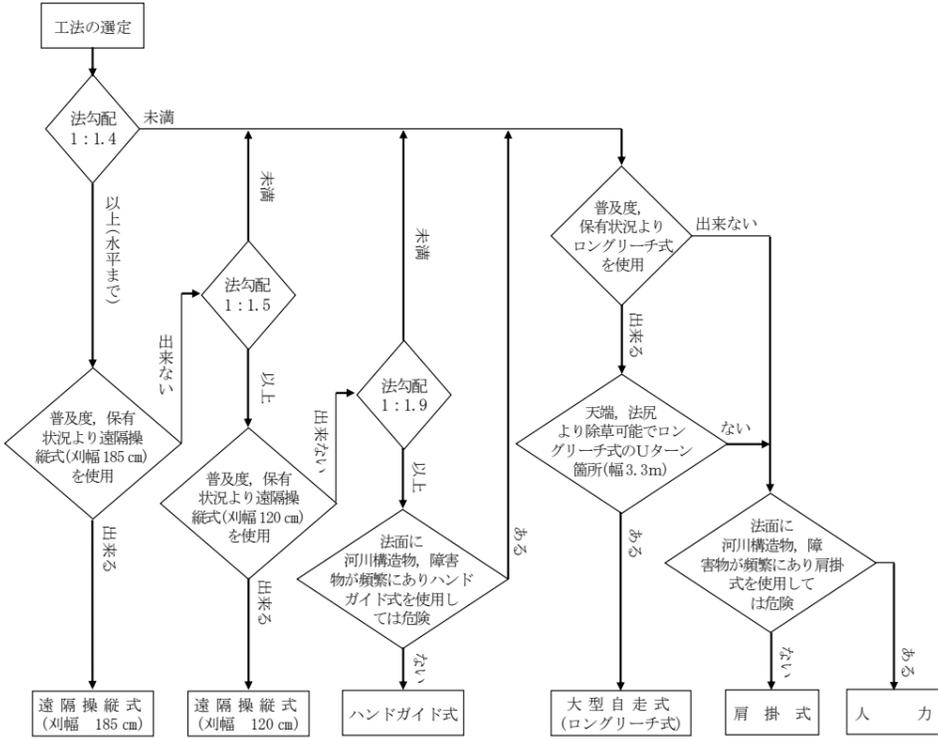
現 行

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

5. 参考図
(1) 標準施工フローは下図のとおりとする。



(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。

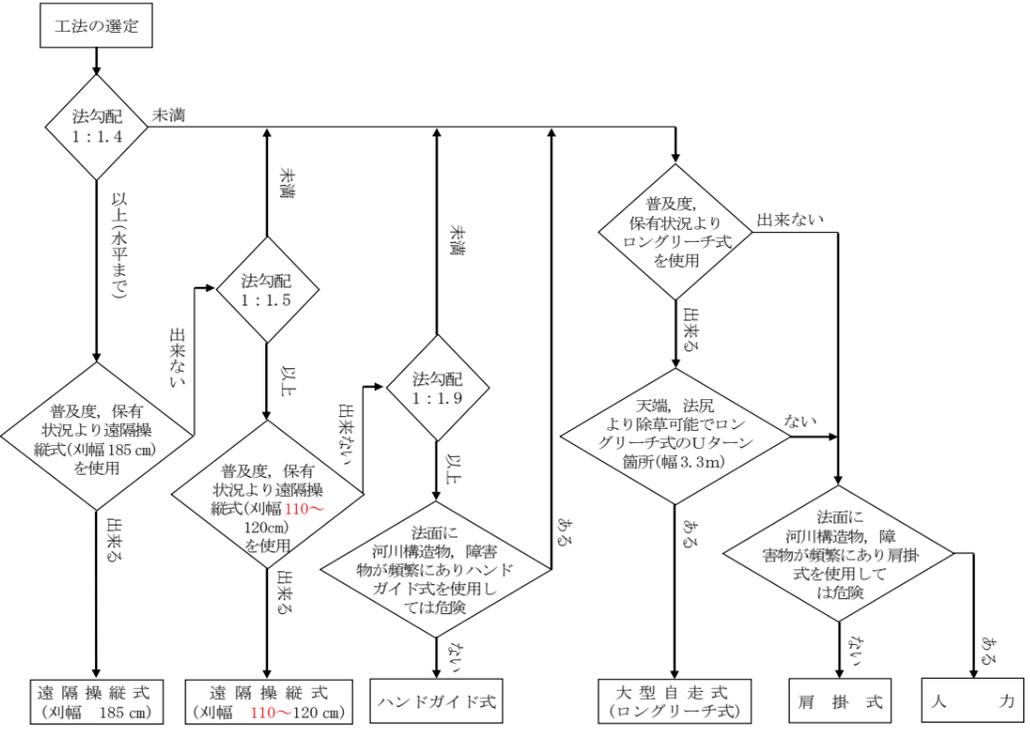


2-4-4

改 正

現行どおり

(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。



記載の変更

注意事項

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.3 伐木除根工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用する。

2. 数量算出項目

伐木・伐竹（伐木除根）、除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）、運搬（伐木除根）、伐木・伐竹（複合）の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、樹木・竹の区分 樹木密集度、除根作業の有無、積込条件、D I D区間の有無、運搬距離、集積積込み作業の区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①伐木・伐竹（伐木除根）

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量
伐木・伐竹 (伐木除根)		B	○	m ²	
除根 (伐木除根)		B	×	m ²	
整地 (伐木除根)		B	×	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。
2. 除根した根の集積は含まない。

②集積積込み（機械施工）（伐木除根）

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			除根作業の有無	単位	数量
集積積込み (機械施工) (伐木除根)		B	○	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4.3 伐木除根工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用し、**伐木及び伐竹の施工面積は1,000m²以上とする。**
なお、樹木と竹が混在する場合は適用できない。

現行どおり

記載の追加

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現 行	改 正	備 考																																															
<p>4.4 塵芥処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、積み込み、現場外搬出に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、作業区分、塵芥の種類、D I D区間の有無、運搬距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="6">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>作業区分</th> <th>塵芥の種類</th> <th>D I D区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>ダンプトラック持込・貸与</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>散在塵芥収集</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (機械処理)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥収集 (人力処理)</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) 項目分類 塵芥量が1m³/1000m²程度以下の場合は、散在塵芥収集とし、それ以上の場合は、堆積塵芥収集を標準とする。</p> <p>(3) 作業区分 作業区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 作業区分 <ul style="list-style-type: none"> — 収集・集積・積み込みのみ — 収集・集積・積み込み・運搬 — 運搬のみ </div> <p>(4) 塵芥の種類区分 堆積塵芥の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 塵芥の種類 <ul style="list-style-type: none"> — 木片、空缶、枯草等のかさ高物や軽量物 — コンクリート塊等の重量物 </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。</p>	項 目	3次元モデル	属 性 情 報						単 位	数 量	備 考	作業区分	塵芥の種類	D I D区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与		散在塵芥収集	B	○	×	○	○	○	m ²			堆積塵芥収集 (機械処理)	B	○	○	○	○	○	m ³			堆積塵芥収集 (人力処理)	B	○	○	○	○	○	m ³			<p>4.4 塵芥処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、積み込み、現場外搬出に適用する。</div> <p>※適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目別施工数量 散在塵芥：1,500m²以上 堆積塵芥（機械による収集・集積）：50m³以上 堆積塵芥（人力による収集・集積）：1m³以上 ・散在塵芥処理 散在している塵芥（空き缶・木片等）を人力によりビニール袋等に拾い集める場合 作業場所の草丈が、1.0m程度以下の場合 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">現行どおり</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">次頁へ移動</p>	<p>記載の追加</p>
項 目			3次元モデル	属 性 情 報								単 位	数 量	備 考																																			
	作業区分	塵芥の種類		D I D区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与																																											
散在塵芥収集	B	○	×	○	○	○	m ²																																										
堆積塵芥収集 (機械処理)	B	○	○	○	○	○	m ³																																										
堆積塵芥収集 (人力処理)	B	○	○	○	○	○	m ³																																										

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	廃止	改正 現 行	
------	----	-----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.5 ボーリンググラウト工

1. 適用

注入設備2セット施工により、河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメントベントナイトを注入するボーリンググラウト工に適用する。

2. 数量算出項目

削孔、注入、注入設備据付・解体の数量を区分ごとに算出する。

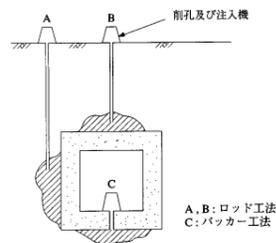
3. 区分

区分は、削孔工法、削孔長、土質係数（ α ）、注入工1m³当り注入日数（S）、注入材料の配合、セメントの種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属性情報								
		削孔 工法	削孔 長	土質 係数 (α)	注入工 1m ³ 当り注 入日数 (S)	注入 材料 の 配合	セメ ント の種 類	単 位	数 量	備 考
削孔	B	○	○	○	×	×	×	孔		
注入	B	○	×	×	○	○	○	m ³		
注入設備据付 ・解体	B	×	×	×	×	×	×	回		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 1. 工法による区分は、以下を参考とする。



- 削孔径はロッド工法がφ46mm、パッカー工法がφ52mm（2インチ）を標準とする。
- 注入設備2セット分の回数とする。

(2) 削孔工法による区分



2-4-10

削除

廃止

注意事項		(控え頁) 1/5
------	--	--------------

改正理由	廃止	改正 現 行	
現 行		改 正	
		備 考	
注意事項			(控え頁) 2/5

(3) 削孔長による区分
(削孔工法がロッド工法の場合)

- 削孔長
- 1.0m 以上2.0m 未満
 - 2.0m 以上3.0m 未満
 - 3.0m 以上4.0m 未満
 - 4.0m 以上5.0m 未満
 - 5.0m 以上6.0m 未満
 - 6.0m 以上7.0m 未満
 - 7.0m 以上8.0m 未満
 - 8.0m 以上9.0m 未満
 - 9.0m 以上10.0m 未満
 - 10.0m 以上11.0m 未満
 - 11.0m 以上12.0m 未満
 - 12.0m 以上13.0m 未満
 - 13.0m 以上14.0m 未満
 - 14.0m 以上15.0m 未満
 - 15.0m 以上16.0m 未満

(4) 削孔長による区分
(削孔工法がバッカー工法の場合)

- 削孔長
- 0.2m 未満
 - 0.2m 以上0.4m 未満
 - 0.4m 以上0.6m 未満
 - 0.6m 以上0.8m 未満
 - 0.8m 以上1.0m 未満
 - 1.0m 以上1.2m 未満
 - 1.2m 以上1.4m 未満
 - 1.4m 以上1.6m 未満
 - 1.6m 以上1.8m 未満
 - 1.8m 以上2.0m 未満

2-4-11

→ 削除

改正理由	廃止	改正 —— 現 行		
現 行		改 正		備 考
	<p>(5) 土質係数 (α) による区分 (工法がロッド工法の場合)</p> <p>土質係数</p> <ul style="list-style-type: none"> — 1.0 — 1.1 — 1.2 — 1.3 — 1.4 — 1.5 — 1.6 — 1.7 — 1.8 <p style="text-align: right;">2-4-12</p>	<p style="text-align: center;">→ 削除</p>	<p style="text-align: center;">廃止</p>	
<p>注意事項</p>			<p style="text-align: right;">(控え頁) 3/5</p>	

改正理由	廃止	改正 現行																																																																					
現行		改正																																																																					
	<p>(6) 注入工1m³当り注入日数(S)による区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>積算条件</th> <th>区分</th> <th>参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="21">注入工1m³当り注入日数(S)</td><td>0.10日</td><td>(11.7~12.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.11日</td><td>(10.7~11.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.12日(標準)</td><td>(9.9~10.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.13日</td><td>(9.1~9.8ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.14日</td><td>(8.5~9.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.15日</td><td>(8.0~8.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.16日</td><td>(7.5~7.9ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.17日</td><td>(7.1~7.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.18日</td><td>(6.7~7.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.19日</td><td>(6.3~6.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.20日</td><td>(6.0~6.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.21日</td><td>(5.7~5.9ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.22日</td><td>(5.5~5.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.23日</td><td>(5.3~5.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.24日</td><td>(5.1~5.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.25日</td><td>(4.9~5.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.26日</td><td>(4.7~4.8ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.27日</td><td>(4.5~4.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.28日</td><td>(4.3~4.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.29日</td><td>(4.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.30日</td><td>(4.1ℓ/min)</td></tr> <tr><td>0.31日</td><td>(4.0ℓ/min)</td></tr> </tbody> </table> <p>(7) 注入材料の配合による区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入材料の配合</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>軟練り配合</td><td></td></tr> <tr><td>中練り配合1</td><td></td></tr> <tr><td>中練り配合2</td><td></td></tr> <tr><td>各種配合</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>3次元モデル</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場工</td> <td>B</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">2-4-13</p>	積算条件	区分	参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)	注入工1m ³ 当り注入日数(S)	0.10日	(11.7~12.0ℓ/min)	0.11日	(10.7~11.6ℓ/min)	0.12日(標準)	(9.9~10.6ℓ/min)	0.13日	(9.1~9.8ℓ/min)	0.14日	(8.5~9.0ℓ/min)	0.15日	(8.0~8.4ℓ/min)	0.16日	(7.5~7.9ℓ/min)	0.17日	(7.1~7.4ℓ/min)	0.18日	(6.7~7.0ℓ/min)	0.19日	(6.3~6.6ℓ/min)	0.20日	(6.0~6.2ℓ/min)	0.21日	(5.7~5.9ℓ/min)	0.22日	(5.5~5.6ℓ/min)	0.23日	(5.3~5.4ℓ/min)	0.24日	(5.1~5.2ℓ/min)	0.25日	(4.9~5.0ℓ/min)	0.26日	(4.7~4.8ℓ/min)	0.27日	(4.5~4.6ℓ/min)	0.28日	(4.3~4.4ℓ/min)	0.29日	(4.2ℓ/min)	0.30日	(4.1ℓ/min)	0.31日	(4.0ℓ/min)	注入材料の配合		軟練り配合		中練り配合1		中練り配合2		各種配合		項目	3次元モデル	単位	数量	備考	足場工	B	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照	<p>削除</p>	<p>廃止</p>
積算条件	区分	参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)																																																																					
注入工1m ³ 当り注入日数(S)	0.10日	(11.7~12.0ℓ/min)																																																																					
	0.11日	(10.7~11.6ℓ/min)																																																																					
	0.12日(標準)	(9.9~10.6ℓ/min)																																																																					
	0.13日	(9.1~9.8ℓ/min)																																																																					
	0.14日	(8.5~9.0ℓ/min)																																																																					
	0.15日	(8.0~8.4ℓ/min)																																																																					
	0.16日	(7.5~7.9ℓ/min)																																																																					
	0.17日	(7.1~7.4ℓ/min)																																																																					
	0.18日	(6.7~7.0ℓ/min)																																																																					
	0.19日	(6.3~6.6ℓ/min)																																																																					
	0.20日	(6.0~6.2ℓ/min)																																																																					
	0.21日	(5.7~5.9ℓ/min)																																																																					
	0.22日	(5.5~5.6ℓ/min)																																																																					
	0.23日	(5.3~5.4ℓ/min)																																																																					
	0.24日	(5.1~5.2ℓ/min)																																																																					
	0.25日	(4.9~5.0ℓ/min)																																																																					
	0.26日	(4.7~4.8ℓ/min)																																																																					
	0.27日	(4.5~4.6ℓ/min)																																																																					
	0.28日	(4.3~4.4ℓ/min)																																																																					
	0.29日	(4.2ℓ/min)																																																																					
	0.30日	(4.1ℓ/min)																																																																					
0.31日	(4.0ℓ/min)																																																																						
注入材料の配合																																																																							
軟練り配合																																																																							
中練り配合1																																																																							
中練り配合2																																																																							
各種配合																																																																							
項目	3次元モデル	単位	数量	備考																																																																			
足場工	B	掛m ²		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																																																			
注意事項			<p>(控え頁) 4/5</p>																																																																				

改正理由	廃止	改正 現行																																																																								
現 行	改 正	備 考																																																																								
<p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土質係数（α）は、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。 αは小数第2位を四捨五入し小数第1位とする。</p> $\alpha = \frac{\alpha 1 \times L 1 + \alpha 2 \times L 2}{L 1 + L 2}$ <p>ここで、α1：砂質土及び粘性土の土質係数（=1.0） α2：レキ質土の土質係数（=2.5） L1：砂質土及び粘性土の総削孔長（m） L2：レキ質土の総削孔長（m）</p> <p>(2) 標準の注入工1m³当り注入日数（S）は、0.12日（1分間当り注入量を0.01m³/min）とするが、1分間当り注入量を試験注入等により、決定する場合は次式により算出する。 Sは小数第3位を四捨五入し小数第2位とする。</p> $S = 1 / (408 \times q \times 2)$ <p>ここで、q：1分間当り注入量（m³/min） （10ℓ/min=0.01m³/min）</p> <p>(3) 注入材料（セメントベントナイト）の配合は、以下を標準とする。</p> <p>1) 軟練り配合</p> <table border="1" data-bbox="439 1081 1255 1165"> <thead> <tr> <th></th> <th>セメント</th> <th>ベントナイト</th> <th>水</th> <th>アルミ粉</th> <th>繊維材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>質量比</td> <td>1</td> <td>0.3</td> <td>2.3</td> <td>1/5000</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1m³当り</td> <td>366kg</td> <td>110kg</td> <td>841kg</td> <td>74g</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（フロー値25～30秒）</p> <p>2) 中練り配合1</p> <table border="1" data-bbox="439 1239 1255 1323"> <thead> <tr> <th>配合1</th> <th>セメント</th> <th>ベントナイト</th> <th>水</th> <th>アルミ粉</th> <th>繊維材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>質量比</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1/5000</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>1m³当り</td> <td>208kg</td> <td>208kg</td> <td>832kg</td> <td>42g</td> <td>10.4kg</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（スランプ23cm）</p> <p>3) 中練り配合2</p> <table border="1" data-bbox="439 1375 1255 1459"> <thead> <tr> <th>配合2</th> <th>セメント</th> <th>ベントナイト</th> <th>水</th> <th>アルミ粉</th> <th>繊維材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>質量比</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3.5</td> <td>1/5000</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1m³当り</td> <td>238kg</td> <td>238kg</td> <td>832kg</td> <td>48g</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">（スランプ23cm）</p> <p>(4) 注入材料の配合を標準の配合以外とする場合には、以下の各種材料の規格及び数量単位を参考に、配合1m³当りの数量を算出する。</p> <p>注入材料1m³当り配合</p> <table border="1" data-bbox="439 1606 1142 1774"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>規 格</th> <th>数量単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメント</td> <td>高炉B 25kg袋入</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>ベントナイト</td> <td>25kg/袋 200メッシュ</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td></td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>アルミ粉</td> <td>起泡剤 アルミ粉</td> <td>g</td> </tr> <tr> <td>繊維材</td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">2-4-14</p>		セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	0.3	2.3	1/5000	—	1m ³ 当り	366kg	110kg	841kg	74g	—	配合1	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	1	4	1/5000	0.05	1m ³ 当り	208kg	208kg	832kg	42g	10.4kg	配合2	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	1	3.5	1/5000	—	1m ³ 当り	238kg	238kg	832kg	48g	—	材 料 名	規 格	数量単位	セメント	高炉B 25kg袋入	kg	ベントナイト	25kg/袋 200メッシュ	kg	水		kg	アルミ粉	起泡剤 アルミ粉	g	繊維材		kg	<p>削除</p>	<p>廃止</p>
	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	0.3	2.3	1/5000	—																																																																					
1m ³ 当り	366kg	110kg	841kg	74g	—																																																																					
配合1	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	1	4	1/5000	0.05																																																																					
1m ³ 当り	208kg	208kg	832kg	42g	10.4kg																																																																					
配合2	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	1	3.5	1/5000	—																																																																					
1m ³ 当り	238kg	238kg	832kg	48g	—																																																																					
材 料 名	規 格	数量単位																																																																								
セメント	高炉B 25kg袋入	kg																																																																								
ベントナイト	25kg/袋 200メッシュ	kg																																																																								
水		kg																																																																								
アルミ粉	起泡剤 アルミ粉	g																																																																								
繊維材		kg																																																																								
注意事項			<p>（控え頁）</p> <p>5/5</p>																																																																							

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.8 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用
矢板護岸工に使用する1.1t未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。

2. 数量算出項目
笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、中詰コンクリート型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			笠コンクリートブロック規格	中詰コンクリート型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート100m当り設計量	単位	数量
笠コンクリートブロック	A	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 基礎碎石の敷均し厚は、10cm以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。

(2) 規格区分
1) 笠コンクリートブロック
規格には、笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。
注) 100m当りのブロック個数も算出すること。
2) 中詰コンクリート
使用するコンクリートの規格を記載する。
注) 100m当りの設計量 (m³) も算出すること。

4.7 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用
矢板護岸工に使用する1.1t未満、長さ2.7m以下のプレキャスト笠コンクリートブロック (鋼矢板用) の陸上施工による据付 (据付作業半径: 20.0m以下) に適用する。

2. 数量算出項目
笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、笠コンクリートブロック規格、据付作業範囲 (据付作業半径、据付面高さ)、中詰コンクリート底版型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量、基礎碎石の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報							
			笠コンクリートブロック規格	据付作業範囲	中詰コンクリート底版型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート100m当り設計量	基礎碎石の有無	単位	数量
笠コンクリートブロック	A	○	○	○	○	○	○	m		
笠コンクリートブロック (材料費)	A	○						m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 1. 据付作業半径とは、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の旋回中心から吊りフックまでの水平距離である。
2. 据付面高さとは、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の設置面をゼロとした時の据付対象の矢板の天端高である。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、10cm以下を標準とし、基礎碎石敷設箇所 (矢板の両側又は片側)、材料の種別・規格を問わない。

(2) 規格区分
1) 笠コンクリートブロック
規格には、笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。
注) 100m当りのブロック個数、連結金具及び高さ調整金具必要数も算出すること。
2) 中詰コンクリート
使用するコンクリートの規格を記載する。
注) 100m当りの設計量 (m³) も算出すること。

4. 数量算出方法
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」による。

記載の追加・削除

注意事項		(控え頁)	1/1
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

5章 砂防工

5.1 土工

1. 適用

砂防工（本ダム、副ダム、床固、帯工、水叩、側壁、護岸）の土工に適用する。

2. 数量算出項目

掘削、掘削(ICT)、土砂等運搬、積込（ルーズ）、盛土、盛土(ICT)、床掘り、床掘り(ICT)、埋戻し、残土処理、法面整形、法面整形(ICT)の数量を区分ごとに算出する。

(1) 土砂等運搬は、片道の運搬距離を算出する。往路と復路が異なるときは、平均値とする。また、必要に応じて土量配分図を作成する。

3. 区分

区分は、土質、構造物、施工形態、施工幅とする。
土砂等運搬の区分は、運搬距離、土質とする。

(1) 数量算出項目および区分一覧表

項目	区 分	3次元モデル	属性情報							
			運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考
土工	掘削	土構造	×	○	×	○	×	m ³		
	土砂等運搬	土構造	○	○	×	×	×	m ³		
	積込（ルーズ）	土構造	×	○	×	×	×	m ³		
	盛土	土構造	×	○	○	○	○	m ³		
土工作業	床掘り	土構造	×	○	○	○	×	m ³		
	埋戻し	土構造	×	○	○	○	○	m ³		
	残土処理	土構造	×	○	○	○	×	m ³		
整形法面	掘削部	土構造	×	○	○	○	×	m ²		
	盛土部	土構造	×	○	○	○	×	m ²		

(2) 土質区分

土質による区分は、「第1編（共通編）2章土工2.1土工」による。
なお、破碎を要する転石の場合は、粒径0.5m未満・以上で区分して算出する。

(3) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

2-5-2

現行どおり

(2) 土質区分

土質による区分は、「第1編（共通編）2章土工2.1土工」による。
なお、破碎を要する転石の場合は、粒径は、~~0.5m未満~~・以上である。

(3) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

記載の削除・追加

注意事項		(控え頁)	1/1
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

6.4 かご工(斜面对策)

1. 適用

地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、ふとんかご(階段式、パネル式)の施工に適用する。

2. 数量算出項目

ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
ふとんかご		B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 規格区分
ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。

ふとんかごの規格

- 高さ(D)= 40cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)= 50cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)= 50cm 幅 (B)=200cm
- 高さ(D)= 60cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)=100cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)=100cm 幅 (B)=200cm

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 必要に応じて、吸出防止材を別途考慮して算出する。

2-6-8

6.4 かご工(斜面对策)

1. 適用

地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設の施工における、ふとんかご(階段式、パネル式)の施工設置に適用する。

2. 数量算出項目

ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
ふとんかご		B	○	m		
吸出し防止材		B	○	m ²		必要な場合別途計上

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 規格区分
ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。

ふとんかごの規格

- 高さ(D)= 40cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)= 50cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)= 50cm 幅 (B)=200cm
- 高さ(D)= 60cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)= 60cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)=100cm 幅 (B)=120cm
- 高さ(D)=100cm 幅 (B)=200cm

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

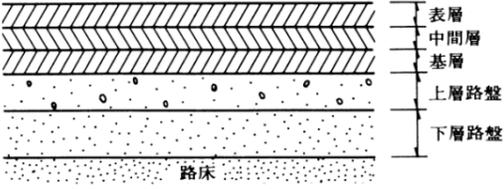
~~(1) 必要に応じて、吸出防止材を別途考慮して算出する。~~

5. 参考図

記載の変更

注意事項

改正理由	一部改正	改正 現行																																						
現 行		改 正																																						
<p>8.1.3 配管設置</p> <p>1. 適用</p> <p>配管及び付属品の設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>配管の設置延長にて算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、設置条数とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>設置 条数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配管設置 (埋設部)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報			備 考	設置 条数	単 位	数 量	配管設置 (埋設部)		B	○	m			<p>現行どおり</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、設置条数、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>設置 条数</th> <th>規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配管設置 (埋設部)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p>		項目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報				備 考	設置 条数	規格	単 位	数 量	配管設置 (埋設部)		B	○	○	m		
項目	区 分				3次元 モデル	属 性 情 報			備 考																															
		設置 条数	単 位	数 量																																				
配管設置 (埋設部)		B	○	m																																				
項目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報				備 考																																	
			設置 条数	規格	単 位	数 量																																		
配管設置 (埋設部)		B	○	○	m																																			
注意事項		記載の追加																																						
		(控え頁)																																						
		1/1																																						

改正理由	一部改正		改正 —— 現行	
現 行	改 正			備 考
<p>(アスファルト舗装の構成例)</p>  <p>(3) 平均幅員区分 ① 1. 4 m未満 ② 1. 4 m以上 3. 0 m以下 ③ 3. 0 m超</p> <p>(4) 施工区分 ① 1層施工 ② 2層施工 ③ 3層施工 ④ 4層施工 ⑤ 5層施工 ⑥ 6層施工</p> <p>(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の仕上り厚さの算出は、以下のとおりとする。 仕上り厚さ=体積/面積 体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 BIM/CIMモデルによる数量算出方法によることを標準とする。</p> <p style="text-align: center;">3-1-4</p>	<p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p>(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の仕上り厚さの算出は、以下のとおりとする。 仕上り厚さ=体積/面積 体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元BIM/CIMモデルによる数量算出方法によることを標準とする。</p>			<p>記載の変更</p>
注意事項				<p>(控え頁)</p> <p>1/1</p>

改正理由	一部改正	改正 現行
------	------	----------

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工

1. 適用

開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。
なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。

2. 数量算出項目

セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

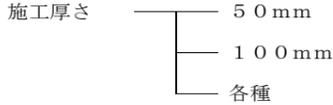
区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

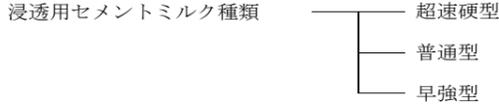
項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (ℓ/100m ²)	単位	数量	備考
セメントミルク浸透		B	○	○	○	m ²		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。



(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
表層(車道、路肩部)	B	m ²		「第3編(道路編)1.3アスファルト舗装工」参照

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

3-1-7

1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工

1. 適用

開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。
~~なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。~~

現行どおり

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 浸透用セメントミルク標準使用量(ロスを含む)は下記のとおりである。
100m²当り浸透用セメントミルク使用量(L)=25.2(L/mm)×施工厚さ(mm)

記載の削除

記載の追加

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

2章 付属施設工

2.1 排水構造物工

2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品)

1. 適用

排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝(落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む)、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、自由勾配側溝(プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する)、暗渠排水管(硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管)、管(函)渠型側溝、集水樹、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。

2. 数量算出項目

排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① ヒューム管(B形管)

区分 項目	3次元 モデル	属性情報								
		作業 区分	管 径	固定 基礎	基礎 碎石の 有無	規格	生コン クリート 規格	単位	数量	備考
ヒューム管 (B形管)	B	○	○	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. ヒューム管、B形管(ソケット管)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
 3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

3-2-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

① ヒューム管(B形管)

区分 項目	3次元 モデル	属性情報								
		作業 区分	管 径	固定 基礎	基礎 碎石の 有無	規格	生コン クリート 規格	単位	数量	備考
ヒューム管 (B形管)	B	○	○	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. ヒューム管、B形管(ソケット管)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
 3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。
 4. 鉄筋工が必要な場合は、「第1編(共通編)4.3鉄筋工」によるものとする。

記載の追加

注意事項		(控え頁) 1/3
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 <hr/> 現行	
------	------	----------------	--

現	行	改	正	備 考
---	---	---	---	-----

②ボックスカルバート

項目	区分	3次元モデル	属性情報							
			作業区分	製品長	内空幅・内空高	基礎材種別	PC鋼材による締固め	単位	数量	備考
ボックスカルバート		B	○	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート(内空断面が台形タイプの物を含む)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
 3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。
 4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
 5. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
 6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。

③暗渠排水管

項目	区分	3次元モデル	属性情報					単位	数量	備考
			作業区分	管種別	呼び径	継手材料費				
暗渠排水管		B	○	○	○	○	m			

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は、別途考慮する。

④フィルター材

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			フィルター材の種類	単位	数量	備考
フィルター材		A	○	m ³		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材(クラッシュラン・単粒度碎石等)の敷設の場合である。

⑤管(函)渠型側溝

項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考
			作業区分	内径又は内空幅	基礎碎石の有無				
管(函)渠型側溝		B	○	○	○	m			

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

②ボックスカルバート

項目	区分	3次元モデル	属性情報							
			規格	作業区分	製品長	内空幅・内空高	基礎材種別	PC鋼材による締固め	単位	数量
ボックスカルバート		B		○	○	○	○	○	m	
ボックスカルバート(材料費)		B	○						m	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート(内空断面が台形タイプの物を含む)の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
 3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。
 4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
 5. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
 6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。



現行どおり

次頁へ移動

記載の追加

注意事項		(控え頁) 2/3
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

⑥プレキャスト集水桝

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャスト集水桝	B		○	○	○	基		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. プレキャスト製集水桝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑦鉄筋コンクリート台付管

項目	区分	3次元モデル	属性情報				
			作業区分	管径	単位	数量	備考
鉄筋コンクリート台付管	B		○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑧プレキャストL形側溝

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			作業区分	基礎碎石の有無	L型側溝の種類	単位	数量	備考
プレキャストL形側溝	B		○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑨プレキャストマンホール

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャストマンホール	B		○	○	○	基		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

3-2-4

前頁から移動 →

⑤管(函)渠型側溝

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			作業区分	内径又は内空幅	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
管(函)渠型側溝	B		○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑥プレキャスト集水桝

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考
プレキャスト集水桝	B		○	○	○	基		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. プレキャスト製集水桝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
 2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

⑦鉄筋コンクリート台付管

項目	区分	3次元モデル	属性情報				
			作業区分	管径	単位	数量	備考
鉄筋コンクリート台付管	B		○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 **なお、鉄筋コンクリート台付管損失分及び接合を含む。**
 2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

次頁へ移動

記載の追加

注意事項		(控え頁)	3/3
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現行	改正	備考
----	----	----

2.1.2 排水構造物工(現場打ち水路)

1. 適用

現場打ちのU型側溝(本体)(落蓋型を含む)に適用する。

2. 数量算出項目

現場打ち水路(本体)の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、コンクリート規格、内空高、10m当りコンクリート使用量、コンクリート打設工法、養生工の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報						単位	数量	備考
			コンクリート規格	内空高	10m当りコンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類				
現場打ち水路(本体)	A	○	○	○	○	○	○	m			

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報						単位	数量	備考
			コンクリート規格	内空高	10m当りコンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類				
現場打ち水路(本体)	A	○	○	○	○	○	○	m			

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。

2. 鉄筋工が必要な場合は、「第1編(共通編) 4. 3鉄筋工」によるものとする。

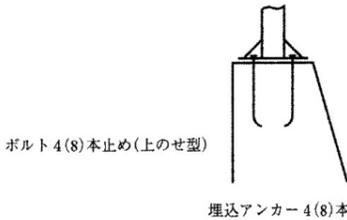
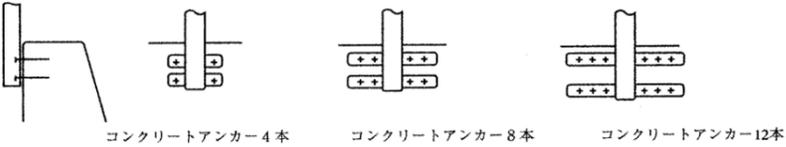
現行どおり

記載の追加

3-2-8

注意事項		(控え頁)
		1/1

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行	備 考
	現 行	改 正	
	<p>3. 土留板 1 m² 当り使用枚数も算出する。 4. しゃ音板・透光板 1 m² 当り使用枚数も算出する。 5. 外装板 1 m² 当り使用枚数も算出する。</p> <p>(2) 形式による区分 形式 — A型 (埋設アンカー方式) — B型 (穿孔アンカー方式)</p> <p>(3) 支柱間隔による区分 支柱間隔 — 2 m — 4 m</p> <p>(4) 設置高さによる区分 設置高さ — 4 m 以下 — 4 m を超え 8 m 以下</p> <p>(5) 支柱材料種類による区分 支柱材料種類 — 取付部 — 支柱本体 直部 — 支柱本体 曲部 — 各種</p> <p>(6) 施工区分による区分 施工区分 — しゃ音板 — 透光板</p> <p>(7) しゃ音板・透光板規格による区分 しゃ音板・透光板規格 — しゃ音板 — 500×1,960×95 — 500×3,960×95 — 各種 — 透光板 — 1,000×1,960×95 — 1,000×3,960×95 — 各種</p> <p style="text-align: right;">3-2-37</p>	<p>現行どおり</p> <p>(7) しゃ音板・透光板規格による区分 しゃ音板・透光板規格 — しゃ音板 — 500×1,960×95 (ア体[®] 付無し) — 500×3,960×95 (ア体[®] 付無し) — 500×1,960×95 (ア体[®] 付付) — 500×3,960×95 (ア体[®] 付付) — 各種 — 透光板 — 1,000×1,960×95 — 1,000×3,960×95 — 各種</p>	<p>記載の追加</p>
注意事項			(控え頁) 1/2

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p>現 行</p> <p>(8) 落下防止索規格による区分 落下防止索規格</p> <ul style="list-style-type: none"> — $\phi 6 \times 2500$ — $\phi 6 \times 4500$ — $\phi 6 \times 6500$ — $\phi 6 \times 8500$ — 各種 <p>(9) 下段パネル規格による区分 下段パネル規格</p> <ul style="list-style-type: none"> — W=255 — 各種 <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>5. 参考図 支柱取付型式区分（付図）</p> <p>(1) A型</p>  <p>ボルト4(8)本止め(上のせ型) 埋込アンカー4(8)本</p> <p>(2) B型</p>  <p>コンクリートアンカー4本 コンクリートアンカー8本 コンクリートアンカー12本</p> <p style="text-align: center;">3-2-37</p>	<p>改 正</p> <p>(8) 落下防止索規格による区分 落下防止索規格</p> <ul style="list-style-type: none"> — $\phi 6 \times 2,500$ — $\phi 6 \times 4,500$ — $\phi 6 \times 6,500$ — $\phi 6 \times 8,500$ — 各種 <p>(8) 下段パネル規格による区分 下段パネル規格</p> <ul style="list-style-type: none"> — W=255 — 各種 <p>現行どおり</p>	<p>備 考</p> <p>記載の削除</p>
注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

3章 道路維持修繕工

3.1 路面切削工

1. 適用

路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。

2. 数量算出項目

切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工区分、段差すりつけの撤去作業、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報						
		施工 区分	段差すりつけ の撤去作業	DID区間 の有無	運搬 距離	単位	数量	備考
路面切削	B	○	○	×	×	m ²		
殻運搬 (路面切削)	D	×	×	○	○	m ³		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 施工区分：平均切削深さ区分

施工区分：平均切削深さによる区分は、以下のとおりとする。

- 施工区分：平均切削深さ
- 全面切削6cm以下(4000m²以下)
 - 全面切削6cm以下(4000m²を超え)
 - 全面切削6cmを超え12cm以下
 - 帯状切削3cm以下

3-3-2

3章 道路維持修繕工

3.1 路面切削工

1. 適用

路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。ただし、交差点内の施工を含みかつ従道路側の交通規制を伴う交差点部の施工に際し、交差点部を小規模に分割し施工する場合は、当該交差点部分のみ別途考慮する。

2. 数量算出項目

切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工区分、段差すりつけの撤去作業、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報						
		施工 区分	段差すりつけ の撤去作業	DID区間 の有無	運搬 距離	単位	数量	備考
路面切削	B	○	○	×	×	m ²		
殻運搬 (路面切削)	D	×	×	○	○	m ³		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 既設導水パイプの撤去が必要な場合は別途考慮する。
2. 段差すりつけの撤去後に発生した殻の運搬は、「第1編(共通編)10.5殻運搬」により別途算出する。

現行どおり

記載の追加

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.2 舗装版破砕工

1. 適用

機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版、または人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及び掘削・積込の作業に適用する。

ただし、急速施工（舗装版とりこわしから舗装までを1日で完了する施工）、機械による橋梁舗装版撤去の場合、人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込の場合、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において全体厚が45cmを超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が50%を超える場合を除く。

2. 数量算出項目

舗装版破砕面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、舗装版種類、舗装版破砕厚さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			単位	数量	備考
			舗装版種別	舗装版破砕厚さ				
				アスファルト舗装	コンクリート舗装			
舗装版破砕面積	B				m ²		注) 3	
舗装版破砕量	D	○	○	○	(t) m ³	()		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 舗装版破砕量は、舗装版破砕前の体積として算出する。
 2. アスファルト殻、コンクリート殻の運搬が必要な場合は、運搬距離（km）を算出する。
 殻運搬は「第I編（共通編）10.5 殻運搬」により別途算出する。
 3. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合は、備考欄に全体厚を明記する。

(2) 舗装版種別区分

- ① アスファルト舗装版
- ② コンクリート舗装版
- ③ コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版

3.2 舗装版破砕工

1. 適用

機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版、または人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及びバックホウにより直接掘削・積込の作業に適用する。

ただし、急速施工（舗装版とりこわしから舗装までを1日で完了する施工）、機械による橋梁舗装版撤去の場合、人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込の場合、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において全体厚が45cmを超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が50%を超える場合を除く。

現行どおり

記載の追加

注意事項			(控え頁) 1/2
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現	行	改 正	備 考
<p>(3) 舗装版破碎厚さ区分</p> <p>アスファルト舗装版 (障害物無し 騒音振動対策不要)</p> <p>① 15 cm以下</p> <p>② 15 cmを超え40 cm以下</p> <p>アスファルト舗装版 (障害物無し 騒音振動対策必要)</p> <p>① 15 cm以下</p> <p>② 15 cmを超え35 cm以下</p> <p>アスファルト舗装版 (障害物有り)</p> <p>① 4 cm以下</p> <p>② 4 cmを超え10 cm以下</p> <p>③ 10 cmを超え15 cm以下</p> <p>④ 15 cmを超え30 cm以下</p> <p>コンクリート舗装版 (障害物無し 騒音振動対策不要)</p> <p>① 15 cm以下</p> <p>② 15 cmを超え35 cm以下</p> <p>コンクリート舗装版 (障害物無し 騒音振動対策必要)</p> <p>① 15 cm以下</p> <p>② 15 cmを超え35 cm以下</p> <p>コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版 全体厚</p> <p>① 15 cm以上35 cm以下</p> <p>アスファルト (カバー) 舗装</p> <p>① 15 cm以下</p> <p>② 15 cmを超え22.5 cm以下</p> <p style="text-align: right;">3-3-5</p>	<p>現行どおり</p>	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 (共通工) 1章 基本事項」による。</p>	<p>記載の追加</p>
<p>注意事項</p>	<p>現行なし →</p>		<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.3 舗装版切断工

1. 適用
 コンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の切断工に適用する。
 ただし、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、舗装版厚のうちアスファルト舗装版が占める割合が50%を超える場合を除く。

2. 数量算出項目
 舗装版切断の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、舗装版種別、舗装版切断厚さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	舗装版 種別	属 性 情 報			
			舗装版切断厚さ (cm)		数量 (m)	備考
			全体厚	全体厚の内 コンクリート舗装 版厚 注)2		
舗装版 切 断	B	○	t=○cm 以下	tc=○cm 以下	t = (tc =)	L =
					t = (tc =)	L =
	計		L =			
	B		t=○cm 以下	tc=○cm を超え tc=○cm 以下	t = (tc =)	L =
t = (tc =)		L =				
計		L =				
合計		Σ L =	m			

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 区分ごとに上表を集計する。
 2. コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、必要となる。

(2) 舗装版種別区分
 ① アスファルト舗装版
 ② コンクリート舗装版
 ③ コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版

3-3-6

3.3 舗装版切断工

1. 適用
 コンクリート舗装版、アスファルト舗装版及びこれらの重複舗装版における舗装版の切断工に適用する。
 なお、切断作業において複数回切断（ステップカット）の有無にかかわらず適用できる。
【適用出来る範囲】
 ・アスファルト舗装版厚が40cm以下の場合
 ・コンクリート舗装版厚が30cm以下の場合
 ・重複舗装版（コンクリート+アスファルト（カバー）厚が40cm以下の場合
【適用できない範囲】
 ・コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の場合、舗装版厚のうちアスファルト舗装版が占める割合が50%を超える場合

現行どおり

次頁へ移動

記載の変更

注意事項		(控え頁)
		1/2

改正理由	一部改正	改正 — 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
<p>(3) 舗装版種別区分及び厚さ区分</p> <p>① アスファルト舗装版のみ切断 1) 15cm以下 2) 15cmを超え30cm以下 3) 30cmを超え40cm以下</p> <p>② コンクリート舗装版のみ切断 1) 15cm以下 2) 15cmを超え30cm以下</p> <p>③ コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の切断 全体厚 1) 15cm以下 2) 15cmを超え30cm以下 3) 30cmを超え40cm以下 全体厚の内コンクリート舗装厚 1) 15cm以下 2) 15cmを超え30cm以下</p> <p style="text-align: right;">3-3-7</p>	<p style="text-align: right;">前頁から移動 →</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: right;">→</p>	<p>(2) 舗装版種別区分</p> <p>① アスファルト舗装版 ② コンクリート舗装版 ③ コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通工)1章 基本事項」による。</p>	<p>記載の追加</p>
注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																						
現 行		改 正																																						
<p>3.5 路上路盤再生工</p> <p>1. 適用</p> <p>スタビライザによる路上混合作業で混合深さ40cm以下の再生路盤工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>路上路盤再生の施工面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路上路盤再生</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) 規格区分 路上路盤再生の施工面積を混合深さ、添加剤及び混合用乳剤の種類、使用量ごとに区分して算出する。</p> <p>3-3-10</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	路上路盤再生		B	○	m ²			<p>3.5 路上路盤再生工</p> <p>1. 適用</p> <p>スタビライザによる路上混合作業で、施工面積 250m² 以上 6,000m² 以下、平均施工幅 2m 以上 10m 以下、混合深さ 40cm0.4m 以下の再生路盤工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>路上路盤再生の施工面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路上路盤再生</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 事前の路面切削が必要な場合は、別途計上する。 2. 事前の予備破碎、予備破碎後の殻運搬、処分が必要な場合は、別途計上する。</p> <p>(2) 規格区分 路上路盤再生の施工面積を混合深さ、添加剤及び混合用乳剤の種類、使用量ごとに区分して算出する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	路上路盤再生		B	○	m ²			<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																		
		規格	単位	数量		備考																																		
路上路盤再生		B	○	m ²																																				
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																					
			規格	単位	数量	備考																																		
路上路盤再生		B	○	m ²																																				
注意事項			(控え頁) 1/1																																					

改正理由	廃止	改正 現行	
------	----	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.7 アスファルト注土工

1. 適用

コンクリート舗装版およびオーバーレイされたコンクリート舗装版のアスファルト注土工に適用する。

2. 数量算出項目

削孔数、注入材量、注入面積を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			
		規格・仕様	単 位	数 量	備 考
削 孔	B	φ 5 0 mm	穴		
注 入 材	B	ブロンアスファルト	t		
注入面積	B		m ²		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

3-3-12

~~3.7 アスファルト注土工~~

~~1. 適用~~

~~コンクリート舗装版およびオーバーレイされたコンクリート舗装版のアスファルト注土工に適用する。~~

~~2. 数量算出項目~~

~~削孔数、注入材量、注入面積を算出する。~~

~~(1) 数量算出項目一覧表~~

項 目	3次元 モデル	属 性 情 報			
		規格・仕様	単 位	数 量	備 考
削 孔	B	φ 5 0 mm	穴		
注 入 材	B	ブロンアスファルト	t		
注入面積	B		m²		

~~3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする~~

廃止

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改 正	
		現 行	

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

3.8 舗装版クラック補修工

1. 適用

コンクリート舗装版のクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。

2. 数量算出項目

クラック補修、注入材（材料費）、クラック防止シート張、クラック防止シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
クラック補修		B	×	m		
注入材（材料費）		B	○	m		
クラック防止シート張		B	×	m		
クラック防止シート（材料費）		B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当りの質量（kg）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。なお、割増率の内訳は、諸雑費と注入材のロスとする。

$$G = [g \times W \times D \times (1 + \text{割増率})] / 10$$

G：補修延長m当り数量（kg）
g：注入材の比重（kg/l）
W：補修幅（cm）
D：補修深さ（cm）
割増率は+0.23とする。

(2) クラック防止シート（材料費）は、ロス率を考慮した数量を算出する。なお、ロス率は+0.11とする。

3.7 舗装版クラック補修工

1. 適用

コンクリート舗装版の加熱注入式によるクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。

2. 数量算出項目

クラック補修、注入材（材料費）、クラック防止シート張、クラック防止シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
クラック補修		B	×	m		
注入材（材料費）		B	○	m		
クラック防止シート張		B	×	m		
クラック防止シート（材料費）		B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当りの質量（kg）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。なお、割増率の内訳は、諸雑費と注入材のロスとする。

$$G = [g \times W \times D \times (1 + \text{割増率})] / 10$$

G：補修延長m当り数量（kg）
g：注入材の比重（kg/L）
W：補修幅（cm）
D：補修深さ（cm）
割増率は+0.23とする。

(2) クラック防止シート（材料費）は、ロス率を考慮した数量を算出する。なお、ロス率は+0.15とする。

注意事項		(控え頁)
		1/1

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3.16 トンネル漏水対策工

1. 適用

既設道路トンネルの漏水対策のうち導水工法に適用する。

2. 数量算出項目

面導水、面導水（材料費）、線導水、線導水（材料費）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			備考
		規格	単位	数量	
面導水	B	×	m ²		
面導水（材料費）	B	○	m ²		
線導水	B	×	m		
線導水（材料費）	B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

3-3-26

3.15 トンネル漏水対策工

1. 適用

既設道路トンネルの漏水対策のうち導水工法に適用する。
【面導水】
 ・漏水範囲が面状で、幅2,000mmの防水板を設置する面的な漏水対策工法
【線導水（溝切り工）】
 ・漏水範囲が線状で、縦・横方向の漏水箇所に沿って導水材（ゴム系又は樹脂系）又は伸縮性充填材を溝状に設置する局所的な漏水対策工法
【線導水（導水樋工）】
 ・漏水範囲が線状で、縦方向の漏水箇所に沿って覆工表面に導水幅1,000mm以下の導水樋材を設置する局所的な漏水対策工法

2. 数量算出項目

面導水、面導水（材料費）、線導水（溝切り工）、線導水（溝切り工）（材料費）、線導水（導水樋工）、線導水（導水樋工）（材料費）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			備考
		規格	単位	数量	
面導水	B	×	m ²		
面導水（材料費）	B	○	m ²		
線導水（溝切り工）	B	×	m		
線導水（溝切り工）（材料費）	B	○	m		
線導水（導水樋工）	B	○	m		
線導水（導水樋工）（材料費）	B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

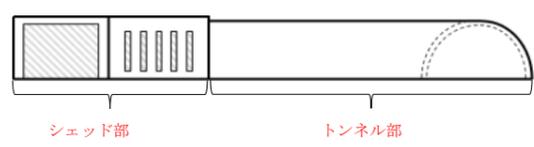
4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 照明設備等撤去が必要な場合は、別途算出する。
- (2) 線導水（溝切り工）では、コンクリート殻の集積場所までの運搬距離(m)を算出する。
 なお、現場内小運搬(180m程度)は含まれている。
- (3) 線導水（溝切り工）にてコンクリート殻積込・運搬が必要な場合は、第1編（共通編）12章構造物補修工12.3断面修復工（左官工）により別途算出する。

記載の追加

注意事項		(控え頁)
		1/1

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行																																																																											
現 行	改 正		備 考																																																																										
<p>3.17 トンネル補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))</p> <p>1. 適用</p> <p>トンネルのひび割れ補修における1トンネル当りの低圧注入作業(圧縮空気、ゴムやパネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用いて注入を行うもの)に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>トンネル補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p>		項 目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				規 格	単 位	数 量	備 考	トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))	補修延べ延長	B		m			注入材	B	○	kg			シール材	B	○	kg			低圧注入器具	B	○	個			<p>3.16 トンネル補修工 3.16.1 トンネル補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))</p> <p>1. 適用</p> <p>高所作業車を用いたトンネルのひび割れ補修における1トンネル当りの低圧注入作業(圧縮空気、ゴムやパネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用いて注入を行うもの)に適用する。また、シェッドや大型カルバート等についても適用することが出来る。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、補修延べ延長区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>補修延べ延長区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))</td> <td>補修延べ延長</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低圧注入器具</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。</p> <p>(2) 補修延べ延長区分 補修延べ延長区分は下記のとおり区分して算出する。 ①25m以下 ②25mを超える</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>【参考】1トンネルについて 道路トンネルとシェッド等が連続している場合は、1トンネルと考える。</p> 		項 目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報				規 格	補修延べ延長区分	単 位	数 量	備 考	トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))	補修延べ延長	B		○	m		注入材	B	○		kg		シール材	B	○		kg		低圧注入器具	B	○		個		<p>記載の追加</p> <p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p>記載の追加</p>
項 目	区 分				3次元モデル	属 性 情 報																																																																							
		規 格	単 位	数 量		備 考																																																																							
トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))	補修延べ延長	B		m																																																																									
	注入材	B	○	kg																																																																									
	シール材	B	○	kg																																																																									
	低圧注入器具	B	○	個																																																																									
項 目	区 分	3次元モデル	属 性 情 報																																																																										
			規 格	補修延べ延長区分	単 位	数 量	備 考																																																																						
トンネル補修工 (ひび割れ補修工 (低圧注入工法))	補修延べ延長	B		○	m																																																																								
	注入材	B	○		kg																																																																								
	シール材	B	○		kg																																																																								
	低圧注入器具	B	○		個																																																																								
注意事項			(控え頁) 1/1																																																																										

改正理由	新規	改正 現行	
------	----	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行無し

3. 16. 2 トンネル補修工(断面修復工(左官工法))

1. 適用
 高所作業車を用いたトンネルの断面修復における1トンネル当りの左官作業に適用する。
 また、シェッドや大型カルバート等についても適用することが出来る。

2. 数量算出項目
 トンネル補修工(断面修復工(左官工法))の修復延べ体積を区分ごとに算出する。

3. 区分
 区分は、規格、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

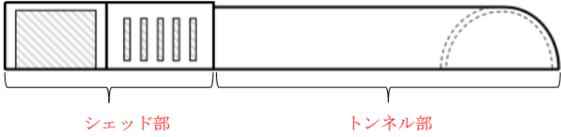
項目	区 分	3次元 モデル	属 性 情 報			
			規格	鉄筋ケレン・ 鉄筋防錆処理 の有無	単位	数量
トンネル補修工(断面修復工(左官工法))	修復延べ体積	A		○	m3	
	断面修復材	B	○		m3	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 2. コンクリート殻を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出し、「第1編(共通編)12.3 断面修復工(左官工法)」により別途算出する。
 3. コンクリート殻の処分費は別途計上する。

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。

【参考】1トンネルについて

道路トンネルとシェッド等が連続している場合は、1トンネルと考える。



新規

改正理由	新規	改正 現行																																																																														
現行	改正	備考																																																																														
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">現行無し</div>		<p>3. 16. 3 トンネル補修工(剥落防止対策工(可視繊維シート接着工))</p> <p>1. 適用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高所作業車を用いた、トンネル剥落防止対策を目的とする1トンネル当りの可視繊維シート(接着後に目視点検が可能な透明性の高い繊維シート)の接着作業に適用する。また、シェッド及び大型カルバート等についても適用することができる。</div> </p> <p>2. 数量算出項目 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下地処理、プライマー塗布、不陸修正、シート接着、仕上げ塗装を区分ごとに算出する。</div> </p> <p>3. 区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格とする。</div> </p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地処理</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プライマー塗布</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プライマー</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg または L</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不陸修正</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>不陸修正材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">シート接着 (含浸接着剤 下塗り上塗り含む)</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>含浸接着剤</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg または L</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>可視繊維シート</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">仕上げ塗装</td> <td>延べ施工量</td> <td>B</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仕上げ塗装材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg または L</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 含浸接着剤(下塗り)がプライマーを兼ねる場合は、「プライマー塗布」を省略すること。 2. 含浸接着剤(上塗り)が仕上げ塗装材を兼ねる場合は、「仕上げ塗装」を省略すること。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	下地処理	延べ施工量	B		m2			プライマー塗布	延べ施工量	B		m2			プライマー	B	○	kg または L			不陸修正	延べ施工量	B		m2			不陸修正材	B	○	kg			シート接着 (含浸接着剤 下塗り上塗り含む)	延べ施工量	B		m2			含浸接着剤	B	○	kg または L			可視繊維シート	B	○	m2			仕上げ塗装	延べ施工量	B		m2			仕上げ塗装材	B	○	kg または L			新規
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																													
			規格	単位	数量	備考																																																																										
下地処理	延べ施工量	B		m2																																																																												
プライマー塗布	延べ施工量	B		m2																																																																												
	プライマー	B	○	kg または L																																																																												
不陸修正	延べ施工量	B		m2																																																																												
	不陸修正材	B	○	kg																																																																												
シート接着 (含浸接着剤 下塗り上塗り含む)	延べ施工量	B		m2																																																																												
	含浸接着剤	B	○	kg または L																																																																												
	可視繊維シート	B	○	m2																																																																												
仕上げ塗装	延べ施工量	B		m2																																																																												
	仕上げ塗装材	B	○	kg または L																																																																												
注意事項			(控え頁) 1/2																																																																													

工種	トンネル補修工(剥落防止対策工(可視繊維シート接着工))
----	------------------------------

改正理由	新規	改正 現行	
現行		改正	
		備考	
注意事項	<div data-bbox="638 1033 923 1163" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">現行無し</div>		<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>

【参考】1トンネルについて
道路トンネルとシェッド等が連続している場合は、1トンネルと考える。



新規

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現 行	改 正	備 考																																																																																																																																																																																																																																																						
<p>3.19 道路除雪工</p> <p>1. 適用 道路除雪工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 除雪機械等の実作業時間等を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>除雪トラック</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>除雪グレーダ</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>除雪ドーザ</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ロータリ除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>一車線積込除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ダンプトラック</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>凍結防止剤散布車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小型除雪機</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小型除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>砂散布機架装車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>散水車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>多目的作業車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>雪道巡回</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>回</td><td></td><td>4.(2)</td></tr> <tr><td>凍結防止剤人力散布</td><td></td><td>D</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td>4.(3)</td></tr> <tr><td>スノーポール設置撤去</td><td></td><td>B</td><td>×</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>待機補償</td><td></td><td>D</td><td>×</td><td>各種</td><td></td><td>別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2</td></tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>3-3-32</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	除雪トラック		D	○	時間			除雪グレーダ		D	○	時間			除雪ドーザ		D	○	時間			ロータリ除雪車		D	○	時間			一車線積込除雪車		D	○	時間			ダンプトラック		D	○	時間			凍結防止剤散布車		D	○	時間			小型除雪機		D	○	時間			小型除雪車		D	○	時間			砂散布機架装車		D	○	時間			散水車		D	○	時間			多目的作業車		D	○	時間			雪道巡回		D	○	回		4.(2)	凍結防止剤人力散布		D	×	t		4.(3)	スノーポール設置撤去		B	×	本			待機補償		D	×	各種		別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2	<p>3.18 道路除雪工</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>除雪トラック</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>除雪グレーダ</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>除雪ドーザ</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ロータリ除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>一車線積込除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ダンプトラック</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>凍結防止剤散布車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小型除雪機</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小型除雪車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>砂散布機架装車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>散水車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>多目的作業車</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>時間</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>雪道巡回</td><td></td><td>D</td><td>○</td><td>回</td><td></td><td>4.(2)</td></tr> <tr><td>凍結防止剤人力散布</td><td></td><td>D</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td>4.(3)</td></tr> <tr><td>スノーポール設置撤去</td><td></td><td>B</td><td>×</td><td>本</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>待機補償</td><td></td><td>D</td><td>×</td><td>各種</td><td></td><td>別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2</td></tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量	備考	除雪トラック		D	○	時間			除雪グレーダ		D	○	時間			除雪ドーザ		D	○	時間			ロータリ除雪車		D	○	時間			一車線積込除雪車		D	○	時間			ダンプトラック		D	○	時間			凍結防止剤散布車		D	○	時間			小型除雪機		D	○	時間			小型除雪車		D	○	時間			砂散布機架装車		D	○	時間			散水車		D	○	時間			多目的作業車		D	○	時間			雪道巡回		D	○	回		4.(2)	凍結防止剤人力散布		D	×	t		4.(3)	スノーポール設置撤去		B	×	本			待機補償		D	×	各種		別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2	<p>記載の変更</p> <p>記載の変更</p>
項目				区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																																																																																																																																		
	規格	単位	数量			備考																																																																																																																																																																																																																																																		
除雪トラック		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
除雪グレーダ		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
除雪ドーザ		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
ロータリ除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
一車線積込除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
ダンプトラック		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
凍結防止剤散布車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
小型除雪機		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
小型除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
砂散布機架装車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
散水車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
多目的作業車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
雪道巡回		D	○	回		4.(2)																																																																																																																																																																																																																																																		
凍結防止剤人力散布		D	×	t		4.(3)																																																																																																																																																																																																																																																		
スノーポール設置撤去		B	×	本																																																																																																																																																																																																																																																				
待機補償		D	×	各種		別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2																																																																																																																																																																																																																																																		
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																																																																																																																																																																																					
			規格	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																		
除雪トラック		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
除雪グレーダ		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
除雪ドーザ		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
ロータリ除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
一車線積込除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
ダンプトラック		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
凍結防止剤散布車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
小型除雪機		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
小型除雪車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
砂散布機架装車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
散水車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
多目的作業車		D	○	時間																																																																																																																																																																																																																																																				
雪道巡回		D	○	回		4.(2)																																																																																																																																																																																																																																																		
凍結防止剤人力散布		D	×	t		4.(3)																																																																																																																																																																																																																																																		
スノーポール設置撤去		B	×	本																																																																																																																																																																																																																																																				
待機補償		D	×	各種		別紙集計例 Hm、Hk、D1、D2																																																																																																																																																																																																																																																		

注意事項		(控え頁) 1/2
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 —— 現行	備考
現	行	改 正	備 考
<p>(2) 規格区分 各除雪機械等の規格は、機械種別とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 各除雪機械等の作業量の算定は実作業時間とする。 (2) 雪道巡回では、巡回1回当りの巡回距離（km）も算出する。 (3) 凍結防止剤は、実散布量にて精算を行うものとする。 (4) 各除雪機械等の作業量及び待機補償の詳細な算出内容は「別紙集計例」を参考とする。</p> <p style="text-align: right;">3-3-33</p>	<p style="font-size: 2em;">}</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="font-size: 2em;">}</p> <p style="text-align: center;">→</p>	<p>(1) 各除雪機械等の作業量の算定は実作業時間とする。 (2) 雪道巡回では、巡回1回当りの巡回距離（km）も算出する。 (3) 凍結防止剤は、実散布量にて精算を行うものとする。 (3) 各除雪機械等の作業量及び待機補償の詳細な算出内容は「別紙集計例」を参考とする。</p>	<p>記載の変更</p>
注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改 正 ----- 現 行	
現 行		改 正	
<p>3. 21. 2(1) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>RC橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強用コンクリート巻立て工を行う場合に適用する。 ただし、エポキシ樹脂系注入材によるアンカー定着の場合に限り、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> </div> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矩形（小判形を含む）支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。） <p>・ 円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）</p> <p style="text-align: center;">3-3-47</p>		<p>3. 20. 2(1) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>RC橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強用コンクリート巻立て工を行う場合に適用する。 ただし、エポキシ樹脂系注入材によるアンカー定着の場合に限り、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> </div> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支柱の断面形状及び断面寸法が鉛直方向に一定の構造物で、コンクリート巻立て厚 0.25m、コンクリート巻立て高さ 20m以下のコンクリート巻立て補強の場合。 ・ 矩形（小判形を含む）支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。） <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	
注意事項		記載の追加	
		(控え頁) 1/1	

改正理由	一部改正	改 正 — 現 行																																																				
現	行	改	正																																																			
<p>3. 21. 2(2) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」が適用範囲外のRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)のコンクリート巻立て工における足場工、下地処理工、型枠工、コンクリート工に適用する。なお、支柱の断面形状が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> </div> <p>参考(橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矩形、小判型支柱(幅1.0~15.0m、奥行1.0~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 ・円形支柱(径1.5~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>足場(適用範囲外コンクリート巻立て)、下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て)、型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)、コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て)の数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、型枠種別、生コンクリート規格、養生工の有無とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>型枠種別</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>注) 1. 足場は、枠組足場(手摺先行型)を標準とする。 2. 単管足場及び単管傾斜足場については別途考慮する。 3. 下地処理は、チップングを標準とする。 4. 一般型枠の場合は、小判形支柱の両端部は含むが、円形支柱3m以下の円形部分には適用しない。</p> <p>(2) 型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)の型枠種別による区分</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>型枠種別</p> <ul style="list-style-type: none"> — 一般型枠 — 合板円形型枠 </div> <p style="text-align: center;">3-3-52</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				単位	数量	備考	型枠種別	生コンクリート規格	養生工の有無		足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	×	×	×	掛m ²			下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	×	×	×	m ²			型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	○	×	×	m ²			コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		A	×	○	○	m ³			<p>3. 20. 2(2) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>RC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)の補強用コンクリート巻立て工であり、コンクリート巻立て厚0.25m、コンクリート巻立て高さ20m以下の内「橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」の適用範囲外のRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)のコンクリート巻立て工における足場工、下地処理工、型枠工、コンクリート工に適用する。なお、支柱の断面形状及び断面寸法が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> </div> <p>参考(橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矩形、小判型支柱(幅1.0~15.0m、奥行1.0~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 ・円形支柱(径1.5~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合 		備考
項目	区分				3次元モデル	属性情報						単位	数量	備考																																								
		型枠種別	生コンクリート規格	養生工の有無																																																		
足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	×	×	×	掛m ²																																																
下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	×	×	×	m ²																																																
型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		B	○	×	×	m ²																																																
コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		A	×	○	○	m ³																																																
注意事項			(控え頁) 1/1																																																			

工 種	架設工
-----	-----

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考
現 行	改 正		備 考
<p>(1) 架設支保工</p> <p>1) 側径間部くさび結合支保 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.3 架設支保工 2. くさび結合支保工」による。</p> <p>2) 側径間部支柱式支保 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.3 架設支保工 3. 支柱支保工」による。</p> <p>(2) 柱頭部仮支承 柱頭部仮支承(鉄筋加工組立、型枠製作設置撤去、コンクリート打設、仮支承部取り壊し及び撤去作業である。)としてコンクリート量を算出する。</p> <p>(3) 剛結工 剛結工は以下の内訳で算出する。</p> <p>1) PC鋼棒工 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.1 コンクリート主桁製作工 5.1.6 PC片持製作工(4)PC鋼棒工」による。</p> <p>2) PC鋼棒継手工 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.1 コンクリート主桁製作工 5.1.6 PC片持製作工(5)PC鋼棒継手工」による。</p> <p>3) PC鋼棒定着工 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.1 コンクリート主桁製作工 5.1.6 PC片持製作工(6)PC鋼棒定着工」による。</p> <p>4) PC鋼棒緊張工 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.1 コンクリート主桁製作工 5.1.6 PC片持製作工(7)PC鋼棒緊張工」による。</p> <p>5) PC鋼棒開放工 PC鋼棒開放工として、鋼棒の箇所数を計上する。</p> <p>(4) 支保工 下記の図より算出する。</p> <p>(5) 作業車クライミング 作業車の下部構造を引き上げる作業をいう。</p> <p>(6) 作業車引き戻し工 作業車を解体作業位置まで引き戻す作業をいう。</p> <p style="text-align: center;">3-5-15</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">2) 側径間部支柱式支保 「第3編(道路編)5章コンクリート橋上部工 5.3 架設支保工 3. 支柱支保工」による。支柱支保の空体積を区分ごとに算出する。区分は、開口部延長、支保耐力、支保高さとする。</p> <p style="text-align: center;">次項へ移動</p>		<p>記載の変更</p>
注意事項			(控え頁) 1/3

改正理由	一部改正	改正 現行
------	------	----------

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行なし →

a) 数量算出項目及び区分一覧表

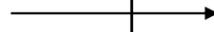
区分 項目	3次元 モデル	属性情報					
		開口部 延長(m)	支保耐力(kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ(m)	単位	数量	備考
支柱支保	A	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.5以上4.6未満	空 m ³		
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
		10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
	29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.8以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						
49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.8以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						

「支柱支保」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて区分することより「A」を適用する

記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
	<p>b) 支柱支保の施工量 (V) 及び支保耐力 (P) を次式により算出する。</p> <p>① 施工量 (V) $V = (W + 2.4) \times H \times (\ell + 1.0)$ (空m³) ……式3. 1 W: 地覆外縁間距離 (m) H: 支柱支保高さ H = h + A (m) h: 開口部高さ (m) A: 主桁高さ (m) ℓ: 開口部延長 (m) ※ 1 開口部において、左右の支保工の高さが異なる場合は、平均支保高さを使用する。</p> <p>② 支保耐力 (P) 「5. 3 架設支保工 2. くさび結合支保工」による。</p> <p>c) 支柱支保工概念図</p> <p>注) 1. d は、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。 なお、dの算定式は、 $d = \text{コンクリート体積 (m}^3) \div [W \text{ (m)} \times \text{桁長 (m)}]$ (m) とする。 2. 橋側足場は、別途「第3編 (道路編) 5章コンクリート橋上部工5. 6 仮設工」で計上する。</p>	記載の追加	
注意事項		(控え頁) 3/3	

現行なし



改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 — 現 行	備 考
現	行	改	正
3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。	a) 1セット当り施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。 （注）1セットとは、単純支持梁の場合は1径間、連続梁の場合は1連続をいう。	3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。	a) 1セット当り施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。 （注）1セットとは、 単純桁の場合は1径間、連続桁を一括施工する場合は全径間、分割施工する場合は分割する当該径間を含む1連続をいう。
① 1セット当りの施工量（V） $V = (W + 2.4) \times H \times L$ (空m ³) ……式2.1 W：地覆外縁間距離（m） H：平均桁下高さ（m） L：1セット当り施工延長（m）	※ 開口部が必要とする場合の1セット当り施工量（Vm） $Vm = \text{式2.1} - \text{式3.1}$ (空m ³) ……式2.2 （支柱支保延長（m）＝開口部延長（L）＋1.0）	② 支保耐力（P） $P = (2.81 \times d + 0.4) \times \frac{W}{W1} \times 9.80665$ (kN/m ²) ……式2.3 d：平均コンクリート厚（m） W：地覆外縁間距離（m） W1：中央床版幅（m）	記載の変更
b) くさび結合支保工概念図		<p style="font-size: 2em;">}</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	
注) dは、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。 なお、dの算定式は、 $d = \text{コンクリート体積 (m}^3) \div [W \text{ (m)} \times \text{桁長 (m)}]$ (m) とする。	3-5-19		
注意事項			(控え頁) 1/2

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	開口部 延長(m)	属性情報				備考
			支保耐力(kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ(m)	単位	数量	
支柱支保	A	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.5以上4.6未満	空 m ³		
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
		10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
7.8以上10.8以下							
49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.6以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
		7.8以上10.8以下					
29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.8以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						
	7.8以上10.8以下						
39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.8以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						
	7.8以上10.8以下						
49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.8以上4.8未満						
	4.8以上7.8未満						
	7.8以上10.8以下						
	7.8以上10.8以下						

「支柱支保」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて区分することより「A」を適用する

3-5-21

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	開口部 延長(m)	属性情報				備考
			支保耐力(kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ(m)	単位	数量	
支柱支保	A	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	4.0以上7.0未満	空 m ³		
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
			49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
		10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
				7.0以上10.0以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	4.0以上7.0未満			
				7.0以上10.0以下			
7.0以上10.0以下							
49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	4.0以上7.0未満						
	7.0以上10.0以下						
	7.0以上10.0以下						
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	4.0以上7.0未満					
		7.0以上10.0以下					
		7.0以上10.0以下					
		7.0以上10.0以下					
	29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	4.0以上7.0未満					
		7.0以上10.0以下					
		7.0以上10.0以下					
		7.0以上10.0以下					
39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	4.0以上7.0未満						
	7.0以上10.0以下						
	7.0以上10.0以下						
	7.0以上10.0以下						
49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	4.0以上7.0未満						
	7.0以上10.0以下						
	7.0以上10.0以下						
	7.0以上10.0以下						



} 現行どおり

記載の変更

注意事項		(控え頁)	2/2
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

5.4 横組工
5.4.1 プレテンション桁

1. 適用

プレテンション桁の横組工に適用する。

2. 数量算出項目

鉄筋、コンクリート、PCケーブル、緊張等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			備考
			規格	単位	数量	
鉄筋	B	○	t			
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	
PCケーブル	B	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。	
緊張	B	○	ケーブル			

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。
「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。
「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。
「緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 鉄筋
鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。
- (2) コンクリート
横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。
- (3) PCケーブル
PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。
- (4) 緊張
PCケーブルの種類及び定着装置の種類（緊張用、固定用）ごとに算出する。
- (5) 養生
特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。

3-5-24

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			備考
			規格	単位	数量	
鉄筋	B	○	t			
埋設型枠	B	○	m		床版桁の場合は算出する。	
埋設型枠端部	B	○	個		床版桁の場合は算出する。	
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はないが、床版桁の場合は、埋設型枠及び埋設型枠端部の数量を算出する。	
PCケーブル	B	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。	
緊張	B	○	ケーブル			

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。
「埋設型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。
「埋設型枠端部」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出することより「B」を適用する。
「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。
「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。
「緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。

次項へ移動

記載の変更

注意事項		(控え頁)
		1/2

改正理由	一部改正	改正 —— 現 行	
現 行	改 正	備 考	
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4. 3. 1 鉄筋工」により算出する。</p> <p>(2) 埋設型枠 埋設型枠の延長を次式により算出する。</p> <p style="padding-left: 20px;">埋設型枠延長 (L) L=主桁延長×(主桁本数-1)</p> <p>(3) 埋設型枠端部 埋設型枠端部の個数を次式により算出する。</p> <p style="padding-left: 20px;">埋設型枠端部個数 (N) N=(主桁本数-1)×2</p> <p>(4) コンクリート 横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。</p> <p>(5) PCケーブル PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。</p> <p>(6) 緊張 PCケーブルの種類及び定着装置の種類（緊張用、固定用）ごとに算出する。</p> <p>(7) 養生 特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。</p>	→	記載の追加
注意事項			(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

<p>8.2 支承取替工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、鋼橋及びPC橋以外の支承取替の場合（RC橋・PRC橋・複合橋等）沓座コンクリートのはつりにウォータージェットを使用する場合、膨張型薄型ジャッキ（フラットジャッキ等）を使用する場合、補修用足場にベント設備を用いる場合には適用しないものとする。</p> </div> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th rowspan="2">種 類 形 式</th> <th colspan="3">鋼橋－鋼製支承</th> <th rowspan="2">鋼橋－ゴム支承 IV</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> </tr> <tr> <td>作用する反力kN(t)</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> <td>1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下</td> <td>2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> PC橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>種 類 形 式</th> <th>PC橋－ゴム支承 V</th> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN (t)</td> <td>1961.3kN (200t) 以下</td> </tr> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、桁付ブラケット（材料費）、沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）、下部工ブラケット取付、下部工ブラケット（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。</p> </div>	種 類 形 式	鋼橋－鋼製支承			鋼橋－ゴム支承 IV	I	II	III	作用する反力kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	種 類 形 式	PC橋－ゴム支承 V	作用する反力 kN (t)	1961.3kN (200t) 以下			
種 類 形 式		鋼橋－鋼製支承				鋼橋－ゴム支承 IV														
	I	II	III																	
作用する反力kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下																
種 類 形 式	PC橋－ゴム支承 V																			
作用する反力 kN (t)	1961.3kN (200t) 以下																			

<p>8.2 支承取替工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、鋼橋及びPC橋以外の支承取替の場合（RC橋・PRC橋・複合橋等）沓座コンクリートのはつりにウォータージェットを使用する場合、膨張型薄型ジャッキ（フラットジャッキ等）を使用する場合、補修用足場にベント設備を用いる場合には適用しないものとする。</p> </div> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th rowspan="2">種 類 形 式</th> <th colspan="3">鋼橋－鋼製支承</th> <th rowspan="2">鋼橋－ゴム支承 IV</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> </tr> <tr> <td>作用する反力kN(t)</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> <td>1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下</td> <td>2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> PC橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>種 類 形 式</th> <th>PC橋－ゴム支承 V</th> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN (t)</td> <td>1961.3kN (200t) 以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支承取替で、現場条件等により、支承直下部以外のはつりを行う場合 ・ 鋼橋の支承取替で、現場条件等により、反力受け架台として下部工ブラケットを取付ける場合 <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、桁付ブラケット（材料費）、沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）、下部工ブラケット取付、下部工ブラケット（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。</p> </div>	種 類 形 式	鋼橋－鋼製支承			鋼橋－ゴム支承 IV	I	II	III	作用する反力kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	種 類 形 式	PC橋－ゴム支承 V	作用する反力 kN (t)	1961.3kN (200t) 以下			<p>記載の追加</p>
種 類 形 式		鋼橋－鋼製支承				鋼橋－ゴム支承 IV														
	I	II	III																	
作用する反力kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下																
種 類 形 式	PC橋－ゴム支承 V																			
作用する反力 kN (t)	1961.3kN (200t) 以下																			

注意事項			(控え頁) 1/1
------	--	--	--------------

改正理由	新規	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

現行なし

8.6 塗装塗替足場工

1. 適用

既設鋼橋の塗装塗替に伴う吊足場で、全面足場板（板張防護兼用）を行う場合に適用するものとし、足場の種類は、パイプ吊足場及びシステム吊足場とする。
 パイプ吊足場とは、足場板をおやごパイプやころばしパイプ、チェーンを使って橋桁から吊り下げる足場の形式である。
 システム吊足場とは、おやご、ころばし、足場板を一体化したパネル式吊足場や、先行しておやご、ころばし等の足場部材を張り出し施工する構造とした先行床施工式吊足場がある。
 なお、対象となるシステム吊足場は、システム吊足場のうち、おやご、ころばし、足場板を一体化したパネル式吊足場である。

2. 数量算出項目

足場の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、足場種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			足場種類	単 位	備 考
足場	II		○	m2	
チェーン盛替工	II		○	m2	必要な場合に計上

「足場」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて足場種類を区分することより「II」を適用する。

(2) 足場種類区分

- 足場種類による区分は、下記のとおりとする。
- ① パイプ吊足場
 - ② システム（パネル式）吊足場工

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) パイプ吊足場（朝顔・板張・シート防護含む）、システム（パネル式）吊足場（朝顔・板張・シート防護含む）

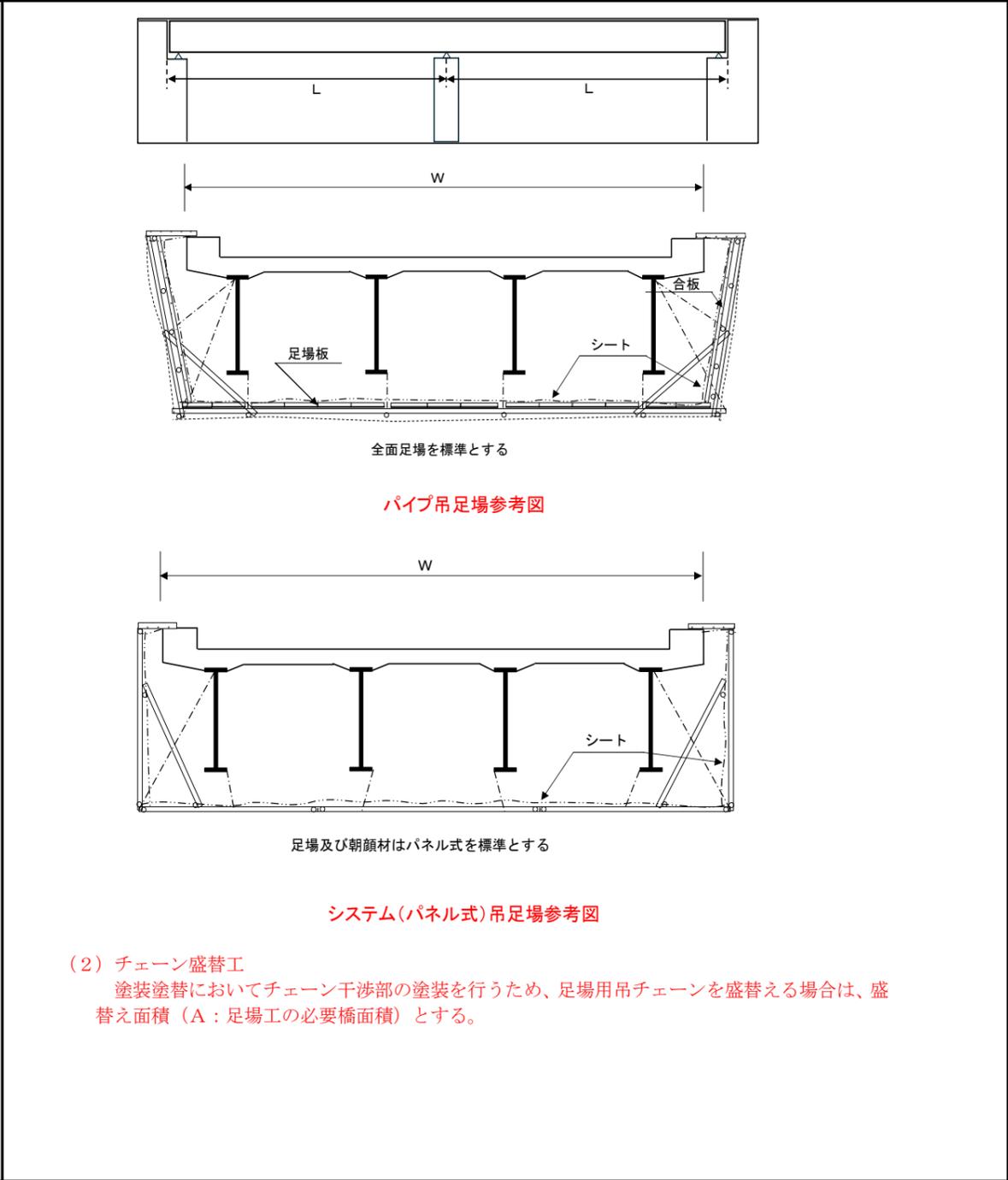
足場は、全面足場板（朝顔・板張・シート防護兼用）を標準とする。
 足場工の必要橋面積は次式により算出する。

$A = W \times L$
 A：足場工の必要橋面積（m²）
 W：全幅員（地覆外縁間距離）（m）
 L：足場必要長（m）
 （注）足場必要長は一般に径間長とする。

改正理由	新規	改正	
		現行	

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

現行なし



新規

注意事項

(控え頁)
2/2

改正理由	新規	改正 現行	
------	----	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行なし

8.7 高力ボルト当て板鋼桁補強工

1. 適用
橋梁補修のうち、高力ボルト接合による当て板補強を行う作業に適用する。

2. 数量算出項目
芯出し調整工、鋼桁孔明工、補強部材取付工、高力ボルト本締め工、補修塗装工（素地調整）、補修塗装工（下・中・上塗り）を区分ごとに算出する。

3. 区分
区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			規格	単位	数量
芯出し調整工	II			m2	
鋼桁孔明工	II		○	本	
補強部材取付工	II		○	部材	
高力ボルト本締め工	II		○	本	
補修塗装工（素地調整）	II			m2	
補修塗装工（下・中・上塗り）	II			m2	
塗料	II		○	缶	kgでも算出すること
塗料用シンナー	II		○	缶	kgでも算出すること

「芯出し調整工」、「鋼桁孔明工」、「補強部材取付工」、「高力ボルト本締め工」、「補修塗装工（素地調整）」、「補修塗装工（下・中・上塗り）」、「塗料」、「塗料用シンナー」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と本数等を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「II」を適用する。

注) 1. 下・中・上塗りを各層で複数回塗布する場合は、回数分を計上する。
2. 塗料、塗料用シンナーの必要量が1缶未満の場合は、1缶を計上する。
3. 1缶当りの塗料の数量は規格やメーカーにより異なるため、現場毎に確認すること。

4. 数量算出方法
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

新規

注意事項

(控え頁)
1/1

工種	共同溝工(1)
----	---------

改正理由	廃止	改正 現行		
現行		改正		
<p>10章 共同溝工</p> <p>10.1 共同溝工(1)</p> <p>1. 適用</p> <div data-bbox="311 688 1332 877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>土留覆工方式及び土留開放方式による掘削深さ1.6mまでの標準部の共同溝工に適用する。 ただし、内防水施工による標準部、特殊部・換気口部および電線共同溝等の歩道に設置する簡易なものには適用しない。 なお、適用は現場打ちボックスカルバートの1層1連及び同一断面1層2連までとする。 また、本項の適用を外れる共同溝工については、共同溝工(2)を適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div data-bbox="311 961 1332 1094" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>躯体部本体コンクリート、化粧型枠、鉄筋、特殊目地材の数量を区分毎に算出する。 また、基礎砕石(敷均し厚20cm以下)、均しコンクリート、歩床部コンクリート、目地・止水板(スリップバー方式)については必要の有無を確認する。</p> </div> <p>注) 1. 鉄筋工については、「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。 2. 基礎砕石(敷均し厚20cmを超える場合)については、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工」によるものとする。 3. 目地・止水板(スリップバー方式以外の継手構造(カラー方式等))については別途考慮するものとする。 4. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編(共通編)11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。 5. 掘削工、埋戻工、防水工、防水層保護工については、共同溝工(2)によるものとする。</p> <p style="text-align: center;">3-10-2</p>		<p>削除</p>		<p>廃止</p>
注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>1/2</p>	

改正理由	廃止	改正 現行	
------	----	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

3. 区分

区分は、規格、断面とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報					備考
			規格	断面	必要性 の有無	単位	数量	
躯体部本体コンクリート		A	○	○	—	m ³	○	
基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	—	×	
	敷均し厚20cm超え	B	○	×	—	m ²	○	
均しコンクリート		C	×	×	○	—	×	
歩床部コンクリート		C	×	×	○	—	×	
目地・ 止水板	スリッパ方式	C	×	×	○	—	×	
	スリッパ方式以外	B	○	×	—	m ² 及び m	○	
化粧型枠		B	×	×	—	m ²	○	必要量計上
鉄筋		B	○	×	—	t	○	
足場		C	×	×	—	—	×	注)2

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 躯体部本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。
2. 雪寒仮囲い等の特別な足場を必要とする場合は、必要量を別途算出する。

(2) 断面区分

区分	断面	土 被 り	内空幅 : B (m)	内空高 : H (m)
①	1層1連	1.5 < DH ≤ 3.0	2.0 ≤ B < 2.5	1.5 ≤ H < 2.0
②			2.5 ≤ B < 3.5	1.5 ≤ H < 2.0
③			2.0 ≤ B < 2.5	2.0 ≤ H < 2.5
④			2.5 ≤ B < 3.5	2.0 ≤ H < 2.5
⑤			2.0 ≤ B < 2.5	2.0 ≤ H < 2.5
⑥	1層2連	3.0 < DH ≤ 5.0	2.5 ≤ B < 3.5	2.0 ≤ H < 2.5
⑦			2.0 ≤ B < 2.5	2.5 ≤ H < 3.0
⑧			2.5 ≤ B < 3.5	2.5 ≤ H < 3.0
⑨			2.0 ≤ B < 2.5	3.0 ≤ H < 4.0
⑩			2.5 ≤ B < 3.5	3.0 ≤ H < 4.0

- 注) 1層2連の場合の考え方は、以下のとおりである。
・同一断面の場合 : 1連分のB、Hで決定
・異形断面の場合 : 共同溝工(2)により別途算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。

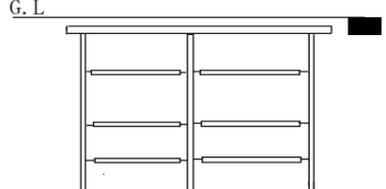
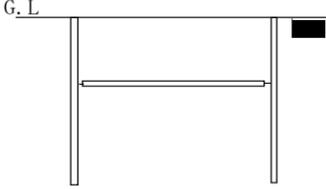
3-10-3

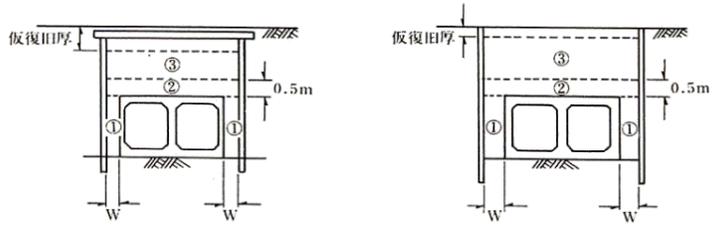
削除

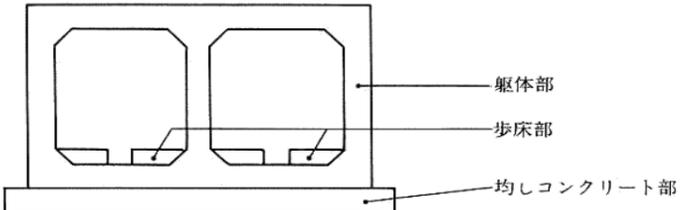
廃止

注意事項		(控え頁) 2/2
------	--	--------------

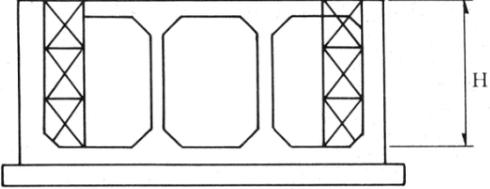
改正理由	廃止	改正 —— 現 行	
現 行		改 正	
		備 考	
<p>10.2 共同溝工(2)</p> <p>10.2.1 適用</p> <div data-bbox="278 632 1335 747" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>共同溝工(1)の適用を外れた土留覆工方式および土留開放方式による掘削深さ1.6mまでの共同溝工に適用する。 ただし、電線共同溝等の歩道に設置する簡易なものには適用しない。</p> </div> <p>10.2.2 布掘工</p> <div data-bbox="278 932 1335 1047" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>布掘工は、土留杭打込に先立ち、地下占用物件および支障物件の確認のため実施するものである。 布掘工の数量算出は、舗装版厚等も含め別途打合せるものとする。</p> </div> <p style="text-align: center;">3-10-4</p>		<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 4em; margin-right: 10px;">}</div> <div>削除</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 200px;">廃止</p>	
注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>1/10</p>

改正理由	廃止	改正 現行																								
現行		改正																								
<p>10.2.3 掘削工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>掘削土量を区分ごとに算出する。なお、コンクリート及びアスファルト舗装版の破碎については、別途「3.2 舗装版破碎工」等により算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工形態、土質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、地山土量とする。</p> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>2) 施工形態区分 施工形態による区分は、「土留覆工方式」、「土留開放方式」に区分して算出する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(土留覆工方式)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(土留開放方式)</p>  </div> </div> <p>3) 土質区分 土質区分は、「第1編(共通編)2.1土工 3.区分(2)」による。</p> <p style="text-align: center;">3-10-5</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					ブロック	施工形態	土質	単位	数量	備考	掘削	土構造	○	○	○	m ³			<p>削除</p>		<p>廃止</p>
項目	区分				3次元モデル	属性情報																				
		ブロック	施工形態	土質		単位	数量	備考																		
掘削	土構造	○	○	○	m ³																					
注意事項			(控え頁) 2/10																							

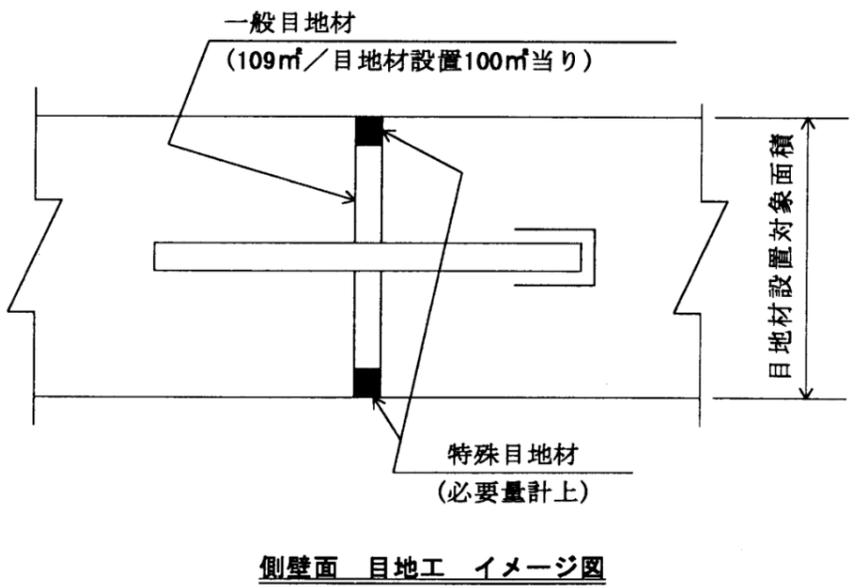
改正理由	廃止	改正 現行																				
現行		改正																				
<p>10.2.4 埋戻工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>埋戻しの土量を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工形態とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="382 871 1163 1018"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工形態</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋戻し</td> <td>土構造</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 算出する数量は、締固め後の土量とする。</p> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>2) 施工形態区分 施工形態による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>(土留覆工方式) (土留開放方式)</p>  <p>(注) 1. ①、②、③に区分し、土量を算出する。 2. $W < 0.9\text{ m}$、$W \geq 0.9\text{ m}$に区分し、土量を算出する。</p> <p>10.2.5 基礎砕石工</p> <p>基礎砕石工の数量は「第1編(共通編)9章基礎工 9.1 基礎・裏込砕石工」により算出する。</p> <p style="text-align: center;">3-10-6</p>		区分 項目	3次元 モデル	属性情報					ブロック	施工形態	単位	数量	備考	埋戻し	土構造	○	○	m ³			<p>削除</p>	
区分 項目	3次元 モデル			属性情報																		
		ブロック	施工形態	単位	数量	備考																
埋戻し	土構造	○	○	m ³																		
注意事項			(控え頁) 3/10																			

改正理由	廃止	改正 現行																																		
現行		改正																																		
<p>10.2.6 コンクリート工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>躯体部コンクリート、均しコンクリート部コンクリート、歩床部コンクリートの体積を区分ごとに算出する。</p>  <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>躯体部コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート部 コンクリート</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積(m³)を算出する。</td> </tr> <tr> <td>歩床部コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>1) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>3-10-7</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	備考	躯体部コンクリート	A	○	○	m ³			均しコンクリート部 コンクリート	B	○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。	歩床部コンクリート	A	○	○	m ³			<p>削除</p>	
項目	区分				3次元モデル	属性情報																														
		ブロック	規格	単位		数量	備考																													
躯体部コンクリート	A	○	○	m ³																																
均しコンクリート部 コンクリート	B	○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積(m ³)を算出する。																														
歩床部コンクリート	A	○	○	m ³																																
注意事項			備考 廃止 (控え頁) 4/10																																	

改正理由	廃止	改正 現行																																				
現行		改正																																				
<p>10.2.7 型枠工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>型枠の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロックとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>構造物種別</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">型 枠</td> <td>B</td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="4"></td> <td>一般型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>均し基礎コンクリート型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>養生しない埋設型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>歩床部型枠</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 化粧型枠がある場合は区分する。 2. 歩床部型枠数量については、排水溝延長とする。</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>10.2.8 鉄筋工</p> <p>鉄筋の数量は、「第1編(共通編)4章コンクリート工 4.3.1 鉄筋工」により算出する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	構造物種別	単位	数量	備考	型 枠	B	○		一般型枠	m ²		注) 1	B	均し基礎コンクリート型枠	m ²			B	養生しない埋設型枠	m ²			B	歩床部型枠	m		注) 2	<p>削除</p>	
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																
		ブロック	構造物種別	単位		数量	備考																															
型 枠	B	○		一般型枠	m ²		注) 1																															
	B			均し基礎コンクリート型枠	m ²																																	
	B			養生しない埋設型枠	m ²																																	
	B			歩床部型枠	m		注) 2																															
注意事項			(控え頁) 5/10																																			

改正理由	廃止	改正 現行																	
現 行		改 正																	
<p>10.2.9 足場工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>足場の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工11.4足場工」により算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロックとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足 場</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記によるものとする。</p> <p>(1) 一般部については、「第1編（共通編）11章仮設工 11.4 足場工」により算出する。</p> <p>(2) 側部内防水工箇所については、枠組足場を標準とし、下記のとおり算出する。</p>  <p>$A = 2 \times H \times l$ A : 足場工面積 (掛m²) l : 延長 (m)</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			ブロック	単 位	数 量	備 考	足 場	B	○	掛m ²			<p>削除</p>	
項目	区分				3次元 モデル	属性情報													
		ブロック	単 位	数 量		備 考													
足 場	B	○	掛m ²																
<p>10.2.10 支保工</p> <p>支保の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工 11.5 支保工」により算出する</p>																			
注意事項			(控え頁) 6/10																

改正理由	廃止	改正 現行																																																																						
現行		改正																																																																						
<p>10.2.11 伸縮継手工、カラー継手工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>伸縮継手工の止水板、目地材、スリップバー及びカラー継手工のコンクリート、型枠、鉄筋、目地材の数量を算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1) 伸縮継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>止水板</td> <td>B</td> <td></td> <td rowspan="3">○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スリップバー</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>2) カラー継手工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td></td> <td rowspan="4">○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>B</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 目地材 特殊目地材については、必要量を別途算出する。</p> <p>3-10-10</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	備考	止水板	B		○	○	m		目地材	B		○	m ²		スリップバー	B		○	本		項目	区分	3次元モデル	属性情報				ブロック	規格	単位	数量	備考	コンクリート	A		○	○	m ³		型枠	B		○	m ²		鉄筋	B		○	t		目地材	B		○	m ²		<p>削除</p>		備考
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																																																		
		ブロック	規格	単位		数量	備考																																																																	
止水板	B		○	○	m																																																																			
目地材	B			○	m ²																																																																			
スリップバー	B			○	本																																																																			
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																					
			ブロック	規格	単位	数量	備考																																																																	
コンクリート	A		○	○	m ³																																																																			
型枠	B			○	m ²																																																																			
鉄筋	B			○	t																																																																			
目地材	B			○	m ²																																																																			
注意事項			(控え頁) 7/10																																																																					

改正理由	廃止	改正 現行	
現行	改正		備考
<p>(参考図)</p>  <p>3-10-11</p>	<p>削除</p>		<p>廃止</p>
<p>注意事項</p>			<p>(控え頁) 8/10</p>

改正理由	廃止	改正 現行																																																														
現 行		改 正																																																														
<p>10.2.12 防水工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>防水の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工箇所、種別、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="7">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工箇所</th> <th>種 別</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">防 水</td> <td>B</td> <td rowspan="6">○</td> <td rowspan="3">一般部 ・ 換気部</td> <td>底頂部</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td rowspan="2">側 部</td> <td>内防水</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>外防水</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td rowspan="3">特殊部</td> <td>底頂部</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td rowspan="2">側 部</td> <td>内防水</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>外防水</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 一般部とは、共同溝の標準的な断面部のブロックをいう。 換気部とは、構内の温度及び湿度の調整並びに有毒ガスの排除を目的とした、強制換気口又は自然換気口等のブロックをいう。 特殊部とは、支線の分岐箇所、ケーブルのジョイントホール、敷設物件の導入用入孔及び搬入口等のブロックをいう。 2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p> <p style="text-align: center;">3-10-12</p>		区分 項目	3次元 モデル	属 性 情 報							ブロック	施工箇所	種 別	規 格	単 位	数 量	備 考	防 水	B	○	一般部 ・ 換気部	底頂部	—	○	m ²			B	側 部	内防水	○	m ²			B	外防水	○	m ²			B	特殊部	底頂部	—	○	m ²			B	側 部	内防水	○	m ²			B	外防水	○	m ²			<p style="text-align: center;">削除</p>		備 考
区分 項目	3次元 モデル			属 性 情 報																																																												
		ブロック	施工箇所	種 別	規 格	単 位	数 量	備 考																																																								
防 水	B	○	一般部 ・ 換気部	底頂部	—	○	m ²																																																									
	B			側 部	内防水	○	m ²																																																									
	B				外防水	○	m ²																																																									
	B		特殊部	底頂部	—	○	m ²																																																									
	B			側 部	内防水	○	m ²																																																									
	B				外防水	○	m ²																																																									
注意事項			(控え頁) 9/10																																																													

改正理由	廃止	改正 現行																																							
現行		改正	備考																																						
<p>10.2.13 防水層保護工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>防水層保護の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、ブロック、施工箇所、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> </tr> <tr> <th>ブロック</th> <th>施工箇所</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防水層保護</td> <td rowspan="4">B</td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>一般部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>換気部</td> <td>側部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○</td> <td>特殊部</td> <td>底頂部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>側部</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注) 1. 施工箇所の定義については、「10.2.12防水工」による。 2. 継手構造がカラー継手の場合は、施工箇所区分にしたがってカラー部を計上する。</p> <p>(2) ブロック区分 ブロックごとに区分して算出する。</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報					ブロック	施工箇所	規格	単位	数量	備考	防水層保護	B	○	○	一般部	底頂部	○	m ²		換気部	側部	○	m ²		○	特殊部	底頂部	○	m ²		側部	○	m ²		削除	廃止
項目	区分				3次元モデル	属性情報																																			
		ブロック	施工箇所	規格		単位	数量	備考																																	
防水層保護	B	○	○	一般部	底頂部	○	m ²																																		
				換気部	側部	○	m ²																																		
			○	特殊部	底頂部	○	m ²																																		
				側部	○	m ²																																			
注意事項			(控え頁) 10/10																																						

